

令和2年度

授業要綱

(第3学年)

福岡歯科大学

目 次

【前期】

時 間 割	【区分】	科目番号	
口 腔 組 織 学	【講義】	OD031102	1
生 体 構 造 学 実 習 I (口 腔 組 織 系)	【実習】	OD031113	4
口 腔 生 理 学	【講義】	OD031103	7
細胞分子生物学実習Ⅱ (生理・薬理系)	【実習】	OD031111	9
口 腔 生 化 学	【講義】	OD031105	12
機 能 生 物 化 学 実 習 Ⅱ (細 菌 系)	【実習】	OD031112	15
口 腔 病 理 学	【講義】	OD031107	17
生 体 構 造 学 実 習 Ⅱ (病 理 系)	【実習】	OD031114	20
口 腔 保 健 学 Ⅱ	【講義】	OD031201	22
齲 蝕 学 I	【講義】	OD031203	24
顎 口 腔 機 能 学	【講義】	OD031207	27
内 科 学 I	【講義】	OD031313	29
隣 接 医 学 I (小 児 科)	【講義】	OD031311C	32
隣 接 医 学 I (形 成・美 容)	【講義】	OD031311D	34
隣 接 医 学 I (皮 膚 科)	【講義】	OD031311A	36
隣 接 医 学 I (産 婦 人 科)	【講義】	OD031311B	37

【後期】

時 間 割			
課 題 解 決 演 習 Ⅱ	【演習】	OD031001	39
臨 床 薬 理 学	【講義】	OD031115	42
基 礎 研 究 演 習	【演習】	OD031110	45
社 会 歯 科 学	【講義】	OD031116	47
医 事 法 制	【講義】	OD031117	49
口 腔 保 健 学 実 習	【実習】	OD031213	51
地 域 医 療・災 害 口 腔 医 学	【演習】	OD031214	53
齲 蝕 学 Ⅱ	【講義】	OD031215	58
歯 内 療 法 学	【講義】	OD031204	61
歯 周 治 療 学 I	【講義】	OD031205	64
冠 橋 義 歯 学 I	【講義】	OD031206	68

	【区分】	科目番号		
歯冠修復基礎実習	【実習】	OD031208		70
有床義歯補綴学Ⅰ	【講義】	OD031210		72
小児歯科学Ⅰ	【講義】	OD031211		75
歯科矯正学Ⅰ	【講義】	OD031212		77
介護実習	【実習】	OD031209		80
内科学Ⅱ	【講義】	OD031314		82
隣接医学Ⅱ（整形）	【講義】	OD031312B		85
隣接医学Ⅱ（泌尿器）	【講義】	OD031312D		86
隣接医学Ⅱ（耳鼻科）	【講義】	OD031312C		87
隣接医学Ⅱ（眼科）	【講義】	OD031312A		88
臨床栄養学	【講義】	OD031310		90

前期

令和2年度 授業時間割表 【第3学年】

(前期)

3年生		5	25	25	23	20	10	25	25	25	25	25
月曜日	時間		4月6日	4月13日	4月20日	4月27日	5月4日	5月11日	5月18日	5月25日	6月1日	6月8日
1限目	(9:00-10:20)		口腔病理学-1 701	口腔病理学-3 701	口腔病理学-5 701	口腔病理学-7 701	みどりの日	口腔病理学-9 701	口腔病理学-11 701	口腔病理学-13 701	口腔病理学-15 701	口腔病理学-19 701
2限目	(10:35-11:55)		口腔病理学-2 701	口腔病理学-4 701	口腔病理学-6 701	口腔病理学-8 701		口腔病理学-10 701	口腔病理学-12 701	口腔病理学-14 701	口腔病理学-16 701	口腔病理学-20 701
3限目	(13:00-14:20)		口腔組織学-1 情報処理実習室	口腔組織学-2 情報処理実習室	口腔組織学-3 情報処理実習室	口腔組織学-5 情報処理実習室		口腔組織学-6 情報処理実習室	口腔組織学-7 情報処理実習室	口腔組織学-8 情報処理実習室	口腔組織学-9 情報処理実習室	口腔組織学-10 情報処理実習室
4限目	(14:35-15:55)		生体構造学実習 Ⅰ-1 (口腔組織系) 802	生体構造学実習 Ⅰ-3 (口腔組織系) 802	生体構造学実習 Ⅰ-5 (口腔組織系) 802	生体構造学実習 Ⅰ-9 (口腔組織系) 802		生体構造学実習 Ⅰ-11 (口腔組織系) 802	生体構造学実習 Ⅰ-13 (口腔組織系) 802	生体構造学実習 Ⅰ-15 (口腔組織系) 802	生体構造学実習 Ⅰ-17 (口腔組織系) 802	生体構造学実習 Ⅰ-19 (口腔組織系) 802
5限目	(16:10-17:30)		生体構造学実習 Ⅰ-2 (口腔組織系) 802	生体構造学実習 Ⅰ-4 (口腔組織系) 802	生体構造学実習 Ⅰ-6 (口腔組織系) 802	生体構造学実習 Ⅰ-10 (口腔組織系) 802		生体構造学実習 Ⅰ-12 (口腔組織系) 802	生体構造学実習 Ⅰ-14 (口腔組織系) 802	生体構造学実習 Ⅰ-16 (口腔組織系) 802	生体構造学実習 Ⅰ-18 (口腔組織系) 802	生体構造学実習 Ⅰ-20 (口腔組織系) 802

3年生												
火曜日	時間		4月7日	4月14日	4月21日	4月28日	5月5日	5月12日	5月19日	5月26日	6月2日	6月9日
1限目	(9:00-10:20)		細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-1 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-6 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-11 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-16 401	こどもの日	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-21 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-26 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-31 401	口腔病理学-17 701	口腔病理学-21 701
2限目	(10:35-11:55)		細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-2 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-7 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-12 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-17 401		細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-22 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-27 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-32 401	口腔病理学-18 701	口腔病理学-22 701
3限目	(13:00-14:20)		細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-3 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-8 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-13 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-18 401		細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-23 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-28 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-33 401	生体構造学 実習Ⅱ-19(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-23(病理系) 802
4限目	(14:35-15:55)		細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-4 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-9 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-14 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-19 401		細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-24 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-29 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-34 401	生体構造学 実習Ⅱ-20(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-26(病理系) 802
5限目	(16:10-17:30)		細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-5 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-10 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-15 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-20 401		細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-25 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-30 401	細胞分子生物学実習 Ⅱ (生理・薬理系)-35 401	生体構造学 実習Ⅱ-21(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-27(病理系) 802

3年生												
水曜日	時間	4月1日	4月8日	4月15日	4月22日	4月29日	5月6日	5月13日	5月20日	5月27日	6月3日	6月10日
1限目	(9:00-10:20)	オリエンテーション	顎口腔機能学-1 701	顎口腔機能学-2 701	顎口腔機能学-3 701	昭和の日	振替休日	顎口腔機能学-4 701	顎口腔機能学-5 701	顎口腔機能学-6 701	顎口腔機能学-7 701	顎口腔機能学-8 701
2限目	(10:35-11:55)		口腔生理学-1 701	口腔生理学-2 701	口腔生理学-3 701			口腔生理学-4 701	口腔生理学-5 701	口腔生理学-6 701	口腔生理学-7 701	口腔生理学-8 701
3限目	(13:00-14:20)		生体構造学 実習Ⅱ-1(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-4(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-7(病理系) 802			生体構造学 実習Ⅱ-10(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-13(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-16(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-22(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-26(病理系) 802
4限目	(14:35-15:55)	交通安全教室	生体構造学 実習Ⅱ-2(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-5(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-8(病理系) 802			生体構造学 実習Ⅱ-11(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-14(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-17(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-23(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-27(病理系) 802
5限目	(16:10-17:30)		生体構造学 実習Ⅱ-3(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-6(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-9(病理系) 802			生体構造学 実習Ⅱ-12(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-15(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-18(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-24(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-30(病理系) 802

3年生													
木曜日	時間		4月2日	4月9日	4月16日	4月23日	4月30日	5月7日	5月14日	5月21日	5月28日	6月4日	6月11日
1限目	(9:00-10:20)	口腔保健学Ⅱ-1 701	口腔保健学Ⅱ-3 701	口腔保健学Ⅱ-5 701	口腔保健学Ⅱ-7 701	口腔保健学Ⅱ-9 701	口腔保健学Ⅱ-10 701	口腔保健学Ⅱ-11 701	口腔保健学Ⅱ-12 701	口腔保健学Ⅱ-13 701	口腔保健学Ⅱ-14 701	口腔保健学Ⅱ-14 701	口腔保健学Ⅱ-15 701
2限目	(10:35-11:55)	口腔保健学Ⅱ-2 701	口腔保健学Ⅱ-4 701	口腔保健学Ⅱ-6 701	口腔保健学Ⅱ-8 701	口腔生化学-5 701	口腔生化学-7 701	口腔生化学-9 701	口腔生化学-11 701	口腔生化学-13 701	口腔生化学-15 701	口腔生化学-17 701	口腔生化学-17 701
3限目	(13:00-14:20)	口腔生化学-1 701	口腔生化学-2 701	口腔生化学-3 701	口腔生化学-4 701	口腔生化学-6 701	口腔生化学-8 701	口腔生化学-10 701	口腔生化学-12 701	口腔生化学-14 701	口腔生化学-16 701	口腔生化学-16 701	隣接医学Ⅰ-11 (皮膚科-1) 701
4限目	(14:35-15:55)	隣接医学Ⅰ-1(小 児科-1) 701	隣接医学Ⅰ-2(小 児科-2) 701	隣接医学Ⅰ-3 (小児科-3) 701	隣接医学Ⅰ-4(小 児科-4) 701	隣接医学Ⅰ-5(小 児科-5) 701	隣接医学Ⅰ-6(小 児科-6) 701	隣接医学Ⅰ-7(小 児科-7) 701	隣接医学Ⅰ-8(形 成・美容-1) 701	隣接医学Ⅰ-9(形 成・美容-2) 701	隣接医学Ⅰ-10 (形成・美容-3) 701		
5限目	(16:10-17:30)	歯科学Ⅰ-1 701	歯科学Ⅰ-2 701	歯科学Ⅰ-3 701	歯科学Ⅰ-4 701	歯科学Ⅰ-5 701	歯科学Ⅰ-6 701	歯科学Ⅰ-8 701	歯科学Ⅰ-10 701	歯科学Ⅰ-12 701			

3年生													
金曜日	時間		4月3日	4月10日	4月17日	4月24日	5月1日	5月8日	5月15日	5月22日	5月29日	6月5日	6月12日
1限目	(9:00-10:20)	第1学年 入学式 オリエンテーション	内科学-1 701	内科学-3 701	健康診断	内科学-5 701	内科学-7 701	内科学-8 701	内科学-9 701	内科学-10 701	内科学-11 701	内科学-12 701	内科学-12 701
2限目	(10:35-11:55)		内科学-2 701	内科学-4 701		内科学-6 701	歯科学Ⅰ-7 701	歯科学Ⅰ-9 701	歯科学Ⅰ-11 701	歯科学Ⅰ-13 701	歯科学Ⅰ-14 701	歯科学Ⅰ-15 701	歯科学Ⅰ-15 701
3限目	(13:00-14:20)		機能生物化学 実習Ⅱ-1(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-4(細菌系) 702	口腔組織学-4 情報処理実習室	機能生物化学 実習Ⅱ-7(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-10(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-13(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-16(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-19(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-22(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-26(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-28(細菌系) 702
4限目	(14:35-15:55)		機能生物化学 実習Ⅱ-2(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-5(細菌系) 702	生体構造学実習 Ⅰ-7 (口腔組織系) 802	機能生物化学 実習Ⅱ-8(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-11(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-14(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-17(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-20(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-23(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-27(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-29(細菌系) 702
5限目	(16:10-17:30)		機能生物化学 実習Ⅱ-3(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-6(細菌系) 702	生体構造学実習 Ⅰ-8 (口腔組織系) 802	機能生物化学 実習Ⅱ-9(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-12(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-15(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-18(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-21(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-24(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-28(細菌系) 702	機能生物化学 実習Ⅱ-30(細菌系) 702

25	25	25	5						
6月15日	6月22日	6月29日	7月6日	7月13日	7月20日	7月27日	8月3日	8月10日	8月17日
口腔病理学-23 701	口腔病理学-27 701	口腔病理学-29 701	口腔組織学-15 情報処理実習室	定期試験(予定)	定期試験(予定)	学園記念日		山の日	
口腔病理学-24 701	口腔病理学-28 701	口腔病理学-30 701	生体構造学実習 I-28 (口腔組織系) 802						
口腔組織学-11 情報処理実習室	口腔組織学-12 情報処理実習室	口腔組織学-14 情報処理実習室	生体構造学実習 I-29 (口腔組織系) 802						
生体構造学実習 I-21 (口腔組織系) 802	生体構造学実習 I-23 (口腔組織系) 802	生体構造学実習 I-26 (口腔組織系) 802	生体構造学実習 I-30 (口腔組織系) 802						
生体構造学実習 I-22 (口腔組織系) 802	生体構造学実習 I-24 (口腔組織系) 802	生体構造学実習 I-27 (口腔組織系) 802							

6月16日	6月23日	6月30日	7月7日	7月14日	7月21日	7月28日	8月4日	8月11日	8月18日	8月25日
口腔生理学-9 701	口腔生理学-11 701	口腔生理学-13 701	口腔生理学-15 701	定期試験(予定)	定期試験(予定)					
顎口腔機能学-9 701	顎口腔機能学-11 701	顎口腔機能学-13 701	顎口腔機能学-15 701							
口腔病理学-25 701	口腔保健学Ⅱ-17 701		生体構造学実習 I-31 (口腔組織系) 802							
口腔病理学-26 701	口腔組織学-13 情報処理実習室		生体構造学実習 I-32 (口腔組織系) 802							
	生体構造学実習 I-25 (口腔組織系) 802									

6月17日	6月24日	7月1日	7月8日	7月15日	7月22日	7月29日	8月5日	8月12日	8月19日	8月26日
顎口腔機能学-10 701	顎口腔機能学-12 701	顎口腔機能学-14 701		定期試験(予定)	定期試験(予定)					
口腔生理学-10 701	口腔生理学-12 701	口腔生理学-14 701								
生体構造学 実習Ⅱ-31(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-34(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-37(病理系) 802								
生体構造学 実習Ⅱ-32(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-35(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-38(病理系) 802								
生体構造学 実習Ⅱ-33(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-36(病理系) 802	生体構造学 実習Ⅱ-39(病理系) 802								

6月18日	6月25日	7月2日	7月9日	7月16日	7月23日	7月30日	8月6日	8月13日	8月20日	8月27日
口腔保健学Ⅱ-16 701	口腔保健学Ⅱ-18 701	生体構造学 実習Ⅱ-40(病理系) 802		定期試験(予定)	海の日					
口腔生化学-18 701	口腔生化学-19 701	生体構造学 実習Ⅱ-41(病理系) 802								
隣接医学Ⅰ-13 (皮膚科-2) 701	隣接医学Ⅰ-15 (皮膚科-3) 701	生体構造学 実習Ⅱ-42(病理系) 802								
隣接医学Ⅰ-12 (産婦人科-1) 701	隣接医学Ⅰ-14 (産婦人科-2) 701	隣接医学Ⅰ-16 (産婦人科-3) 701								

6月19日	6月26日	7月3日	7月10日	7月17日	7月24日	7月31日	8月7日	8月14日	8月21日	8月28日
内科学-13 701	内科学-14 701	内科学-15 701	定期試験(予定)	定期試験(予定)	スポーツの日					
齶蝕学Ⅰ-16 701	齶蝕学Ⅰ-17 701	齶蝕学Ⅰ-18 701								
		生体構造学 実習Ⅱ-43(病理系) 情報処理実習室								
		生体構造学 実習Ⅱ-44(病理系) 情報処理実習室								
		生体構造学 実習Ⅱ-45(病理系) 情報処理実習室								

口腔組織学 【講義】

科目番号 OD031102

前期：15コマ

評価責任者：稲井哲一朗

担当教員：稲井哲一朗、児玉 淳、北河憲雄、大谷崇仁、緒方佳代子、林 慶和

（一般目標）

生物学ならびに組織学総論・各論の理解のもとに、歯・歯周組織の発生、歯の硬組織、歯髄、歯周組織、舌、口腔粘膜、唾液腺、顎関節などの口腔の組織学的特性を学習し、口腔病理学および臨床科目の履修に必要なそれぞれの組織構造を理解する。さらに、口腔と連絡する呼吸器系、消化器系、および扁桃を含むリンパ系の組織学的特性および組織構造を理解する。

（教育方法）

教科書を中心に、板書、プリント、写真、スライド、e-learningシステム(Moodle)などを用いて講義する。

（実習・演習）

（学習方法）

シラバスを読んで講義内容を確認し、e-learning(Moodle)の資料や問題、教科書を使って予習する。復習は、講義ノートを見直して不明な点がないかを確認する。総合学力試験の範囲は全授業の行動目標とする。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：15.0 時間】

（評価）

定期試験（100%）で評価する。

定期試験の解説・結果については試験終了後、公表可能な範囲で総評と合わせて行う。

（教科書）

①磯川桂太郎ほか、「カラーアトラス 口腔組織発生学（第4版）」、わかば出版
図が豊富で理解しやすい。

②牛木辰男、「入門組織学(改訂第2版)」、南江堂
組織学の入門書として定評がある。

（参考書）

脇田稔ほか、「口腔組織・発生学」、医歯薬出版

川崎堅三ほか、「Ten Cate 口腔組織学（第6版）」、医歯薬出版

磯川桂太郎ほか、「組織学・口腔組織学（第4版）」、わかば出版

澤田 元ほか、「機能を中心とした 図説組織学（第5版）」、医学書院

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/6	稲井	【ユニット1】歯と歯周組織の発生	歯と歯周組織の発生を理解する。	歯堤、歯胚（三原基：エナメル器、歯乳頭、歯小囊）を説明する。	Ⅲ-7	認知（解釈）	教科書①「第3編 歯の発生」（21～32ページ）「第4編 歯と歯周組織の構成」（33～36ページ）「第12編 歯の萌出と脱落」（97～101ページ）教科書②「第10章 消化器系・3歯と歯周組織」（158～164ページ）	1.0
					歯胚を蕾状期、帽状期、鐘状期に分類する。	Ⅲ-7	認知（解釈）		
					硬組織（象牙質・エナメル質・セメント質）の形成を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		
					歯根の形成（Hertwig上皮鞘）と歯の萌出を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		
2	4/13	稲井	【ユニット2】エナメル質	エナメル質の性状と構造を理解する。	エナメル質の物理・化学的性状と組織構造を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）	教科書①「第7編 エナメル質の発生と微細構造」（57～71ページ）	1.0
					エナメル質の成長線を列記する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		
					Hunter-Schreger条を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		
					エナメル質に見られる構造（エナメル葉、エナメル叢、エナメル紡錐）を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
3	4/20	稲井	【ユニット3】象牙質・歯髄複合体①	象牙質の性状と構造を理解する。歯髄の組織構築を理解する。(1)	象牙質の物理・化学的性状と組織構造を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）	教科書①「第5編 象牙質」(37～50ページ)「第6編 歯髄の発生と微細構造」(51～55ページ)	1.0
					象牙質の成長線を列記する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		
					外套象牙質、髄周象牙質、管間象牙質、管周象牙質を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		
					象牙質の石灰化様式（添加性石灰化、球状石灰化、板状石灰化、鐘状石灰化）を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		
4	4/24	稲井	【ユニット3】象牙質・歯髄複合体②	象牙質の性状と構造を理解する。歯髄の組織構築を理解する。(2)	一次、二次、三次象牙質を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）	教科書①「第5編 象牙質」(37～50ページ)「第6編 歯髄の発生と微細構造」(51～55ページ)	1.0
					象牙質に見られる構造（球間区、球間網、Tomes顆粒層、透明象牙質、死帯）を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		
					歯髄に見られる細胞と、歯根部歯髄表層の3層構造を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		
					Raschkowの神経叢を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		
5	4/27	稲井	【ユニット4】セメント質	歯根の発生と、セメント質の性状と構造を理解する。	歯根の発生、Hertwig上皮鞘、Malassez上皮遺残を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）	教科書①「第8編 セメント質の発生と微細構造」(73～78ページ)	1.0
					セメント質の物理・化学的性状と組織構造を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		
					セメント質の成長線を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		
6	5/11	稲井	【ユニット5】歯根膜	歯根膜の組織構築を理解する。(1)	歯根膜の組織構築（特に、歯根膜存在する細胞）を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）	教科書①「第9編 歯根膜の発生と微細構造」(79～86ページ)	1.0
					歯根膜の線維（歯根膜主線維、オキシタン線維）を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		
7	5/18	稲井	【ユニット6】歯槽骨	歯槽骨の組織構築を理解する。(2)	皮質骨と海綿骨の構造を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）	教科書①「第2編 顎骨および顎関節の発生と微細構造」(11～20ページ)「第10編 歯槽骨の発生と微細構造」(87～90ページ)	1.0
					固有歯槽骨と支持歯槽骨の違いを説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		
					Sharpey線維を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		
8	5/25	稲井	【ユニット7】皮膚、口腔粘膜	口腔粘膜（咀嚼粘膜、被覆粘膜、特殊粘膜）の組織構築を理解する。(1)	皮膚と口腔粘膜の違いを説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）	教科書①「第13編 口腔粘膜の発生と微細構造」(103～111ページ)教科書②「第10章 消化器系 2口腔」(149～151ページ)「第16章 皮膚」(295～312, 315～317ページ)	1.0
					咀嚼粘膜、被覆粘膜、特殊粘膜を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		
					軟口蓋、硬口蓋の組織構築を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		
					口唇、頬の組織構築を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		
9	6/1	稲井	【ユニット7】歯肉、舌	口腔粘膜（咀嚼粘膜、被覆粘膜、特殊粘膜）の組織構築を理解する。(2)	歯肉の組織構築を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）	教科書①「第11編 歯肉の発生と微細構造」(91～95ページ)「第13編 口腔粘膜の発生と微細構造」(103～111ページ)教科書②「第10章 消化器系 2口腔」(151～154ページ)	1.0
					舌（特に舌乳頭）の組織構築を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
10	6/8	稲井	【ユニット8】唾液腺、顎関節、上顎洞	唾液腺の組織構築を理解する。顎関節、上顎洞の組織構築を理解する。	大唾液腺、小唾液腺を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）	教科書①「第2編 顎骨および顎関節の発生と微細構造」（11～20ページ）「第14編 唾液腺（口腔腺）の発生と微細構造」（113～118ページ）教科書②「第10章 消化器系・2口腔・C唾液腺」（154～158ページ）「第11章 呼吸器系・1鼻腔と副鼻腔」（199～200ページ）	1.0
					唾液腺の組織構築を説明する。	Ⅲ-1	認知（解釈）		
					顎関節、上顎洞の組織構築を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		
11	6/15	稲井	【ユニット9】呼吸器系	呼吸器系を構成する器官と組織構築を理解する。	鼻腔、副鼻腔の組織構築を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）	教科書②「第11章 呼吸器系」（199～210ページ）	1.0
					喉頭、気管、気管支の組織構築を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		
					肺の組織構築を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
12	6/22	稲井	【ユニット9】消化器系（咽頭、食道、胃）	消化管を構成する器官と組織構築を理解する。(1)	消化管の四層構造を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）	教科書②「第10章 消化器系」（147～149, 164～172ページ）	1.0
					咽頭、食道の組織構築を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
					胃の組織構築を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
13	6/23	稲井	【ユニット9】消化器系（小腸、大腸）	消化管を構成する器官と組織構築を理解する。(2)	小腸の組織構築を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）	教科書②「第10章 消化器系」（172～183ページ）	1.0
					大腸の組織構築を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
14	6/29	稲井	【ユニット9】消化腺（肝臓、膵臓）	消化腺とその組織構築を理解する。	肝臓、胆嚢の組織構築（特に、肝小葉）を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）	教科書②「第10章 消化器系」（183～198ページ）	1.0
					膵臓の組織構築を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
15	7/6	稲井	【ユニット9】リンパ系	リンパ性器官を構成する器官と組織構築を理解する。 * 唾液腺は第10回講義で学習済み。	一次リンパ器官と二次リンパ器官を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）	教科書①「第15編 扁桃の発生と微細構造」（119～122ページ）教科書②「第9章 リンパ性器官」（133～146ページ）	1.0
					扁桃、パイエル板を含む粘膜関連リンパ組織（MALT）を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		
					胸腺の組織構築を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
					リンパ節の組織構築を説明する。	Ⅲ-6	認知（解釈）		
					脾臓の組織構築を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		

生体構造学実習Ⅰ（口腔組織系）【実習】

科目番号 0D031113

前期：32コマ

評価責任者：稲井哲一郎

担当教員：稲井哲一郎、朔 敬、児玉 淳、北河憲雄、大谷崇仁、緒方佳代子、林 慶和

（一般目標）

ヒトの身体を構成しているさまざまな細胞、組織、器官の観察を通して、その構造と機能を学習する。この実習では、歯科医師として必要な歯、歯周組織、口腔粘膜、口腔に関連する組織・器官の正常な組織構造を理解する。

（教育方法）

毎実習開始時に最低限必要な知識の理解度確認（小テスト等）を行う。予習、教員によるポイント説明、配布資料、eラーニングを参考に各組織の特徴的構造を理解した上で観察を進める。その後、確認した細胞、組織の判別基準が復習できる様にスケッチを行う。スケッチは毎実習ごと、および各領域ごとに教員が評価する。【実習には学内LAN設定をした機器（PC、タブレット端末、スマホ等）、e-learningのIDとパスワードが必要です。】

（ディスカッション・ディベート）（グループワーク）（プレゼンテーション）（実習・演習）

（学習方法）

【予習方法】教科書と「スケッチ指針、e実習書（e-learning [作って教材] の「生体構造学実習Ⅰ」コース内に登録済み）を読み、観察項目の構造、関連知識を整理する。理解度によっては、3年次科目だけでなく、1～2年次の解剖・生理・組織・発生系科目、歯の解剖学等の復習が必要となる。各標本には多数の組織が含まれる。そのため、観察前に目的の細胞・組織の位置関係、特徴的構造を理解しておく必要がある。

【復習方法】教科書、スケッチブック、配布資料を用いて、組織の判別基準が理解できているか復習する。

【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 26.0 時間】

（評 価）

試験（実習試験が80%）と授業態度（スケッチ、実習課題、出欠を含む実習態度が20%）の合計点で判定する。実習試験は試験後に結果を掲示する。実習課題は終了後に解説をする。

（教 科 書）

①磯川桂太郎ほか、「カラーアトラス 口腔組織発生学（第4版）」、わかば出版

②牛木辰男、「入門組織（改訂第2版）」、南江堂

（参 考 書）

磯川桂太郎ほか、「組織学・口腔組織学（第4版）」、わかば出版

澤田 元ほか、「機能を中心とした 図説組織学（第5版）」、医学書院

川崎堅三ほか、「Ten Cate 口腔組織学（第6版）」、医歯薬出版

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/6	稲井、朔、児玉、北河、大谷、緒方、林	【ユニット1】顔面および歯の発生①	実習の進め方を理解する。顕微鏡の使い方、HE染色、解剖学的方向用語を理解する。胎児の顔面の組織構造を理解する。歯の基本的な構造を理解する。	顕微鏡、標本を確認する。	Ⅲ-7	認知（想起）	教科書①「第1編 顔面と口腔の発生」（7～10ページ）	1] 1.0
2	4/6				胎児の顔面（Meckel軟骨、下顎骨の発生、唾液腺の発生、歯胚）を描き説明する。	Ⅲ-7	認知（想起）	「第2編 顎骨および顎関節の発生と微細構造」（11～17ページ）「第4編 歯と歯周組織の構成」（33～36ページ）教科書②「第4章 支持組織・3骨組織」（61～67ページ）「第10章 消化器系・3歯と歯周組織」（158～161ページ）	2] 1.0
					歯の硬組織（エナメル質・象牙質・セメント質）を描き位置関係を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
3	4/13	稲井、朔、児玉、北河、大谷、緒方、林	【ユニット1】顔面および歯の発生②	胎児の顔面と歯の発生を理解する。	蕾状期、帽状期、鐘状期、歯胚を描き説明する。	Ⅲ-7	認知（想起）	[3回]教科書①「第3編 歯の発生」（20～32ページ）教科書②「第10章 消化器系・3歯と歯周組織・D歯の発生」（161～164ページ）	3] 1.0
4	4/13				硬組織形成期（象牙芽細胞と象牙質の形成、エナメル芽細胞とエナメル質の形成、Hertwig上皮鞘、歯根膜、歯槽骨の発生）を描き説明する。	Ⅲ-7	認知（想起）		4] 1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
5 6	4/20	稲井、朔、 児玉、北河、大谷、 緒方、林	【ユニット2】エナメル質	エナメル質の組織構造を理解する。	エナメル小柱、小柱間質、小柱鞘の構造と走行を描き説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書①「第7編 エナメル質の発生と微細構造」（57～71ページ）	5] 1.0 6] 1.0
	4/20				エナメル質の成長線（横紋、Retzius条、周波条）を描き説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					Hunter-Schreger条を描き説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					エナメル質にみられる構造（エナメル叢、エナメル葉、エナメル紡錘、単純突起）を描き説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					新産線を描き説明する（教科書より）。	Ⅲ-6	認知（想起）		
7 8	4/24	稲井、朔、 児玉、北河、大谷、 緒方、林	【ユニット3】象牙質・歯髄①	象牙質の組織構造を理解する。（1）	エナメル-象牙境を描き説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書①「第5編 象牙質の発生と微細構造」（37～50ページ）「第6編 歯髄の発生と微細構造」（51～55ページ）	7] 1.0 8] 1.0
	4/24				象牙細管の走行、細管の終枝、側枝と象牙細管の横断（管周象牙質、管間象牙質、象牙線維）を描き説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					成長線（Oweniの外形線、Ebnerの成長線、石灰化条）を描き説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					象牙質の構造（球間区、球間網、Tomes顆粒層）を描き説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
9 10	4/27	稲井、朔、 児玉、北河、大谷、 緒方、林	【ユニット3】象牙質・歯髄②	象牙質の組織構造を理解する。（2）	象牙質の構造（透明象牙質、死帯、第二象牙質）を描き説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書①「第5編 象牙質の発生と微細構造」（37～50ページ）「第6編 歯髄の発生と微細構造」（51～55ページ）	9] 1.0 10] 1.0
	4/27				歯髄の細胞〔象牙芽細胞、線維芽細胞、（歯髄細胞）〕、歯冠部歯髄の層構造、Korff線維、Raschkowの神経叢を描き説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
11 12	5/11	稲井、朔、 児玉、北河、大谷、 緒方、林	【ユニット4】歯周組織（セメント質、歯根膜、歯槽骨）①	セメント質、歯根膜、歯槽骨の組織構造を理解する。（1）	セメント質の構造〔無細胞セメント質、有細胞セメント質、成長線（休止線）、エナメル-セメント境〕を描き説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書①「第8編 セメント質の発生と微細構造」（73～78ページ）	11] 1.0 12] 1.0
	5/11				歯槽骨（固有歯槽骨、支持歯槽骨）を描き説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
13 14	5/18	稲井、朔、 児玉、北河、大谷、 緒方、林	【ユニット4】歯周組織（セメント質、歯根膜、歯槽骨）②	セメント質、歯根膜、歯槽骨の組織構造を理解する。（2）	歯根膜（Sharpey線維の走行、脈管神経隙）を描き説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書①「第9編 歯根膜の発生と微細構造」（79～86ページ）「第10編 歯槽骨の発生と微細構造」（87～90ページ）	13] 1.0 14] 1.0
	5/18								
15 16	5/25	稲井、朔、 児玉、北河、大谷、 緒方、林	【ユニット5】皮膚	顔面皮膚の組織構造を理解する。	顔面皮膚の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書①「第13編 口腔粘膜の発生と微細構造」（103～111ページ）教科書②「第16章 皮膚」（295～312, 315～317ページ）	15] 1.0 16] 1.0
	5/25				裏装粘膜（軟口蓋、口唇、頬）を理解する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
17 18	6/1	稲井、朔、 児玉、北河、大谷、 緒方、林	【ユニット5】口腔粘膜①（裏装粘膜）	裏装粘膜（軟口蓋、口唇、頬）を理解する。	軟口蓋の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書①「第13編 口腔粘膜の発生と微細構造」（103～111ページ）教科書②「第10章 消化器系 2口腔」（149～151ページ）	17] 1.0 18] 1.0
	6/1				口唇の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
19	6/8	稲井、朔、児玉、北河、大谷、緒方、林	【ユニット5】口腔粘膜②（咀嚼粘膜）	咀嚼粘膜（歯肉、硬口蓋粘膜）の組織構造を理解する。	歯肉の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書①「第11編 歯肉の発生と微細構造」（91～95ページ）「第13編 口腔粘膜の発生と微細構造」（103～111ページ）	19] 1.0
20	6/8				硬口蓋の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		20] 1.0
21	6/15	稲井、朔、児玉、北河、大谷、緒方、林	【ユニット5】口腔粘膜③（特殊粘膜）	特殊粘膜（舌背粘膜、舌体の舌乳頭）を理解する。	舌乳頭（糸状乳頭、茸状乳頭、葉状乳頭、有郭乳頭）、味蕾、舌筋の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書①「第13編 口腔粘膜の発生と微細構造」（103～111ページ）「第14編 唾液腺（口腔腺）の発生と微細構造」（113～118ページ）教科書②「第10章 消化器系・2 口腔・C唾液腺」（154～158ページ）	21] 0.5
22	6/15				耳下腺、顎下腺、舌下腺、エブネル線の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		22] 0.5
					漿液半月の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-1	認知（想起）		
					導管系（介在部、線条部、排出管）の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
23	6/22	稲井、朔、児玉、北河、大谷、緒方、林	【ユニット7】呼吸器系	呼吸器系（鼻腔、気管、肺）を理解する。	気管の組織学的構造を描き説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	教科書②「第10章 消化器系」（147～149, 164～166ページ）「第11章 呼吸器系」（199～210ページ）	23] 0.5
24	6/22				肺（終末細気管支から肺胞まで）の組織学的構造を描き説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		24] 0.5
					食道の組織学的構造を描き説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
25	6/23	稲井、朔、児玉、北河、大谷、緒方、林	【ユニット7】消化器系①（消化管）	消化管（食道、胃、小腸、大腸）を理解する。	胃の組織学的構造を描き説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	教科書②「第10章 消化器系」（147～149, 166～172ページ）	0.5
26	6/29	稲井、朔、児玉、北河、大谷、緒方、林	【ユニット7】消化器系①（消化管）	消化管（食道、胃、小腸、大腸）を理解する。	十二指腸の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	教科書②「第10章 消化器系」（147～149, 172～198ページ）	26] 0.5
27	6/29				空腸の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		27] 0.5
					大腸の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
					肝臓（肝小葉、三つ組、中心静脈）と胆嚢の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
			【ユニット7】消化器系②（消化腺）	消化腺（肝臓、膵臓）を理解する。 * 唾液腺は第22～24回実習で学習済み。主要臓器の組織像の特徴を理解する。	膵臓の組織構造（外分泌腺、内分泌腺）を描き説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
28	7/6	稲井、朔、児玉、北河、大谷、緒方、林	【ユニット7】リンパ系	リンパ系（胸腺、脾臓、リンパ節、扁桃、MALT）を理解する。	舌扁桃（Waldeyerの咽頭輪：舌扁桃、口蓋扁桃、咽頭扁桃）の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書①「第15編 扁桃の発生と微細構造」（119～122ページ）教科書②「第9章 リンパ性器官」（133～146ページ）	28] 0.5
29	7/6				胸腺の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		29] 0.5
					リンパ節の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
					脾臓の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
30	7/6	稲井、朔、児玉、北河、大谷、緒方、林	【点検・清掃】	器具点検、清掃、スケッチ、レポートの仕上げ	実習で学習したことを復習し、スケッチ、レポートを完成する。	Ⅲ-2	認知（想起）		0.5
					顕微鏡、標本を点検する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
31	7/7	稲井、朔、児玉、北河、大谷、緒方、林	【実習試験A】1～30回の内容	学習の理解度の評価（1）	実習内容について実習試験を行う。	Ⅲ-7	認知（想起）		0.5
32	7/7	稲井、朔、児玉、北河、大谷、緒方、林	【実習試験B】1～30回の内容	学習の理解度の評価（2）	実習内容について実習試験を行う。	Ⅲ-6	認知（想起）		0.5

口腔生理学 【講義】

科目番号 0D031103

前期：15コマ

評価責任者：岡部幸司

担当教員：岡部幸司、進 正史、鍛冶屋 浩、岡本富士雄

（一般目標）

正常な咀嚼・構音機能の形成及び維持を目標とする歯科臨床の基礎知識を養うため、口腔生理学では、口腔・顎・顔面領域の構造を咀嚼、消化、構音の器官系と考え、それらの機能と調節機序について理解する。また、口腔機能と全身疾患との関連性についての理解を深め、口腔医学の理念を身につける。

（教育方法）

講義ユニット毎に配付する資料及び教科書に沿って行動目標に掲げた内容をスライドや板書により解説する。

（学習方法）

授業前に教科書に目を通し、専門用語や語句にマーカーや付箋で印を付ける。授業後は配付資料、ノート、教科書をもとに講義の概要を要約し、重要事項を確認する。また、中間試験や定期試験により理解不足が判明した項目は教科書や参考書で復習すると共にチューデントアシスタントや教員への質問を通じて補う。総合学力試験に向けての対策としては、Moodleに掲載したe-learning教材を活用する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 16.0 時間】

（評価）

中間試験：20～30%（記述試験）、定期試験70～80%（記述試験）、ノート作成及び課題レポート等の提出物も成績の評価対象にする。詳細は講義の初日に説明する。中間試験は試験終了後、試験内容を解説し、成績は概ね2週間以内に通知する。定期試験の成績は試験終了後、概ね2週間以内に総評と共に通知する。また、試験結果から理解不足が判明した項目については、補講受講及び課題レポート提出により補う。

（教科書）

森本俊文、山田好秋 編 「基礎歯科生理学 第6版」 医歯薬出版 2014

（口腔生理学で習得しなければならない口腔・顎・顔面領域の基本的な事項が分かりやすく記載されている。また、生理学全般についても簡潔に分かりやすくまとめているため、口腔医学の幅広い知識を養うための入門書として推薦する。）

（参考書）

和泉博之、浅沼直和 編 「ビジュアル生理学・口腔生理学 第3版」 学建書院 2017

（口腔・顎・顔面領域領域の生理機能に重点を置いたテキスト。生理学全般について簡潔にまとめている。内容は教科書とほぼ同様である。）

小澤滯司、福田康一郎 総集編 「標準生理学 第8版」 医学書院 2014

（生理学全般を広く網羅し、特に一般生理学については内容が豊富で詳しく記載されている。臨床に役立つ生理学的思考を養うに適する。）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/8	岡部	ユニット1 顎運動と咀嚼	顎運動と顎反射及び咀嚼運動について理解する。	咀嚼筋の種類と神経支配について述べる。 顎関節の構造と運動について説明する。 咀嚼筋による顎運動について説明する。	Ⅲ-6 Ⅲ-6 Ⅲ-6	認知（想起） 認知（解釈） 認知（解釈）	教科書のp313-315	1.0
2	4/15	岡部	ユニット1 顎運動と咀嚼	顎運動と顎反射及び咀嚼運動について理解する。	顎反射の種類と反射弓及び生理的意義を説明する。 顎反射と脊髄反射を対比し、両者の類似点と相違点を説明する。	Ⅲ-6 Ⅲ-6	認知（解釈） 認知（解釈）	教科書のp304-308, p178-184	1.0
3	4/22	岡部	ユニット1 顎運動と咀嚼	顎運動と顎反射及び咀嚼運動について理解する。	下顎の限界運動と下顎位について説明する。 咀嚼リズムの形成と調節について説明する。	Ⅲ-6 Ⅲ-6	認知（解釈） 認知（解釈）	教科書のp307-319, p328-347	2.0
4	5/13	岡部	ユニット2 舌、口唇、顔面の運動	舌、口唇、顔面（類）の運動と神経機序及び機能について理解する。	舌の運動と機能を説明する。 咀嚼と舌運動について説明する。	Ⅲ-6 Ⅲ-6	認知（解釈） 認知（解釈）	教科書のp320-327	1.0
5	5/20	進	ユニット3 口腔・顎・顔面領域の感覚	歯の感覚及び口腔顎顔面領域の体性感覚及び特殊感覚の特徴と伝導路について理解する。	歯髄、象牙質及び歯根膜の感覚の特徴について述べる。 歯痛の発生機序と関連痛について説明できる。 口腔粘膜の感覚の特徴について述べる。	Ⅲ-6 Ⅲ-6 Ⅲ-6	認知（想起） 認知（解釈） 認知（想起）	教科書のp252-260, p261-271	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
6	5/27	進	ユニット3 口腔・顎・顔面領域の感覚	歯の感覚及び口腔顎顔面領域の体性感覚及び特殊感覚の特徴と伝導路について理解する。	においの受容機序と嗅覚伝導路説明する。 味覚の受容機序と伝導路を説明できる。 味覚障害の種類と原因及び味覚検査について述べる。	Ⅲ-6 Ⅲ-6 Ⅲ-6	認知（想起） 認知（解釈） 認知（解釈）	教科書のp292-303, p272-291	1.0
7	6/3	鍛冶屋	ユニット4 唾液と唾液腺	唾液腺の構造と唾液分泌機序及び唾液成分の機能について理解する。	唾液腺の種類と構造について説明する。 唾液腺の神経支配について説明する。 交感神経、副交感神経による唾液分泌調節機序を説明する。 唾液中の無機イオンと水分及びタンパク質の分泌機序を説明する。	Ⅲ-6 Ⅲ-6 Ⅲ-6 Ⅲ-6	認知（想起） 認知（想起） 認知（解釈） 認知（解釈）	教科書のp374-379	1.0
8	6/10	鍛冶屋	ユニット4 唾液と唾液腺	唾液腺の構造と唾液分泌機序及び唾液成分の機能について理解する。	唾液中の無機イオンと水分及びタンパク質の分泌機序を説明する。 唾液中に含まれる成分と機能について説明する。	Ⅲ-6 Ⅲ-6	認知（解釈） 認知（想起）	教科書、教科書のp384-390	1.0
9	6/16	岡部、進、鍛冶屋、岡本	中間試験及び解説	-	-	Ⅲ-6		1-8回までの講義ノート、配付資料	2.0
10	6/17	岡部	ユニット5 嚥下と嘔吐	嚥下運動の特徴と神経機構及び嘔吐の機序について理解する。	嚥下運動と食塊の動きについて述べる。 嚥下運動の特徴と神経機構について説明する。	Ⅲ-6 Ⅲ-6	認知（解釈） 認知（解釈）	教科書のp355-369	1.0
11	6/23	岡部	ユニット5 嚥下と嘔吐	嚥下運動の特徴と神経機構及び嘔吐の機序について理解する。	嘔吐の誘発原因について説明する。 嘔吐中枢と化学受容器引金帯(GTZ)について述べ、嘔吐の神経機構を説明する。	Ⅲ-2 Ⅲ-2	認知（解釈） 認知（解釈）	教科書のp370-373	1.0
12	6/24	岡部	ユニット6 発声と言語	発声器官と構音の仕組み及び音声の性質について理解する。	発声器官の構造と喉頭原音及び構音の仕組みを説明する。 母音構音と子音構音について説明する。	Ⅲ-6 Ⅲ-6	認知（想起） 認知（解釈）	教科書のp411-419	1.0
13	6/30	岡部	ユニット6 発声と言語	発声器官と構音の仕組み及び音声の性質について理解する。	子音の発声様式と構音様式を分類し説明する。 構音障害について述べる。 言語野及び感覚性失語と運動性失語について説明する。	Ⅲ-6 Ⅲ-6 Ⅲ-2	認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈）	教科書のp419-425, p223-227	0.0
14	7/1	岡本	ユニット7 骨代謝	カルシウム代謝と骨代謝調節機構について理解する。	生体機能の調節におけるカルシウムの役割を説明する。 ホルモンによる血中カルシウム濃度の調節機序を説明する。 骨リモデリングの概要と調節因子及び調節機序について説明する。 骨代謝異常と歯周疾患について説明する。	Ⅲ-2 Ⅲ-2 Ⅲ-2 Ⅲ-2	認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈）	教科書のp135-136, 配付資料	1.0
15	7/7	岡本	ユニット8 加齢と生体機能の変化	加齢による生体機能の変化について理解する。	老化の特徴について述べる。 老化による運動及び感覚機能の変化について述べる。 老化による内分泌機能の変化について述べる。 老化による高次脳機能及び睡眠の変化について述べる。	Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3	認知（想起） 認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈）	配付資料	1.0

細胞分子生物学実習Ⅱ（生理・薬理系）【実習】

科目番号 0D031111

前期：35コマ

評価責任者：岡部幸司

担当教員：岡部幸司、八田光世、岡本富士雄、鍛冶屋 浩、進 正史、長岡良礼、廣松 亮、有田晴一

（一般目標）

生理学及び薬理学で学んだ知識を深めることを目的に、生体あるいは生体を構成する組織や器官の機能とそれらに及ぼす薬物の作用を実験により観察し、生命活動が維持・調節されるメカニズムについて考察する。また、討論会を通じてコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を高める。

（教育方法）

生体機能と薬物の作用を実験により観察し結果を考察する。実験終了後に実施する課題討論・レポート提出・口頭試問・記述試験により知識を整理し理解を深める。実習は6つのグループに分れ、各グループがユニット2、3、4、5、6、7の実験項目をローテーションする。

（ディスカッション・ディベート）（グループワーク）（プレゼンテーション）（実習・演習）

（学習方法）

実習前に各項目（各ユニット）に関連する実習書、教科書及び参考書の該当箇所を読み予習する。また、実習終了後は、実験結果をまとめグループディスカッションにより結果を考察し討論課題に取り組む。また、グループワークにより討論会でのプレゼンテーションの準備を行う。レポート作成及びプレゼンテーション準備は、実習書、教科書、参考書、配布資料、図書館やWebサイト等を利用して行う。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 20.0 時間】

（評価）

実習中の態度・意欲、討論会での発言及び質疑の内容、口頭試問、課題レポート提出及び記述試験を評価の対象とする。評価項目と評点については実習オリエンテーションで説明する。項目毎に合格基準点を設け、前期終了までに成績を周知する。合格基準点に満たない場合は、夏期休暇を利用して再度の実習または試験を行い再評価する。

（教科書）

福岡歯科大学 細胞分子生物学講座 編集、「細胞分子生物学実習Ⅱ 生理・薬理系」、2020年度版（実習書）

（参考書）

加藤 有三、篠田 壽 監修 「現代歯科薬理学」第5版 医歯薬出版 2012年
（一般薬理学講義の指定教科書であり、薬理学・歯科薬理学の新しい知識も反映した内容となっている。）

岡田泰伸 監修 「ギャノン生理学 原書25版」 丸善出版 2017年
（臨床医学の視点にも関連付けた生理学の基本的事項が簡潔に解説されている。）

大地陸男 著 「生理学テキスト 第8版」 文光堂 2017年
（生理学の基本的事項が図表によって簡潔かつ解りやすくまとめている。）

小澤滯司、福田康一郎 総編集 「標準生理学 第8版」 医学書院 2014年
（生理学全般を広く網羅し、情報が充実している。）

森本俊文、山田好秋 編 「基礎歯科生理学 第6版」 医歯薬出版 2014年
（生理学・口腔生理学の基本知識が豊富な図表によって解りやすく解説してある。）

田中千賀子、加藤隆一 編 「NEW薬理学 改訂第6版」南江堂 2011年
（作用メカニズム、分子薬理学などを中心に充実している。）

川口 充 編 「スタンダード歯学薬理学 第2版」 学建書院 2001年
（薬理学の基本的な概念と豊富な情報が整理されている。歯科領域で用いられる薬物についても詳しい。）

石田 甫 他 編 「歯科薬理学 第5版」 医歯薬出版 2005年
（全面的に改定された。歯科用薬物の使い方について詳しい。）

Goodman & Gilman 「The Pharmacological Basis of Therapeutics 12th Edition」McGraw Hill 2011年
（訳書「薬理学-薬物治療の基礎と臨床（全二巻）」廣川書店 2007）
（薬理学のバイブル的教科書。内容も毎回新しくなっている。）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32	4/7 4/7 4/7 4/14 4/14 4/14 4/14 4/21 4/21 4/21 4/21 4/28 4/28 4/28 4/28 5/12 5/12 5/12 5/12 5/19 5/19 5/19 5/19 5/26 5/26	岡部、八田、岡本、鍛冶屋、進、長岡、廣松、有田	ユニット5 複合活動電位と局所麻酔薬	活動電位の発生機序と興奮伝導機序を理解する。さらに、興奮伝導に対する局所麻酔薬の作用とその機序を理解する。	動物の坐骨神経を用いて活動電位を観察し、その発生機序を説明する。 興奮の伝導速度を求め、神経線維の種類を分類する。 局所麻酔薬による興奮伝導の抑制作用を観察し、抑制機序を説明する。 モルモットによる局所麻酔の検定法のビデオを供覧し、興奮伝導の抑制と浸潤麻酔効果を関連づける。 小グループごとに実験結果を共有し、結果と考察を口頭で説明する。 課題討論及び口頭試問を通じて、実習内容を整理して系統立てる。	Ⅲ-2 Ⅲ-2 Ⅲ-20 Ⅲ-20 Ⅲ-20 Ⅲ-2	精神運動（支援部分） 精神運動（支援部分） 精神運動（支援部分） 認知（解釈） 情意（模擬対人対応） 認知（解釈）	[3回] 1、2年で履修した生理学及び薬理学のノートと教科書の準備 [4回-32] 細胞分子生物学実習Ⅱ実習書、生理学及び薬理学の教科書及びノート	3-30] 0.5 31-32] 1.0
			ユニット6 感覚とその制御	皮膚感覚および口腔感覚の特徴と感覚の伝導路を理解する。また、痛みに対する鎮痛薬の作用とその機序を理解する。	皮膚に存在する感覚点の分布密度を求め、感覚の特徴を説明する。 マウスによる鎮痛薬の検定法のビデオを供覧し、末梢性ならびに中枢性鎮痛薬による効果を対比し、それらの作用機序を説明する。 小グループごとに実験結果を共有し、結果と考察を口頭で説明する。 課題討論及び口頭試問を通じて、実習内容を整理して系統立てる。	Ⅲ-2 Ⅲ-20 Ⅲ-2 Ⅲ-2	精神運動（支援部分） 認知（解釈） 情意（模擬対人対応） 認知（解釈）		
			ユニット7 循環機能	血圧の測定原理を理解し、血圧の変動機序を理解する。また、心電図の誘導原理を理解し、種々の生理的変化が心電図に及ぼす効果を認識する。	触診法および聴診法による血圧測定を行い、血圧の測定原理を説明する。 体位変化や運動が血圧に及ぼす影響を調べ、結果を基に血圧変動機序を考察する。 心電図を記録し、その誘導原理を説明する。 呼吸や運動による心電図の変化を調べ、心臓の機能調節機序を考察する。 小グループごとに実験結果を共有し、結果と考察を口頭で説明する。 課題討論及び口頭試問を通じて、実習内容を整理して系統立てる。	Ⅲ-19 Ⅲ-19 Ⅲ-19 Ⅲ-19 Ⅲ-19	精神運動（支援部分） 精神運動（支援部分） 精神運動（支援部分） 精神運動（支援部分） 情意（模擬対人対応） 認知（解釈）		
33	5/26	岡部、八田、岡本、鍛冶屋、進、長岡、廣松、有田	ユニット8 実習内容の復習及び到達度確認のための記述試験	実習で学んだ事項を復習してまとめ、医学・口腔医学における意義と有用性を認識する。	全実習内容を整理し、系統立てる。	Ⅲ-2	認知（解釈）	細胞分子生物学実習Ⅱ実習書、生理学及び薬理学の教科書及びノート	1.0
34	5/26	岡部、八田、岡本、鍛冶屋、進、長岡、廣松、有田	ユニット8 実習内容の復習及び到達度確認のための記述試験	実習で学んだ事項を復習してまとめ、医学・口腔医学における意義と有用性を認識する。	実習内容と歯科医療との接点を見出す。	Ⅲ-19	認知（解釈）	細胞分子生物学実習Ⅱ実習書、生理学及び薬理学の教科書及びノート	1.0
35	5/26	岡部、八田、岡本、鍛冶屋、進、長岡、廣松、有田	ユニット8 実習内容の復習及び到達度確認のための記述試験	実習で学んだ事項を復習してまとめ、医学・口腔医学における意義と有用性を認識する。	実習内容の理解・行動目標達成度を記述試験により評価する。	Ⅲ-2	認知（解釈）	細胞分子生物学実習Ⅱ実習書、生理学及び薬理学の教科書及びノート	1.0

口腔生化学 【講義】

科目番号 OD031105

前期：19コマ

評価責任者：梅津桂子

担当教員：梅津桂子、林 道夫、橋口一成

（一般目標）

口腔内ならびにその周辺の器官や組織について、生化学的成り立ちを理解し、その代謝の仕組みや調節について認識する。また、これらの異常が引き起こす疾患について発生機序を理解する。

（教育方法）

教科書の内容にそったプリントを配布し、受講者が講義内容をプリントに書き込んでいく形で進める。講義はスライドを中心に用いて行う。講義には教科書を必ず持参すること。

（ディスカッション・ディベート）（実習・演習）

（学習方法）

講義の前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目（予習の項目）に目を通しておくこと。講義後は、講義中に指定した教科書の項目や図を中心に、講義内容を復習すること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 7.0 時間】

（評 価）

講義内容の区切り毎に計2回の筆記試験（中間試験と定期試験）を実施し、それぞれの評価については実施後すみやかに掲示する。各試験の点数は試験範囲のコマ数に応じて比例配分し、総合して最終的な評点とする。講義の出欠状況についても考慮に入れる。

（教 科 書）

早川太郎 他著 『口腔生化学』第6版 医歯薬出版

中村桂子・松原謙一 監訳 『Essential 細胞生物学』原書第4版 南江堂

（参 考 書）

安孫子宜光、池尾隆 他編 『スタンダード生化学・口腔生化学』第2版 学建書院

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/2	梅津	ユニット1・序論	口腔医学の中での口腔生化学の位置付けや意義を理解する	口腔生化学で対象とする器官や組織の生化学的成分の成り立ちと組織の発生や分化との関係を述べる	Ⅲ-2	認知（想起）	『口腔生化学』 3章「骨と歯の進化と形づくりの分子メカニズム」Ⅱ-V	0.4
2	4/9	梅津	ユニット2・血清カルシウム（1）	〔血清カルシウムの調節〕 血清カルシウムの恒常性と調節機構について理解する（1）	カルシウムの恒常性維持と硬組織の役割について説明する	Ⅲ-2	認知（想起）	『口腔生化学』 8章「血清カルシウムの恒常性とその調節機構」Ⅰ, Ⅱ	0.4
					血清カルシウムの恒常性に関わるホルモンの全体像を述べる	Ⅲ-2	認知（想起）		
3	4/16	梅津	ユニット2・血清カルシウム（2）	〔血清カルシウムの調節〕 血清カルシウムの恒常性と調節機構について理解する（2）	カルシトニンの構造と作用を述べる	Ⅲ-2	認知（想起）	『口腔生化学』 8章「血清カルシウムの恒常性とその調節機構」Ⅳ, Ⅴ, Ⅲ	0.4
					ビタミンDの構造と代謝経路について説明し、その作用を述べる	Ⅲ-2	認知（想起）		
					副甲状腺ホルモンの構造と作用を述べる	Ⅲ-2	認知（想起）		
4	4/23	梅津	ユニット2・血清カルシウム（3）	〔血清カルシウムの調節〕 血清カルシウムの恒常性と調節機構について理解する（3）	活性型ビタミンDと副甲状腺ホルモンの相互作用を中心に、血清カルシウム調節の制御を説明する	Ⅲ-2	認知（想起）	『口腔生化学』 8章「血清カルシウムの恒常性とその調節機構」Ⅲ, Ⅴ	0.4
5	4/30	梅津	ユニット3・結合組織（1）	〔結合組織の構成成分〕 結合組織の成り立ちを理解し、構成成分とその作用を認識する	結合組織の成り立ちを述べ、構成成分を列挙する	Ⅲ-2	認知（想起）	『口腔生化学』 4章「結合組織と上皮組織の生化学」：p87-88, Ⅰ	0.4
					細胞外マトリックスの線維成分の構成と作用を概説する	Ⅲ-2	認知（想起）		
					細胞外マトリックスの（非定形）基質成分作用の構成と作用を概説する	Ⅲ-2	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
6	4/30	梅津	ユニット3・結合組織（2）	〔結合組織の線維性成分〕コラーゲンとエラスチンの構造と機能を理解する	主なコラーゲンの種類と特徴を列挙する	Ⅲ-2	認知（想起）	『口腔生化学』 4章「結合組織と上皮組織の生化学」：Ⅰ，Ⅱ	0.4
					コラーゲンの生合成過程と各反応の場所について説明する	Ⅲ-2	認知（想起）		
					エラスチンの構造と特徴を説明する	Ⅲ-2	認知（想起）		
					コラーゲンとエラスチンの構造や架橋の特徴を比較し、作用と関連付ける	Ⅲ-2	認知（想起）		
7	5/7	梅津	ユニット3・結合組織（3）	〔結合組織の基質成分〕結合組織の基質成分の種類を理解し、主なものについて構造と機能の関係を認識する	プロテオグリカンとその構成成分であるグリコサミノグリカンの構造と機能を説明する	Ⅲ-2	認知（想起）	『口腔生化学』 4章「結合組織と上皮組織の生化学」：Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ	0.4
					主なプロテオグリカンを列挙する	Ⅲ-2	認知（想起）		
					接着性タンパク質の構造と機能を説明し、主なものを列挙する	Ⅲ-2	認知（想起）		
8	5/7	梅津	ユニット4・がんの分子生物学（1）	〔遺伝的な変化とがん〕多段階発がん説の根拠を理解し、がんと遺伝的な変化（変異・ゲノム再編）との関係を認識する	がんの特徴を分子生物学的見地から説明する	Ⅲ-2	認知（想起）	『Essential 細胞生物学』20章「細胞のつくる社会」がん / 『口腔生化学』2章「がんはどうしてできるか」	0.4
					がんの発生や進行と遺伝的な変化（変異・ゲノム再編）の関係を説明し、その根拠を列挙する	Ⅲ-2	認知（想起）		
					多段階発がんについて説明する	Ⅲ-2	認知（想起）		
9	5/14	梅津	ユニット4・がんの分子生物学（2）	〔がんに関わる遺伝子〕がんの発生や進行に関わる遺伝子の働きを理解し、診断や治療への応用を認識する	原がん遺伝子とがん遺伝子を関係づけ、がん遺伝子の作用について述べる	Ⅲ-2	認知（想起）	『Essential 細胞生物学』20章「細胞のつくる社会」：がん / 『口腔生化学』2章「がんはどうしてできるか」	
					がん抑制遺伝子の働きを述べる	Ⅲ-2	認知（想起）		
					がんの遺伝子診断や遺伝子治療について概説する	Ⅲ-2	認知（想起）		
10	5/14	梅津	ユニット5・硬組織（1）	〔硬組織の成分〕硬組織の種類と成り立ちを認識し、それぞれの組織の成分的特徴と性状の関係を理解する	骨・象牙質・セメント質の組成を述べ、これらの組織の特性と関連づける	Ⅲ-6	認知（想起）	『口腔生化学』 5章「歯、骨と歯周組織の有機質成分とその代謝」：Ⅰ	0.4
					エナメル質の組成を述べ、その特性と関連づける	Ⅲ-6	認知（想起）		
					軟骨の組成を述べ、その特性と関連づける	Ⅲ-2	認知（想起）		
11	5/21	梅津 林 橋口	中間試験						0.4
12	5/21	梅津	ユニット5・硬組織（2）	〔歯と骨の有機質成分〕歯や骨に共通の有機成分の特徴と基本構造を理解する	硬組織の有機成分の全体像を述べ、機能や形成過程と関連づける	Ⅲ-2	認知（想起）	『口腔生化学』 5章「歯、骨と歯周組織の有機質成分とその代謝」Ⅱ	0.4
					骨・象牙質・セメント質に特有のタンパク質を列挙し、それぞれの構造的特徴と機能を関連づける	Ⅲ-2	認知（想起）		
13	5/28	梅津	ユニット5・硬組織（3）	〔歯と骨の有機質成分〕歯の主なタンパク質の構造の特徴と作用を理解する	象牙質に特有のタンパク質について特徴を述べる	Ⅲ-6	認知（想起）	『口腔生化学』 5章「歯、骨と歯周組織の有機質成分とその代謝」Ⅱ，Ⅳ	0.4
					エナメル質に特有のタンパク質について特徴を述べる	Ⅲ-6	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
14	5/28	梅津	ユニット5・硬組織（4）	〔歯や骨の無機質成分〕 歯や骨の無機質成分の特徴と基本構造を理解する	リン酸カルシウム塩とアパタイト結晶の関係を説明する ヒドロキシアパタイトの構造を述べ、イオン交換について説明する エナメル質と象牙質におけるアパタイト構造の違いを説明し、う蝕感受性と関連づける 硬組織の無機成分を列挙し、エナメル質における分布を述べる	Ⅲ-2 Ⅲ-2 Ⅲ-6 Ⅲ-2	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	『口腔生化学』 6章「骨と歯の無機成分と石灰化機構」Ⅰ-V	0.4
15	6/4	梅津	ユニット5・硬組織（5）	〔石灰化の機構〕 硬組織の石灰化の機構を分子レベルで理解する	押し上げ説、エビタキシー説、基質小胞説について考え方の変遷を説明する 基質小胞の形成過程や構成成分を述べ、石灰化における役割について説明する エナメル質の石灰化の特徴を他の硬組織と比較して説明する	Ⅲ-2 Ⅲ-2 Ⅲ-6	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	『口腔生化学』 6章「骨と歯の無機成分と石灰化機構」Ⅵ, Ⅶ	0.4
16	6/4	梅津	ユニット5・硬組織（6）	〔硬組織の形成〕 エナメル質と象牙質の形成過程について理解する	エナメル質と象牙質の石灰化の機構を比較する エナメル質と象牙質の石灰化過程の関係を説明する エナメル質と象牙質の形成過程について、組織像と生化学的成分の変化を関連づける	Ⅲ-6 Ⅲ-6 Ⅲ-6	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	『口腔生化学』 6章「骨と歯の無機成分と石灰化機構」Ⅶ, Ⅷ	0.4
17	6/11	梅津	ユニット6・唾液（1）	〔唾液の組成〕 唾液の組成について理解し、血液との違いを認識する	唾液の組成の全体像を説明する 唾液の無機質の種類を述べる 唾液の有機質の種類を述べる	Ⅲ-6 Ⅲ-6 Ⅲ-6	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	『口腔生化学』 9章「唾液の生化学」Ⅱ, Ⅲ	0.4
18	6/18	梅津	ユニット6・唾液（2）	〔唾液の無機成分〕 原唾液の分泌・再吸収と唾液の無機成分の関係を理解し、その作用を認識する	唾液の緩衝作用について説明する 唾液のイオン交換作用について説明する 唾液のCa濃度維持作用について述べる	Ⅲ-6 Ⅲ-6 Ⅲ-6	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	『口腔生化学』 9章「唾液の生化学」Ⅳ, Ⅴ	0.4
19	6/25	梅津	ユニット6・唾液（3）	〔唾液のタンパク質〕 唾液のタンパク質の種類と作用を理解する	唾液の抗菌因子とその作用について説明する 唾液の酵素とその作用について説明する 唾液特有のタンパク質とその作用について列挙する	Ⅲ-6 Ⅲ-6 Ⅲ-6	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	『口腔生化学』 9章「唾液の生化学」Ⅳ	0.4

機能生物化学実習Ⅱ（細菌系）【実習】

科目番号 OD031112

前期：24コマ

評価責任者：田中芳彦

担当教員：田中芳彦、永尾潤一、成田由香、有田健一

（一般目標）

生菌を用いた実験、実習を通して感染症における生体と微生物のかかわり合いを理解する。また、滅菌、消毒、無菌操作など、医療行為における最も基本的な事項を理解する。

（教育方法）

病原菌を含む数種の細菌、真菌を実際に培養し、染色標本として顕微鏡による観察を行う。また、菌の生化学的な性状や物理、化学的な抵抗性について実習する。なお、実習は5～10名の小グループを単位とし、グループ毎で実験、実習を行う。実習レポートは当日の実習終了時に提出し、担当教員と内容について討議する。
（グループワーク）（実習・演習）

（学習方法）

実験書にある各実験項目に関連する教科書および講義ノートを用いて実習内容の予習を行う。実習報告書で報告した実験結果に関連する授業項目について、予習・復習を行う。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：0.8時間】

（評価）

実習態度、実習レポート、および実習試験 90%、実習態度（出席、質疑応答を含む）10%。
実習態度、実習レポートの評価に関する学生へのフィードバックとして、各実習毎に諮問を行う。

（教科書）

石原和幸ほか 編集 『口腔微生物学 ―感染と免疫―』 第6版 学建書院、2018.

（参考書）

東京大学医科学研究所学友会編、『微生物学実習提要』、1988
選定理由：微生物実習方法が詳細に書かれている専門書で、参考書として利用しやすい。
川端重忠ほか 編集 『口腔微生物学・免疫学』第4版 医歯薬出版、2011.
選定理由：簡潔に編集されており、復習時などの学習に使いやすい。
吉田真一ほか 編集 『戸田新細菌学』改訂34版 南山堂、2013.
選定理由：非常に詳しい権威ある専門書で、参考書として利用しやすい。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/10	田中 永尾 成田 有田	ユニット1 微生物学の基礎技術	グラム染色による細菌の分類を理解し、その方法と観察方法を知る。	細菌の一般的な培養を行う。	IV-15	認知（想起）	教科書p22-p24.	0.1
					グラム染色法を行う。	IV-15	認知（想起）		
					グラム染色による細菌の分類を比較する。	IV-15	認知（想起）		
2	4/17	田中 永尾 成田 有田	ユニット2 消毒と滅菌	滅菌と消毒の定義を理解し、その代表的な方法を身につける。	消毒薬の種類を列挙し、効果を比較する。	IV-15	認知（想起）	教科書p378-p386.	0.1
					滅菌の種類を列挙し、効果を比較する。	IV-15	認知（想起）		
3	5/1	田中 永尾 成田 有田	ユニット3 微生物の形態、構造物、機能	細菌および真菌の構造、形態の特徴と特殊染色による観察方法を知る。	細菌の特徴的な構造物とその染色方法を類別する。	IV-15	認知（想起）	教科書p20-p32. p200-p207.	0.1
					真菌の特徴的な形態を説明する。	IV-15	認知（想起）		
4	5/8	田中 永尾 成田 有田	ユニット4 院内感染と薬剤感受性	医療現場で問題となる病院内感染を知るために、抗生物質の作用を理解する。	抗生物質の種類を列記する。	IV-15	認知（想起）	教科書p387-p410.	0.1
					抗生物質の効果を比較する。	IV-15	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
5	5/22	田中 永尾 成田 有田	ユニット5 歯周病原細菌	ブラークからの歯周病原細菌の分離と観察方法を知る。	ブラーク中に歯周病原細菌が存在することを指摘する。	IV-15	認知（想起）	教科書p288-p303. p344-p358.	0.1
					ブラークからの歯周病原細菌の分離法を実施する。	IV-15	認知（想起）		
6	5/29	田中 永尾 成田 有田	ユニット6 う蝕原性細菌	ブラークからのう蝕原性細菌の分離と観察方法を知る。	ブラーク中にう蝕原性細菌が存在することを指摘する。	IV-15	認知（想起）	教科書p288-p303. p329-p339.	0.1
					ブラークからのう蝕原性細菌の分離法を実施する。	IV-15	認知（想起）		
7	6/5	田中 永尾 成田 有田	ユニット7 口腔感染症における病原因子	口腔感染症原因菌の病原因子を理解する。	う蝕原性を説明する。	IV-15	認知（想起）	教科書p329-p339. p85-88.	0.1
					病原細菌の溶血性を比較する。	IV-15	認知（想起）		
8	6/12	田中 永尾 成田 有田	ユニット8 実習内容確認	実習内容の理解度を判断する。	理解の達成度を評価する。	I-7	認知（問題解決）	1回から7回までの実習内容	0.1

口腔病理学 【講義】

科目番号 0D031107

前期：30コマ

評価責任者：橋本修一

担当教員：吉本尚平、大野 純、岡村和彦、岡野慎士、橋本修一

（一般目標）

口腔疾患および全身含む関連領域の疾患の本態、すなわち疾病の原因、発生機序、経過、転帰および病変の病理組織学的特徴などを理論的に理解し、臨床歯科医学における診断、治療、予防との関わりを知る。

（教育方法）

口授、スライド、サブノート、板書による講義。
e-learning 資料を予習、聴講、復習に併用する。

（学習方法）

授業前後に、指定教科書、配布サブノート、e-learning等による予習、復習ならびに中間試験の復習を行なう。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：30.0 時間】

（評価）

中間試験20%、定期試験80%
「学生へのフィードバックの時期と方法」
中間試験については、試験後、模範解答を掲示するとともに、成績を概ね2週間後に通知する。
定期試験の成績は試験終了後、概ね1週間後に通知する。

（教科書）

1. 高田隆、下野正基 編集『新口腔病理学』第2版 医歯薬出版 2018
（口腔病理学について最新の内容で、情報量も最も充実した教科書である）

（参考書）

1. 賀来亨、槻木恵一 編集『スタンダード口腔病態病理学』第2版 学建書院 2013
2. 賀来亨、田中昭男 編集『簡明 口腔病理アトラス』永末書店 2015 第2刷
（関連する臨床写真と病理組織像が沢山あり、診断のポイントも分かりやすく記載され、病理組織像の学習に最適である）
3. 高木寛 監修 高田隆・豊澤悟 編『口腔病理アトラス』第3版 文光堂 2018
（口腔領域の主要疾患の病理組織像が網羅されている）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/6	岡村	歯の発育異常	歯の発育異常の定義、原因および病態を理解する。	1) 歯の異常（形、大きさ、数、構造）について説明する。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p2～p11	1.0
2	4/6	岡村	歯の発育異常	歯の発育異常の定義、原因および病態を理解する。	2) 歯列・咬合の異常について説明する。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p12～p17	1.0
3	4/13	岡村	歯の発育異常	歯の発育異常の定義、原因および病態を理解する。	3) 歯の萌出の異常について説明する。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p17～p19	1.0
4	4/13	岡村	歯の損傷および歯の沈着物と歯の着色・変色	歯の損傷（物理的、化学的損傷や外傷性損傷）および歯の沈着物と歯の着色・変色について理解する。	1) 咬耗症、摩耗症、侵蝕症、破折、脱臼について説明する。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p20～p25	1.0
5	4/20	岡村	歯の損傷および歯の沈着物と歯の着色・変色	歯の損傷（物理的、化学的損傷や外傷性損傷）および歯の沈着物と歯の着色・変色について理解する。	2) 歯の沈着物、着色ならびに変色について説明する。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p26～p31	1.0
6	4/20	吉本	齲蝕の病理	齲蝕の疫学、分類、原因、疾患の成り立ち、歯の硬組織病変について臨床的、病理組織学的特徴を理解できる。	1) 齲蝕の概念、疫学、分類、原因と成り立ちについて説明する。 2) 齲蝕の病態について説明する。	Ⅲ-10 Ⅲ-10	認知（解釈） 認知（解釈）	教科書 p32～p40	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
7	4/27	吉本	象牙質・歯髄複合体の病理	象牙質・歯髄複合体における加齢的变化、退行性病变、進行性病变ならびに歯髄炎について理解する。	1) 象牙質・歯髄複合体の加齢的变化および退行性病变について説明する。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p50～p60	1.0
8	4/27	吉本	象牙質・歯髄複合体の病理	象牙質・歯髄複合体における加齢的变化、退行性病变、進行性病变ならびに歯髄炎について理解する。	2) 象牙質・歯髄複合体の進行性病变について説明する。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p60～p69	1.0
9	5/11	吉本	象牙質・歯髄複合体の病理	象牙質・歯髄複合体における加齢的变化、退行性病变、進行性病变ならびに歯髄炎について理解する。	3) 象牙質・歯髄複合体の感染と炎症について説明する。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p69～p72	1.0
10	5/11	大野	根尖性歯周組織疾患の病理	根尖性歯周組織疾患の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	1) 根尖性歯周組織疾患ならびにその継発症について、原因、分類、病態を説明する。急性の病態を中心に。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p73～p83	1.0
11	5/18	大野	根尖性歯周組織疾患の病理	根尖性歯周組織疾患の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	2) 根尖性歯周組織疾患ならびにその継発症について、原因、分類、病態を説明する。慢性の病態を中心に。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p73～p83	1.0
12	5/18	大野	辺縁性歯周組織の病変	辺縁性歯周組織の病変の診断と治療に必要な臨床病理学および病理組織学的特徴を理解する。	1) 辺縁性歯周組織疾患の原因、分類、病態を説明する。また、これに影響を与える全身疾患についても説明できる。①	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p84～p102	1.0
13	5/25	大野	辺縁性歯周組織の病変	辺縁性歯周組織の病変の診断と治療に必要な臨床病理学および病理組織学的特徴を理解する。	2) 辺縁性歯周組織疾患の原因、分類、病態を説明する。また、これに影響を与える全身疾患についても説明できる。②	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p84～p102	1.0
14	5/25	大野	歯科治療に伴う治癒の病理	各種歯科治療に伴う生体反応とくに治癒の病理について理解する。	各種歯科処置（修復処置、歯内処置、歯周処置、矯正処置、抜歯など）における生体組織の反応と治癒過程について説明する。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p104～p126	1.0
15	6/1	大野	顎骨の病変	顎骨の炎症性疾患、顎関節疾患の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	顎骨の炎症性疾患、顎関節疾患の分類や病態を説明できる。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p243～p252	1.0
16	6/1	岡野	口腔粘膜疾患および免疫疾患	口腔粘膜に発生する疾患ならびに免疫疾患の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	1) 口腔粘膜に発生する各種疾患の分類と病態を説明する。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p161～p180, p102～p103, p181～p194	1.5
17	6/2	岡野	口腔粘膜疾患および免疫疾患	口腔粘膜に発生する疾患ならびに免疫疾患の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	2) 口腔とくに口腔粘膜に発生する免疫疾患の分類と病態を説明する。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p300～p308, p166, p295～p296	1.0
18	6/2	岡野	口腔領域の嚢胞	口腔顎顔面領域に発生する嚢胞および嚢胞様病変の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	口腔顎顔面領域に発生する嚢胞および嚢胞様病変の分類および病態を説明する。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p195～p209	1.5
19	6/8	吉本、岡村、大野、橋本	中間試験	—	—	Ⅲ-10			

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
20	6/8	橋本	口腔領域の腫瘍	口腔領域の腫瘍および腫瘍様病変の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	1) 前癌病変、上皮内癌、口腔癌について説明する。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p181～p209	1.5
21	6/9	橋本	口腔領域の腫瘍	口腔領域の腫瘍および腫瘍様病変の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	2) 良性歯源性腫瘍のうち、歯源性上皮からなり、成熟した線維性間質を伴い、歯源性外胚葉性間葉組織を伴わないものについて説明する。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p210～p219	1.5
22	6/9	橋本	口腔領域の腫瘍	口腔領域の腫瘍および腫瘍様病変の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	3) 良性歯源性腫瘍のうち、混合性ならびに間葉性腫瘍ならびに悪性歯源性腫瘍について説明する。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p219～p227	1.0
23	6/15	橋本	口腔領域の腫瘍	口腔領域の腫瘍および腫瘍様病変の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	4) 顎骨の線維骨性病変ならびに骨形成性病変について説明する。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p228～p235	1.0
24	6/15	橋本	口腔領域の腫瘍	口腔領域の腫瘍および腫瘍様病変の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	5) 顎骨の軟骨形成性病変ならびに巨細胞性病変について説明する。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p235～p252	1.0
25	6/16	橋本	口腔領域の腫瘍	口腔領域の腫瘍および腫瘍様病変の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	6) 口腔領域軟組織の腫瘍・腫瘍様病変（Ⅰ～Ⅳ）について説明する。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p253～p265	1.0
26	6/16	橋本	口腔領域の腫瘍	口腔領域の腫瘍および腫瘍様病変の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	7) 口腔領域軟組織の腫瘍と腫瘍様病変（Ⅴ～Ⅶ）について説明する。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p265～p272	1.5
27	6/22	岡村	唾液腺の病変	唾液腺に発生する非腫瘍性疾患および腫瘍性疾患の診断と治療に必要な臨床病理学的および病理組織学的特徴を理解する。	1) 唾液腺に発生する非腫瘍性疾患の分類、病態を説明する。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p287～p299	1.0
28	6/22	岡村	唾液腺の病変	唾液腺に発生する非腫瘍性疾患および腫瘍性疾患の診断と治療に必要な臨床病理学的および病理組織学的特徴を理解する。	2) 唾液腺に発生する腫瘍性疾患の分類、病態を説明する。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p273～p286	1.5
29	6/29	岡村	唾液腺の病変	唾液腺に発生する非腫瘍性疾患および腫瘍性疾患の診断と治療に必要な臨床病理学的および病理組織学的特徴を理解する。	3) 唾液腺の良性腫瘍の病態を説明する。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p273～p286	1.0
30	6/29	岡村	唾液腺の病変	唾液腺に発生する非腫瘍性疾患および腫瘍性疾患の診断と治療に必要な臨床病理学的および病理組織学的特徴を理解する。	4) 唾液腺の悪性腫瘍の病態を説明する。	Ⅲ-10	認知（解釈）	教科書 p273～p286	1.0

生体構造学実習Ⅱ（病理系）【実習】

科目番号 OD031114

前期：45コマ

評価責任者：橋本修一

担当教員：吉本尚平、大野 純、岡村和彦、岡野慎士、朔 敬、橋本修一

（一般目標）

口腔領域の疾患や全身の重要臓器疾患の知識と肉眼的、顕微鏡的形態変化を関連させ、各種疾患の病態像および その相違を深く理解する。

（教育方法）

顕微鏡実習の前に、各回の実習テーマについて板書、プリント、スライドを用いて実習ポイントの説明。視覚素材によるディスカッションおよび口頭試問、理解度テスト。

PCのマクロ剖検所見やミクロ組織所見の視覚デジタル画像による病態の読解および病理診断などEBM演習。
（ディスカッション・ディベート）（実習・演習）

（学習方法）

実習前後に指定教科書、配布資料、客観テスト、e-learning等による予習および復習を行なう。光学顕微鏡を用いて病理組織標本の観察し、スケッチする。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 9.0 時間】

（評価）

実習試験（100%）、口頭試問およびスケッチ（補助評価に用いる）
口頭試問およびスケッチに対しての評価・配点は上記の試験点数に含める。
「学生へのフィードバックの時期と方法」
実習試験後概ね2週間後までに合格基準点に満たない学生に周知をし、再試験を行い再評価する。

（教科書）

1. 賀来亨、田中昭男 編集『簡明 口腔病理アトラス』永末書店 2008
（関連する臨床写真と病理組織像が沢山あり、診断のポイントも分かりやすく記載され、病理実習に最適である）

（参考書）

1. 下野正基ら著『口腔外科・病理診断アトラス』医歯薬出版 1996
（臨床所見と病理組織学的所見の両者が、整合的に整理されている）
2. 高木寛 監修 高田隆・豊澤悟 編『口腔病理アトラス』第3版 文光堂 2018
（口腔領域の主要疾患の病理組織像が網羅されている）
3. 赤木忠厚 監修 カラーアトラス『病理組織の見方と鑑別診断』第5版 医歯薬出版 2007
（豊富な組織写真をもとに、鑑別診断についてわかりやすく解説がされている）
4. 森谷 卓也（著）、小田 義直、深山 正久、松野 吉宏、坂元 亨宇、森永 正二郎（編集）『組織病理アトラス』第6版 文光堂 2015
（総論領域の疾患について、幅広く詳述されている）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/8	吉本、岡村、大野、岡野、朔、橋本	病理学総論 1	退行性病変および循環障害の病態について、画像を通して理解する。	退行性病変および循環障害の病態について、スケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-5	認知（問題解決）	教科書 p5～p6, p163～p176 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	0.5
2	4/15	吉本、岡村、大野、岡野、朔、橋本	病理学総論 2	急性炎症および慢性炎症について、画像を通して理解する。	急性炎症および慢性炎症の病態について、スケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-5	認知（問題解決）	教科書 p5～p6, p163～p176 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	0.5
3	4/22	吉本、岡村、大野、岡野、朔、橋本	歯の発育不全・歯の硬組織疾患	歯の発育異常および硬組織異常の種類および病態について、画像を通して理解する。	歯の発育異常および硬組織異常について、スケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-10	認知（問題解決）	教科書 p2～p30 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	0.5
4	5/13	吉本、岡村、大野、岡野、朔、橋本	齲蝕／歯髄の病変 1	齲蝕、象牙質の増殖および歯髄の退行性病変について、画像を通して理解する。	齲蝕、象牙質の増殖および歯髄の退行性病変について、スケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-10	認知（問題解決）	教科書 p31～p58 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	0.5
5	5/20	吉本、岡村、大野、岡野、朔、橋本	歯髄の病変 2	各種歯髄炎および歯髄処置（生活歯髄切断法）の病態について画像を通して理解する。	各種歯髄炎および生活歯髄切断法によるデンティンブリッジの形成過程について、スケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-10	認知（問題解決）	教科書 p58～p66, p104～p105 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	0.5

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
6	5/27	吉本、岡村、大野、岡野、朔、橋本	歯周組織の疾患／顎骨の病変	歯周組織の疾患、顎骨病変の病態について、画像を通して理解する。	根尖性歯周炎、辺縁性歯周疾患を中心に歯周組織の疾患および顎骨の病変について、スケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-10	認知（問題解決）	教科書 p67～p97, p212～p238 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	0.5
7	6/2	吉本、岡村、大野、岡野、朔、橋本	口腔粘膜疾患／口腔領域の嚢胞 1	口腔粘膜疾患、口腔領域の嚢胞について、画像を通して理解する。	口腔粘膜疾患および口腔領域の嚢胞について、病態をスケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-10	認知（問題解決）	教科書 p143～p168, p182～p195 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	0.5
8	6/3	吉本、岡村、大野、岡野、朔、橋本	口腔領域の嚢胞 2	口腔領域の嚢胞について、画像を通して理解する。	口腔領域の嚢胞について、病態をスケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-10	認知（問題解決）	教科書 p182～p195 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	0.5
9	6/9	吉本、岡村、大野、岡野、朔、橋本	EBM に基づいた鑑別診断 1	ユニット1～8の疾患について、他の症例も加えて鑑別診断し、病態を理解する。	ユニット1～8の疾患の病態について説明し、鑑別診断を行う。	Ⅲ-10	認知（問題解決）	ユニット1～8 の内容	1.0
10	6/10	吉本、岡村、大野、岡野、朔、橋本	口腔潜在的悪性疾患と口腔上皮性異形成、口腔癌	口腔粘膜に生じる潜在的悪性疾患および口腔癌について、画像を通して理解する。	口腔粘膜に生じる潜在的悪性疾患および口腔癌について、病態をスケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-10	認知（問題解決）	教科書 p169～p181 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	1.0
11	6/17	吉本、岡村、大野、岡野、朔、橋本	口腔領域に生じる腫瘍（歯源性腫瘍）	口腔領域に生じる腫瘍（歯源性腫瘍）について、画像を通して理解する。	口腔領域に生じる腫瘍（歯源性腫瘍）について、病態をスケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-10	認知（問題解決）	教科書 p196～p211 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	0.5
12	6/24	吉本、岡村、大野、岡野、朔、橋本	口腔領域に生じる腫瘍（非歯源性腫瘍）	口腔領域に生じる腫瘍（非歯源性腫瘍）について、画像を通して理解する。	口腔領域に生じる腫瘍（非歯源性腫瘍）について、病態をスケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-10	認知（問題解決）	教科書 p212～p228, p239～p256 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	0.5
13	7/1	吉本、岡村、大野、岡野、朔、橋本	唾液腺の疾患	唾液腺の疾患について、画像を通して理解する。	唾液腺の疾患について、病態をスケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-10	認知（問題解決）	教科書 p257～p282 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	0.5
14	7/2	吉本、岡村、大野、岡野、朔、本	EBM に基づいた鑑別診断 2	ユニット1～8, 10～13の疾患について、他の症例も加えて鑑別診断し、病態を理解する。	ユニット1～8, 10～13の疾患について病態を解説し、臨床所見、X線所見の情報とともにエビデンスに基づいて病態を鑑別する。	Ⅲ-10	認知（問題解決）	ユニット1～13の全内容	1.0
15	7/3	吉本、岡村、大野、岡野、朔、橋本	実習試験	全ユニットで実習した疾患その他重要疾患について、鑑別診断を行いながら病態を理解する。	全ユニットで実習した疾患その他重要疾患について、鑑別すべき疾患とともに、病態を解説し、鑑別診断ならびに病理組織診断を行なう。	Ⅲ-10	認知（問題解決）	実習で学習した全内容	1.0

口腔保健学Ⅱ 【講義】

科目番号 OD031201

前期：18コマ

評価責任者：埴岡 隆

埴岡 隆、渡辺 猛、谷口 奈央、島津 篤

担当教員：尾崎哲則（日本大学歯学部）

井下英二（滋賀県衛生科学センター）

竹下 徹（九州大学院）

（一般目標）

国民の口腔保健の現状を知り、口腔の健康診断およびリスクの診断・排除の技術への理解を深め、口腔の健康増進および口腔疾患の予防に関する予防歯科臨床を含む公衆衛生対策として個人および集団に適用するための基本知識を身につける。

（教育方法）

教科書、配布資料、学生参加型授業、グループディスカッション、PBL、協調・協同学習、体験学習、調査学習、ディベート、反転授業

（ディスカッション・ディベート）（グループワーク）（その他AL）

（学習方法）

授業前後に下記予習の項目について教科書や参考書の該当箇所を読むこと 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：17.0 時間】

（評価）

授業ごとの受講態度・レポート（20%）によりフィードバックを行うとともに定期試験（80%）を併せて評価する。

（教科書）

1. 安井利一、宮崎秀夫、鶴本明久、川口陽子、山下喜久、廣瀬公治編、「口腔保健・予防歯科学」、医歯薬出版、2017

（参考書）

筒井昭仁 他編、「新 フッ化物ではじめるむし歯予防」、医歯薬出版、2012（フッ化物の応用に必要な知識と、一般大衆の疑問に即した解説をしている）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（GIO）	行動目標（SBOS）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/2	埴岡 隆	ユニット1 健康と歯の沈着物	口腔の異常と歯の沈着物を理解する。	歯科疾患の疫学を図表を用いて説明できる。	Ⅲ-23	認知（解釈）	歯科疾患の疫学	1.0
2	4/2	谷口奈央	ユニット1 健康と歯の沈着物	口腔の異常と歯の沈着物を理解する。	歯、口の健康と機能、加齢変化を説明できる。 ペリクルと歯垢を説明できる。	Ⅲ-5 Ⅲ-6	認知（解釈） 認知（解釈）	歯、口の健康と機能、加齢変化、ペリクルと歯垢	1.0
3	4/9	谷口奈央	ユニット1 健康と歯の沈着物	口腔の異常と歯の沈着物を理解する。	歯石、舌苔、外来性沈着物を説明できる。	Ⅲ-7	認知（解釈）	歯石、舌苔、外来性沈着物	1.0
4	4/9	谷口奈央	ユニット2 疾患リスクと予防歯科	口腔疾患リスクと予防法を理解する。	口臭・歯周病の発生要因を説明できる。 口臭・歯周病の予防法を説明できる。	Ⅲ-8 Ⅲ-8	認知（解釈） 認知（解釈）	口臭・歯周病の発生要因と予防法	1.0
5	4/16	谷口奈央	ユニット2 疾患リスクと予防歯科	口腔疾患リスクと予防法を理解する。	う蝕の発生要因を説明できる。 う蝕のリスク診断と代用糖利用等によるう蝕の予防法を説明できる。	Ⅲ-5 Ⅲ-22	認知（解釈） 認知（解釈）	う蝕の発生要因、う蝕のリスク診断と代用糖利用によるう蝕の予防法	1.0
6	4/16	竹下 徹	ユニット2 疾患リスクと予防歯科	口腔疾患リスクと予防法を理解する。	口腔ディスバイオシスを説明できる。	Ⅲ-22	認知（解釈）	口腔ディスバイオシス	1.0
7	4/23	島津 篤	ユニット2 疾患リスクと予防歯科	口腔疾患リスクと予防法を理解する。	フッ化物について説明できる。	Ⅲ-22	認知（解釈）	フッ化物	1.0
8	4/23	島津 篤	ユニット2 疾患リスクと予防歯科	口腔疾患リスクと予防法を理解する。	フッ化物の予防機序を説明できる。	Ⅲ-22	認知（解釈）	フッ化物の予防機序	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
9	4/30	島津 篤	ユニット2 疾患リスクと 予防歯科	口腔疾患リスクと 予防法を理解する。	フッ化物応用の方法を比較し、説明できる。	Ⅲ-22	認知（問題解決）	フッ化物応用の方法	1.0
10	5/7	島津 篤	ユニット2 疾患リスクと 予防歯科	口腔疾患リスクと 予防法を理解する。	フッ化物応用の方法を比較し、説明できる。	Ⅲ-22	認知（問題解決）	フッ化物応用の方法	1.0
11	5/14	埴岡 隆	ユニット3 ブラークコントロール	ブラークコントロールを理解する。	口腔の自浄作用と物理的ブラークコントロールを説明できる。	Ⅲ-22	認知（問題解決）	口腔の自浄作用と物理的ブラークコントロール	1.0
12	5/21	埴岡 隆	ユニット3 ブラークコントロール	ブラークコントロールを理解する。	化学的ブラークコントロールと歯磨剤を説明できる。	Ⅲ-22	認知（解釈）	化学的ブラークコントロールと歯磨剤	1.0
13	5/28	埴岡 隆	ユニット3 ブラークコントロール	ブラークコントロールを理解する。	ブラークコントロール動機づけ支援を説明できる。	Ⅲ-22	認知（問題解決）	ブラークコントロール動機づけ支援	1.0
14	6/4	埴岡 隆	ユニット4 歯科保健	歯科保健・歯科保健活動の状況と行動変容を理解する。	行動科学と歯科疾患について説明できる。	Ⅲ-16	認知（問題解決）	歯科保健指導と健康教育、行動科学と歯科疾患	1.0
					世界標準の簡易禁煙介入の日常歯科診療への導入について説明できる。	Ⅲ-10	認知（問題解決）		
15	6/11	埴岡 隆	ユニット4 歯科保健	歯科保健・歯科保健活動の状況と行動変容を理解する。	国民の歯科保健状況を図表を用いて説明できる。	Ⅲ-23	認知（解釈）	世界標準の簡易禁煙介入の日常歯科診療への導入	1.0
16	6/18	渡辺 猛	ユニット4 歯科保健	歯科保健・歯科保健活動の状況と行動変容を理解する。	歯科保健指導と健康教育について説明できる。	Ⅲ-16	認知（解釈）	国民の歯科保健状況	1.0
17	6/23	尾崎哲則	ユニット4 歯科保健	歯科保健・歯科保健活動の状況と行動変容を理解する。	地域保健活動・歯科保健活動の全体像を説明できる。（大学）	Ⅲ-22	認知（問題解決）	地域保健活動、歯科保健活動	0.5
18	6/25	井下英二	ユニット4 歯科保健	歯科保健・歯科保健活動の状況と行動変容を理解する。	地域保健活動・歯科保健活動の全体像を説明できる。（自治体）	Ⅲ-22	認知（問題解決）	地域保健活動、歯科保健活動	0.5

齲蝕学Ⅰ 【講義】

科目番号 0D031203

前期：18コマ

評価責任者：米田雅裕

担当教員：米田雅裕、阿南 壽、晴佐久 悟、山田和彦、畠山純子

（一般目標）

近年、歯の解剖学、病理学および細菌学をはじめとする齲蝕関連基礎科目と予防歯科学および保存修復学を包含した齲蝕学（cariology）という概念が導入されている。齲蝕を中心とした歯の硬組織疾患の予防・検査・治療に関する基礎的能力を身につけるために基礎齲蝕学および齲蝕治療学に関する知識を修得する。

（教育方法）

教科書、プリントおよびスライドによる講義

（学習方法）

予習はシラバスに記載された教科書「第五版 保存修復学21」「第7版 保存修復学」の授業関連項目を読むこととする。また、復習は配布資料および教科書の関連ページを再読し、提示された問題を再度、解くことにより行う。さらに、参考書を用いて関連領域の学習をすることを推奨する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 20.0 時間】

（評価）

記述試験および客観試験（定期試験：90％）

聴講態度ならびに小テスト（10％）

「学生へのフィードバックの時期と方法」

定期試験後、口頭で試験のできばえについて説明する。

（教科書）

田上順次、奈良陽一郎、山本一世、斎藤隆史 監修『第五版 保存修復学21』永末書店、2017

千田 彰、寺中敏夫、寺下正道、宮崎真至 編集『第7版 保存修復学』医歯薬出版、2019

いずれも写真や図表が多く、初学者にも理解しやすい。国家試験問題は両教科書に記載の内容から出題される可能性が高いので、両教科書を使用。

（参考書）

千田 彰、寺下正道、田上順次ほか編集『保存修復クリニカルガイド第2版』医歯薬出版、2009

田上順次、花田信弘、桃井保子編集『う蝕学—チェアサイドの予防と回復のプログラム—』永末書店、2008

特定非営利活動法人日本歯科保存学会編 保存修復学専門用語集 第2版 医歯薬出版、2017

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/2	晴佐久	ユニット1 齲蝕の疫学	わが国の齲蝕の罹患状況を経年変化、国際比較のなかで理解する。	わが国の齲蝕罹患状況の変化、現状を説明する。 諸外国における齲蝕罹患状況を述べる。 わが国における齲蝕罹患の特徴を表現する。	Ⅲ-5 Ⅲ-5 Ⅲ-5	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	第五版 保存修復学21 第2章 齲蝕 p29～p56 第7版 保存修復学 P65～70	1.0
2	4/9	米田	ユニット2 感染症としての齲蝕	齲蝕原性菌の生態を理解する。	生活習慣や食生活と齲蝕発症との関係を説明する。 齲蝕原性細菌の特徴を述べる。 カリエスリスクを説明する。	Ⅲ-4 Ⅲ-4 Ⅲ-4	認知（想起） 認知（解釈） 認知（想起）	第五版 保存修復学21 第2章 齲蝕 p29～p56 第7版 保存修復学 P14	1.0
3	4/16	畠山（純）	ユニット3 乳歯および永久歯の構造と組成（1）	硬組織の齲蝕過程を知るために乳歯、永久歯の形態学的比較、歯冠の表面構造、エナメル質の正常構造、組成とその特徴を理解する。	乳歯、永久歯の構造や組織学的違いを説明する。 歯冠表面にみられる齲蝕好発部位（裂溝、窩、頂窩）を説明する。 エナメル質の組成を説明し、構造を描き、その特徴を述べる。	Ⅲ-12 Ⅲ-8 Ⅲ-6	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	第五版 保存修復学21 第1章 概論 p1～p28 第7版 保存修復学 P6-13	1.0
			ユニット3 乳歯および永久歯の構造と組成（2）	硬組織の齲蝕過程を知るために象牙質とセメント質の組成と構造および象牙質・歯髄複合体の特徴を理解する。	象牙質の特徴を説明する。 象牙質・歯髄複合体の特徴を説明する。 セメント質の特徴を説明する。	Ⅲ-6 Ⅲ-6 Ⅲ-6	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
4	4/23	畠山（純）	ユニット4 齲蝕の分類と病変の成り立ち	齲蝕の好発部位やその病因・齲蝕の拡がり方・分類とエナメル質齲蝕・象牙質齲蝕の特徴に関する基礎的知識を身につける。	齲蝕の好発部位について説明する。	Ⅲ-8	認知（想起）	第五版 保存修復学21第1章 概論 p1～p28 第7版 保存修復学 P14-35	1.0
					齲蝕の進行様式を説明する。	Ⅲ-8	認知（想起）		
					急性齲蝕と慢性齲蝕を比較する。	Ⅲ-8	認知（想起）		
5	4/30	畠山（純）	ユニット5 齲蝕病変の形態学的変化	エナメル質齲蝕、象牙質齲蝕の臨床所見および病理組織学的特徴を理解する。	エナメル質齲蝕病巣の特徴について説明する。	Ⅲ-8	認知（想起）	第五版 保存修復学21第2章 齲蝕 p29～p56 第7版 保存修復学 P14-35	1.0
					象牙質齲蝕病巣の特徴について説明する。	Ⅲ-8	認知（想起）		
6	5/7	晴佐久	ユニット6 齲蝕の予防	各種齲蝕予防法を評価し、それらの特徴を理解する。	ブラッシング、甘味の種類の摂取法、フッ化物応用法について、それぞれの齲蝕予防効果を比較する。	Ⅲ-7	認知（想起）	第五版 保存修復学21第2章 齲蝕 p29～p56 第7版 保存修復学 P70	1.0
					場面に応じた正しい予防法を選択する。	Ⅲ-8	認知（想起）		
7	5/8	米田	ユニット7 非齲蝕性硬組織疾患	Tooth wearの特徴に関する基礎的知識を身につけるとともに、硬組織疾患と歯髄・根尖歯周組織疾患との関連性について理解する。	くさび状欠損について説明する。	Ⅲ-8	認知（想起）	第五版 保存修復学21第2章 齲蝕 p29～p56 第7版 保存修復学 P27	1.0
					象牙質知覚過敏症について説明する。	Ⅲ-8	認知（想起）		
8	5/14	米田	ユニット8 齲蝕の検査	齲蝕の検査に関する基礎的知識を身につける。	齲蝕の検査法について説明する。	Ⅳ-3	認知（想起）	第五版 保存修復学21第3章 齲蝕以外の硬組織疾患と加齢変化 p57～p74 第7版 保存修復学 P56-64	1.0
			ユニット9 齲蝕の診断・治療計画		MI（ミニマルインターベンション）を基にした齲蝕治療について説明できる。	Ⅳ-4	認知（想起）		
9	5/15	山田	ユニット10 硬組織の切削	歯を切削する器具・機械・方法に関する知識を身につけるとともに、罹患歯質の鑑別法と象牙質切削時の除痛法について理解する。	歯の切削器具・器械について説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）	第五版 保存修復学21第1章 概論 p1～p28 第7版 保存修復学 P98-109	1.0
					切削時の診察姿勢について説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
10	5/21	山田	ユニット10 硬組織の切削	歯を切削する器具・機械・方法に関する知識を身につけるとともに、罹患歯質の鑑別法と象牙質切削時の除痛法について理解する。	罹患歯質の鑑別と除去法について理解する。	Ⅳ-2	認知（想起）	第五版 保存修復学21第2章 齲蝕 p29～p56 第7版 保存修復学 P110-121	1.0
					象牙質切削時の除痛法について説明する。	Ⅳ-2	認知（想起）		
11	5/22	山田	ユニット11 窩洞	窩洞の分類や構成に関する基礎的知識を身につけるとともに、窩洞形態に関する諸条件について理解する。	窩洞の分類について説明する。	Ⅳ-2	認知（想起）	第五版 保存修復学21第5章 診療設備・器材 p89～p107 第7版 保存修復学 P110-121	1.0
					窩洞各部の名称について説明する。	Ⅳ-4	認知（想起）		
12	5/28	山田	ユニット11 窩洞	窩洞の分類や構成に関する基礎的知識を身につけるとともに、窩洞形態に関する諸条件について理解する。	保持形態について説明する。	Ⅳ-4	認知（想起）	第五版 保存修復学21第6章 窩洞 p109～p118 第7版 保存修復学 P110-121	1.0
					歯質と修復物のための抵抗形態について説明する。	Ⅳ-4	認知（想起）		
					技術的要求から付与される便宜形態について説明する。	Ⅳ-4	認知（想起）		
					窩縁形態の目的と名称について説明する。	Ⅳ-4	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
13	5/29	畠山（純）	ユニット12 歯髄障害・歯髄保護	修復時の歯髄障害とその要因に関する知識を身につけるとともに、修復システムと歯髄保護について理解する。	切削に伴う歯髄刺激について説明する。	Ⅲ-5	認知（想起）	第五版 保存修復学21第6章 窩洞 p109～p118 第7版 保存修復学 P122-128	1.0
					修復材料の歯髄刺激について説明する。	Ⅲ-5	認知（想起）		
					微少漏洩による歯髄刺激について説明する。	Ⅲ-5	認知（想起）		
14	6/5	畠山（純）	ユニット12 歯髄障害・歯髄保護	修復時の歯髄障害とその要因に関する知識を身につけるとともに、修復システムと歯髄保護について理解する。	歯髄保護法の目的・種類について説明する。	Ⅳ-4	認知（想起）	第五版 保存修復学21第6章 窩洞 p109～p118 第7版 保存修復学 P122-128	1.0
					覆層法について説明する。	Ⅳ-4	認知（想起）		
					裏層法について説明する。	Ⅳ-4	認知（想起）		
15	6/12	山田	ユニット13 修復の前準備	修復時の前準備である防湿法、歯間分離法について理解する。	防湿法について説明する。	Ⅳ-4	認知（想起）	第五版 保存修復学21第4章 歯髄傷害・歯髄保護 p75～p88 第7版 保存修復学 P129-137	1.0
					歯間分離法について説明する。	Ⅳ-4	認知（想起）		
16	6/19	山田	ユニット13 修復の前準備	修復時の前準備である防湿法、歯間分離法について理解する。	肉肉排除法について説明する。	Ⅳ-4	認知（想起）	第五版 保存修復学21第4章 歯髄傷害・歯髄保護 p75～p88 第7版 保存修復学 P129-137	1.0
					隔壁法について説明する。	Ⅳ-4	認知（想起）		
17	6/26	山田	ユニット14 歯の修復治療の留意点（1）	各修復法の特徴を知り、修復治療の留意点について理解する。	各修復法の適応症について説明できる。	Ⅳ-4	認知（想起）	第五版 保存修復学21第7章 修復方法 p119～p147 第7版 保存修復学 P98-109	1.0
					回転切削器具とその特徴について説明できる。	Ⅳ-4	認知（想起）		
18	7/3	山田	ユニット14 歯の修復治療の留意点（2）	罹患歯質の除去法を身につけるとともに修復時に使用するレーザーについて理解する。	罹患歯質の鑑別と除去法について理解できる。	Ⅳ-4	認知（想起）	第五版 保存修復学21第7章 修復方法 p119～p147 第7版 保存修復学 P98-109	1.0
					修復時に使用するレーザーについて説明できる。	Ⅳ-4	認知（想起）		

顎口腔機能学 【講義】

科目番号 OD031207

前期：15コマ

評価責任者：都築 尊

担当教員：城戸寛史、松浦尚志、都築尊

（一般目標）

顎口腔系の構成、顎口腔機能、顎口腔機能障害、顎口腔機能障害の治療に関する基礎的知識を習得する。

（教育方法）

配布プリント、スライド、症例の呈示

（学習方法）

予習：シラバスに示された教科書などの項目を読んでおくこと。

復習：授業後に配布プリント、講義ノート等を見直すこと。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評価）

定期試験100%。定期試験実施後、模範解答を開示するとともに、質問を受け付ける。

（教科書）

- ① 會田雅啓他編 「冠橋義歯補綴学テキスト 第2版」 永末書店
有歯顎者の顎口腔機能の単元を有する。
- ② 三谷春保原著 「歯学生のパーシャルデンチャー 第6版」 医歯薬出版
- ③ 市川哲雄他編 「無歯顎補綴治療学 第3版」

（参考書）

- ① 日本補綴歯科学会編 「歯科補綴学専門用語集 第5版」 医歯薬出版
（歯科補綴学の専門用語集で歯学生必携の本）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/8	都築尊	ユニット1 咬合学概論	咬合と咬合器の歴史を理解する。	ボンウィル三角とバルクウィル角を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）	配布資料	1.0
					スピーの湾曲、モンソン球面説、ウィルソンカーブを説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					顎運動と咬合面形態の関係を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					咬合器の歴史を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
2	4/15	城戸寛史	ユニット2 解剖	下顎運動に関与する歯以外の解剖を理解する。	顎関節と咀嚼筋の働きを説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）	歯学生のパーシャルデンチャー 第6版P26～P33	1.0
			ユニット3 下顎位	補綴学的咬合様式を理解する。	下顎安静位を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					咬頭嵌合位を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					中心咬合位を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					筋肉位を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					下顎最後退位を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
3	4/22	城戸寛史	ユニット4 下顎運動	基本となる下顎運動を理解する。	矢状面における下顎運動を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）	歯学生のパーシャルデンチャー 第6版P34～P37	1.0
					水平面における下顎運動を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
4	5/13	都築尊	ユニット5 可撤性義歯に関わる解剖学的事項	義歯床縁の形態と解剖の関係を理解する。	義歯の形態と解剖の関係を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）	歯学生のパーシャルデンチャー 第6版P38～P44	1.0
5	5/20	松浦尚志	ユニット6 咬合異常	顎口腔系の障害を理解する。	正常咬合と咬合異常について説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）	歯学生のパーシャルデンチャー 第6版P45～P51	1.0
6	5/27	都築尊	ユニット7 咬合様式	補綴学的咬合様式を理解する。	機能的基準位を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）	歯学生のパーシャルデンチャー 第6版P51～P55	1.0
					偏心位における咬合様式を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
7	6/3	城戸寛史	ユニット8 咬合器	咬合器の概念を理解する。	解剖学的咬合器の分類を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）	歯学生のパーシャルデンチャー 第6版P59～P65	1.0
					調節性咬合器の顆路指導機構による分類を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					咬合器の選択を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
8	6/10	都築尊	ユニット9 下顎運動の記録	下顎運動の記録法を理解する。	フェイスボウトランスファアを説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）	無歯顎補綴治療学 第3版P165～P180	1.0
					模型の咬合器装着を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
9	6/16	都築尊	ユニット9 下顎運動の記録	下顎運動の記録法を理解する。	ゴシックアーチ描記法を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）	無歯顎補綴治療学 第3版P165～P180	1.0
					チェックバイト法を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
10	6/17	都築尊	ユニット10 無歯顎の病因と病態	歯の喪失による顎口腔系の変化を理解する。	顎関節の加齢変化を説明する。	Ⅲ-7	認知（想起）	無歯顎補綴治療学 第3版P1～P47	1.0
					筋の加齢変化を説明する。	Ⅲ-7	認知（想起）		
					神経系の加齢変化を説明する。	Ⅲ-7	認知（想起）		
					下顎運動・下顎位の加齢変化を説明する。	Ⅲ-7	認知（想起）		
					唾液・味覚の加齢変化を説明する。	Ⅲ-7	認知（想起）		
11	6/23	都築尊	ユニット11 全部床義歯の咬合	補綴装置としての全部床義歯を理解する。	人工歯と義歯床を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）	無歯顎補綴治療学 第3版P47～P54、P203～P210	1.0
					全部床義歯の各部の名称と役割を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					物理的、生理的維持力を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					維持力に影響を及ぼす因子を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					全部床義歯の支持を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					平衡咬合を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
12	6/24	都築尊	ユニット12 部分床義歯の特徴と構成要素	部分床義歯の構成要素を理解する。	部分床義歯の構成要素と役割を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）	歯学生のパーシャルデンチャー 第6版P66～P76	1.0
					支台装置の目的と分類を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					連結子の目的と分類を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					義歯床の目的と分類を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					人工歯の目的と分類を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
13	6/30	都築尊	ユニット13 部分床義歯の支持・把持・維持	部分床義歯の支持・把持・維持を理解する。	部分床義歯の支持機構を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）	歯学生のパーシャルデンチャー 第6版P87～P98	1.0
					部分床義歯の把持機構を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					部分床義歯の維持機構を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
14	7/1	都築尊	ユニット14 クラスプの基本的理解	レスト付き二腕鉤を理解する。	クラスプの一般的構造と機能を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）	歯学生のパーシャルデンチャー 第6版P98～P102	1.0
15	7/7	都築尊	ユニット15 症型分類	部分床義歯の設計に有用な症型分類を理解する。	力の負担様式を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）	歯学生のパーシャルデンチャー 第6版P77～P82	1.0
					中間欠損と遊離端欠損を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					Kennedyの分類を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					Eichnerの分類を説明する。	Ⅲ-6	認知（想起）		

内科学Ⅰ 【講義】

科目番号 0D031313

前期：15コマ

評価責任者：大星博明

担当教員：大星博明、徳本正憲、藤井裕樹、原雅俊、吉川 容司

（一般目標）

口腔は体の中の重要な臓器であり、口腔の疾患や障害が全身の疾患を引き起こし、同時に全身疾患が口腔に病変を引き起こす。また、超高齢化社会においては、歯科領域においても全身疾患を有する患者を診察する機会が増加している。1年時に医口腔医学概論で学んだことを基礎として、神経・内分泌代謝・感染・免疫の病態生理と代表的な疾患の臨床を学び、口腔医学における全体的視点の重要性を理解する。

（教育方法）

教科書・プリントによる講義 マルチメディアによる説明

（学習方法）

授業前に下記教科書や参考書の該当箇所を読み、授業後に教科書や参考書と共に配布された資料やプリント等を参照して学習する。
【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評価）

中間試験（30%）、定期試験（70%）
小テストを行い、次の授業で解答状況にあわせて解説を行う。
各試験の後にも質問を受け付ける。

（教科書）

井村裕夫 編集、『わかりやすい内科学』第4版、文光堂、2014（判りやすい内科学の教科書）

（参考書）

西田次郎他 編集、『歯科のための内科学』第4版、南江堂、2018（歯科向けの内科学の教科書）
矢崎義雄 総編集、『内科学』第11版、朝倉書店、2017（内科学の代表的なテキスト）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/10	大星	ユニット1 神経系の構造・機能と神経疾患	神経系の構造と機能を身につけ、神経疾患の特徴と臨床像を理解する。	中枢神経系と末梢神経系の形態機能とその連関を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）	教科書の第7章神経疾患、579-582頁	1.0
					神経疾患へのアプローチの方法を列記する。	Ⅲ-17	認知（問題解決）		
2	4/10	大星	ユニット1 神経系の構造・機能と神経疾患	神経系の構造と機能を身につけ、神経疾患の特徴と臨床像を理解する。	重要な神経徴候を列挙し、神経学的診断法による鑑別の方法を説明する。	Ⅲ-17	認知（問題解決）	教科書の第7章神経疾患、582-592頁	1.0
					脳血管障害を発症機序に基づいて類別する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
3	4/17	大星	ユニット1 神経系の構造・機能と神経疾患	神経系の構造と機能を身につけ、神経疾患の特徴と臨床像を理解する。	脳梗塞を臨床分類に基づいて説明し、診断と治療を述べる。	Ⅲ-17	認知（解釈）	教科書の第7章神経疾患、582-603頁	1.0
					一過性脳虚血発作、脳内出血、くも膜下出血を説明し、診断と治療を述べる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
4	5/17	大星	ユニット1 神経系の構造・機能と神経疾患	神経系の構造と機能を身につけ、神経疾患の特徴と臨床像を理解する。	認知症を類別し、各々の特徴を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）	教科書の第7章神経疾患、603-630頁	1.0
					神経系の変性疾患を類別し、各々の特徴を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					神経系の感染症を述べる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
5	5/1	大星	ユニット1 神経系の構造・機能と神経疾患	神経系の構造と機能を身につけ、神経疾患の特徴と臨床像を理解する。	末梢神経の疾患を列挙し、その特徴を説明できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）	教科書の第7章神経疾患、630-663頁	1.0
					筋肉疾患と機能性神経疾患を列挙し、説明できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
6	5/1	原	ユニット4 内分泌疾患の病態と診断・治療	内分泌臓器の形態・機能とホルモン分泌調節の知識を身につけ、代表的内分泌疾患の診断と治療を理解する。	ホルモン動態および内分泌機能検査を説明する。	Ⅲ-17	認知（問題解決）	教科書の第8章内分泌疾患、665-682頁	1.0
					視床下部疾患の病態生理を知り、その診断と治療を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
7	5/8	大星	ユニット1 神経系の構造・機能と神経疾患	神経系の構造と機能を身につけ、神経疾患の特徴と臨床像を理解する。				中間試験	3.0
8	5/15	原	ユニット4 内分泌疾患の病態と診断・治療	内分泌臓器の形態・機能とホルモン分泌調節の知識を身につけ、代表的内分泌疾患の診断と治療を理解する。	下垂体の機能異常により発症する下垂体性疾患の診断と治療を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）	教科書の第8章内分泌疾患、683-730頁	1.0
					甲状腺、副甲状腺、副腎皮質および副腎髄質の異常により発症する疾患の病態を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎皮質疾患および副腎髄質疾患の診断・治療を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
9	5/22	徳本	ユニット3 感染症の基礎と臨床	感染症の発症機序の知識を身につけ、代表的感染症の概念・診断・治療を理解する。	感染の成立における宿主感染防御能の意義を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）	教科書の第5章感染症、373-389頁、415-422頁、429-436頁	1.0
					日和見感染を院内感染に関連づけ、臨床上の問題点を述べる。	Ⅲ-17	認知（問題解決）		
					ウイルス性感染症の特徴を述べる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					ウイルス性の呼吸器感染症・発疹症・脳炎等の臨床像を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
10	5/29	徳本	ユニット3 感染症の基礎と臨床	感染症の発症機序の知識を身につけ、代表的感染症の概念・診断・治療を理解する。	細菌感染症を類別し、代表的病原細菌を列挙する。	Ⅲ-17	認知（解釈）	教科書の第5章感染症、390-408頁	1.0
					グラム陽性球菌感染症の代表的疾患を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					グラム陰性桿菌感染症の代表的疾患を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					敗血症の診断と治療を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
11	6/5	徳本	ユニット3 感染症の基礎と臨床	感染症の発症機序の知識を身につけ、代表的感染症の概念・診断・治療を理解する。	性感染症の特徴と種類を列挙する。	Ⅲ-17	認知（解釈）	教科書の第5章感染症、409-414頁、422-428頁	1.0
					AIDSの臨床像を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					真菌感染症の特徴を述べ、カンジダ症を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					リケッチア・マイコプラズマ・寄生虫感染症の特徴を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
12	6/12	吉川	ユニット2 免疫の基礎と免疫疾患	免疫疾患の発症機序を知り、免疫の異常で起こる疾患を理解する。	アレルギー（免疫）反応を4型に類別する。	Ⅲ-17	認知（解釈）	教科書の第4章免疫疾患、303-356頁	1.0
					自己免疫疾患を全身性自己免疫疾患と臓器特異性自己免疫疾患に分類する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					膠原病の病態を知り、代表的膠原病の診断と治療を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					不明熱の病因と診断を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
13	6/19	吉川	ユニット2 免疫の基礎と免疫疾患	免疫疾患の発症機序を知り、免疫の異常で起こる疾患を理解する。	アナフィラキシーの原因と病状を説明する。	Ⅳ-16	認知（問題解決）	教科書の第4章免疫疾患、357-372頁、923-925頁	1.0
					薬物アレルギー、気道アレルギーの臨床像を述べる。	Ⅳ-16	認知（解釈）		
					免疫不全の特徴を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
14	6/26	藤井	ユニット5 代謝・栄養疾患の基礎と臨床	代謝・栄養の基礎を身につけ、代謝の障害と栄養の過剰・欠乏で起こる疾患の特徴を理解する。	代謝の基礎的事項を説明する。	Ⅲ-17	認知（問題解決）	教科書の第9章代謝・栄養疾患、731-784頁	1.0
					糖尿病を類別し、その診断・治療および糖尿病性合併症を理解する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					高脂血症、痛風等の生活習慣病の種類と診断・治療について説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
15	7/3	藤井	ユニット5 代謝・栄養疾患の基礎と臨床	代謝・栄養の基礎を身につけ、代謝の障害と栄養の過剰・欠乏で起こる疾患の特徴を理解する。	栄養素の種類と機能を述べる。	Ⅲ-17	認知（問題解決）	教科書の第9章代謝・栄養疾患、771-790頁	1.0
					ビタミン欠乏状態から発症する病態を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					病的肥満の病態生理とその合併症を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		

隣接医学Ⅰ（小児科）【講義】

科目番号 0D031311C

前期：7コマ

評価責任者：鳥巢 浩幸

担当教員：鳥巢 浩幸
岡田 賢司

（一般目標）

小児の特性および小児期特有の疾患について理解する。

（教育方法）

小児の成長発達、小児保健および小児疾患全般について解説する。
基本的にスライドを用いて講義を行い、コピー資料を配布する。

（学習方法）

予習は、講義ごとの行動目標のキーワードについて調べておく
講義終了後、配布資料を用いて、復習を行い、参考書で理解を深めておく。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：5.8 時間】

（評価）

出席点は1回2点、総計14点とする。
中間試験（第1～3回講義の範囲）20点
定期試験（全範囲）66点
試験問題は○×形式と選択形式を併用する。
中間試験後に解説を行う
定期試験の結果は、隣接医学Ⅰの総合判定として掲示する

（教科書）

特に指定書はない。スライドコピーで代用する。

（参考書）

標準小児科学（第8版） 医学書院
小児科学（改訂10版） 文光堂

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/2	鳥巢浩幸	ユニット1 小児の成長と発達	・新生児～青年期までの成長と発達過程を理解する。	小児の身体的特徴を年齢別に説明できる。	Ⅲ-3	認知（解釈）	小児と大人の違いについて考えておく	1.0
					小児の精神的発達を述べることができる。	Ⅲ-3	認知（解釈）		
			ユニット2 摂食機能の発達	・小児の摂食機能の発達を理解する。	小児の摂食機能の発達が説明できる。	Ⅲ-3	認知（解釈）		
2	4/9	岡田賢司	ユニット3 小児の感染症	・小児の主な感染症の症状、治療を理解する。	主な感染症の症状と治療を述べることができる。	Ⅲ-4	認知（解釈）	予防接種について調べておく	1.0
			ユニット4 予防接種	・予防接種の目的と主な予防接種を理解する。	予防接種の目的、種類と接種時期を述べることができる。	Ⅲ-22	認知（解釈）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
3	4/16	鳥巢浩幸	ユニット5 先天異常	・頻度の高い先天異常を理解する。	ダウン症の特徴を説明できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）	ダウン症について調べておく	1.0
					先天異常の原因を説明できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
			ユニット6 小児の神経疾患	・小児の主な神経疾患を理解する。 てんかん、脳性麻痺を理解する。	小児の主な神経疾患を知る。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					てんかんについて説明できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
4	4/23	鳥巢浩幸	ユニット7 小児の発達障害	・発達障害を理解する	発達障害の特徴を説明できる。	Ⅲ-16	認知（解釈）	これまでの復習をしておく	1.0
			中間試験						
5	4/30	岡田賢司	ユニット8 小児の消化器疾患	・小児の主な消化器疾患の症状、治療を理解する。	主な消化器疾患で手術が必要なものを述べるができる。	Ⅲ-17	認知（解釈）	気管支喘息について調べておく	1.0
			ユニット9 小児のアレルギーと呼吸器疾患	・小児期のアレルギー、呼吸器疾患の病態と治療を理解する。	口腔症状を呈する主なアレルギー疾患と呼吸器疾患の症状を述べるができる。	Ⅲ-12	認知（解釈）		
6	5/7	岡田賢司	ユニット9 小児のアレルギーと呼吸器疾患	・小児期のアレルギー、呼吸器疾患の病態と治療を理解する。	アナフィラキシーなど小児の全身の偶発症の現状を理解し、その対策を述べる。	Ⅳ-13	認知（解釈）	アナフィラキシーについて調べておく	1.0
			ユニット10 小児の免疫異常	・小児の免疫異常を理解する。	口腔症状を呈する主な免疫異常の病態を説明できる。	Ⅲ-4	認知（解釈）		
7	5/14	鳥巢浩幸	ユニット11 小児の循環器疾患と血液疾患	・口腔内所見を認める血液疾患および感染症心内膜炎の病態を理解する。	先天性心臓病と感染性心内膜炎について説明できる。	Ⅲ-12	認知（解釈）	小児の虐待について調べておく	1.0
					血液疾患による主な口腔症状を理解し、対策を述べるができる。	Ⅲ-12	認知（解釈）		
			ユニット12 小児保健	・小児保健と学校保健を理解する。	小児保健・学校保健の概略を説明できる。	Ⅲ-22	認知（解釈）		
			ユニット13 小児の事故 児童虐待	・小児の虐待について理解する。	小児虐待について説明できる。	I-6	認知（解釈）		

隣接医学Ⅰ（形成・美容）【講義】

科目番号 0D031311D

前期：3コマ

評価責任者：萩家康弘

【形成・美容外科学】

担当教員：萩家 康弘

大慈弥裕之

（一般目標）

【形成・美容外科学】

- 1）審美（美容）的に高度な歯科治療を要求される現状に対応できる歯科医師となるための基本的知識と治療法を習得する。
- 2）拡大する美容医療・抗加齢医学の分野に適応できる歯科医師に必要な基本的知識を理解する。
- 3）形成・審美（美容）的施術は特殊であり、これを行う際の心構えを身につける。
- 4）専門的な知識を自分の言葉で正確に理解し客観試験でそれを評価する。

（教育方法）

【形成・美容外科学】

参考書に基づく講義を行なうが講義テーマ毎に資料を配布しスライドを使用して、この範囲で試験を行い評価する。学生との質疑応答を取り入れた講義を中心とし 前回講義の確認小テストを最初に実施して学生の理解を確認する。

（ディスカッション・ディベート）

（学習方法）

【形成・美容外科学】

講義前に参考書を読み、講義後、資料と参考書を併せて読む。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 4.0 時間】

（評 価）

【形成・美容外科学】

講義中の小テストにより講義内容についての理解を各自整理し、これを客観試験に活用するようにして定期試験を行い評価する。評価判定後、評価結果を呈示する。

（教 科 書）

【形成・美容外科学】

なし

医科歯科共通で用いるに適した内容の書物がない

（参 考 書）

【形成・美容外科学】

- 1）塩谷信幸 監修、真田弘美・他 編集：創傷治癒、ブレーン出版 2005年
- 2）日本抗加齢医学会分科会 見た目のアンチエイジング研究会 編者：見た目のアンチエイジング 皮膚・容貌・体型の若返りの手法、文光堂 2011年
- 3）日本抗加齢医学会専門医・指導医認定委員会 監修、吉川敏一・他 編集：アンチエイジング医学の基礎と臨床、メディカルビュー社 2004年
- 4）秦 維郎・野崎幹弘 編集：標準形成外科学、医学書院 2008年

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピューター	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	5/21	萩家康弘	【形成・美容外科学1】ユニット1 形成外科学 概論	形成外科の概念、歴史、基本手技を理解する。	RSTL (relaxed skin tension line) を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）	参考書4）総論1-I・総論2-1-Ⅲ・総論2-1-Ⅳ・総論2-II・各論2-5-I-A・各論2-7-I-A	1.5
					真皮縫合を説明する。	Ⅳ-4	認知（問題解決）		
					表面縫合の種類を説明する。	Ⅳ-4	認知（問題解決）		
			【形成・美容外科学1】ユニット1 形成外科学 概論（創傷治癒）	創傷治癒における、炎症期、増殖期、再構築期の現象を理解する。	創傷治癒のステージを説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）		
					各ステージに現れる細胞成分、液性増殖因子について述べる。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
					創傷治癒を阻害する因子を説明する。	Ⅳ-2	認知（問題解決）		
			【形成・美容外科学1】ユニット2 形成外科学（急性創傷と慢性創傷）	急性創傷と慢性創傷を理解し治療方法について習得する。	湿潤療法の概念を説明する。	Ⅳ-4	認知（問題解決）		
					急性創傷に対する管理の基本を説明する。	Ⅳ-4	認知（問題解決）		
					慢性創傷の問題点と治療法を説明する。	Ⅳ-4	認知（問題解決）		
					創感染の病態と管理法を説明する。	Ⅳ-4	認知（問題解決）		
			【形成・美容外科学1】ユニット2 形成外科学（組織欠損に対するアプローチ）	組織欠損に対する形成外科的アプローチを理解する。	植皮術や皮弁形成術について説明する。	Ⅳ-4	認知（問題解決）		
					遊離皮弁とマイクロサージャリーを説明する。	Ⅳ-4	認知（問題解決）		
2	5/28	大慈弥裕之	【形成・美容外科学2】ユニット3 抗加齢医学 概論（医科）	老化のメカニズムと治療のメカニズムを理解する。	抗加齢医学の目的を説明する。	Ⅲ-3	認知（解釈）	参考書2）総論・各論2-1）・各論2-4）参考書4）各論2-9-I・各論3	1.5
					抗加齢医学の対象と範囲を説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）		
			【形成・美容外科学3】ユニット5 美容医療学 概論	美容医療・抗加齢医学的アプローチを理解する。	美容医療の概念と対象を説明する。	Ⅲ-3	認知（解釈）		
					皮膚の老化・老化度・シワ・タルミの診断・治療を説明する。	Ⅳ-1	認知（解釈）		
					再生医療（PRP注入を含む）を説明する。	Ⅳ-3	認知（解釈）		
3	6/4	萩家康弘	【形成・美容外科学3】ユニット6 美容医療学（皮膚科・形成外科学）	抗加齢医学的美容医療の実技を理解する。	注入療法（ボツリヌス毒素製剤を含む）を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）	参考書2）各論2-9-II-A・参考書4）総論1-II・Ⅲ・各論2-7）・各論2-8）・各論4	1.0
					レーザー・光治療を説明する。	Ⅳ-4	認知（問題解決）		
					サプリメントの最新知識を説明する。	Ⅳ-4	認知（問題解決）		
			【形成・美容外科学3】ユニット7 美容医療学（美容外科学）	美容外科の臨床アプローチや基本手技を理解する。	審美的施術に臨む心構えを具体的に述べる。	Ⅳ-1	認知（問題解決）		
					他の美容外科治療法を説明する。	Ⅳ-4	認知（解釈）		

隣接医学Ⅰ（皮膚科）【講義】

科目番号 0D031311A

前期：3コマ

評価責任者：古村南夫

担当教員：古村南夫、伊藤絵里子

（一般目標）

口腔粘膜病変には、①口腔だけにみられる病変、②皮膚疾患と関連のある病変、③全身性疾患の一つの症状として現れるものがある。全身性疾患に加えて皮膚疾患全般の基本的事項を修得することによって、形態的な分類が難しい口腔粘膜病変についての理解を深める。

（教育方法）

教科書・プリント・カラスライドなどを用いて臨床講義形式で行う。
（ディスカッション・ディベート）

（学習方法）

予習・復習方法：授業前後に下記教科書や参考書の該当箇所を読むこと。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：3.0 時間】

（評価）

定期試験による客観試験とする。5肢択一式問題を約10問出題する。
フィードバックとして、試験後に模範解答を掲示し、学生の自己採点を通して重要な知識の再確認を促す。

（教科書）

山崎雙次ほか 「第2版 歯科医のための皮膚科学」、医歯薬出版株式会社、2011
歯科医師および歯科医師国家試験受験に必要な皮膚科学に関連した知識が簡潔に解説されている。

（参考書）

1. 神部芳則ほか、全身疾患関連の口腔粘膜病変アトラス、医療文化社、2011
全身疾患に関連した口腔粘膜病変の臨床写真が多用され、解説も系統的にわかりやすく記載されている。
2. 全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議監修、口の中がわかる ビジュアル 歯科口腔科学読本、クインテッセンス出版、2017
口腔粘膜病変と関連した全身疾患、皮膚疾患の病態や鑑別診断のポイントが、臨床写真やイラストを多用して、わかりやすく簡潔に解説されている。基礎（解剖、機能）、検査・診断から疾患まで、歯科・口腔外科領域が広くカバーされており、必要な情報がすぐに確認できる。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	6/11	古村南夫	ユニット1 皮膚粘膜腫瘍、母斑・母斑症、口腔内病変、水疱症・膿疱症	皮膚粘膜腫瘍の病態を理解する。皮膚疾患・全身疾患の口腔粘膜疾患との関連性を知る。	皮膚・粘膜疾患の種類・病態・治療を説明する。皮膚疾患と口腔粘膜疾患との関連性や全身疾患と口腔粘膜疾患の関連性について説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）	授業前に教科書の該当箇所を読む。Ⅱ各論1の7、12-14、22、23章	1.0
2	6/18	伊藤絵里子	ユニット2 皮膚の構造と機能、湿疹・皮膚炎、蕁麻疹・紅斑症、角化症・炎症性角化症	皮膚の構造・機能を理解する。皮膚疾患の病態と口腔粘膜疾患を比較して位置付ける。	皮膚の構造・機能を説明する。皮膚疾患の種類・病態・治療を説明する。口腔症状を呈するアレルギー性疾患について説明する。金属アレルギーの病態と症候について説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）	授業前に教科書の該当箇所を読む。Ⅰ総論の1章、Ⅱ各論1の1-3、8章	1.0
3	6/25	伊藤絵里子	ユニット3 膠原病、薬剤アレルギー、皮膚感染症、性病	皮膚疾患・全身疾患と口腔粘膜疾患との病態の関連を理解する。	皮膚疾患の種類・病態・治療を説明する。口腔症状を呈する薬剤アレルギー、膠原病、性病について説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）	授業前に教科書の該当箇所を読む。Ⅱ各論1の4、6、9、15-21章、Ⅲ各論2の1、2章	1.0

隣接医学Ⅰ（産婦人科）【講義】

科目番号 0D031311B

前期：3コマ

評価責任者：学生部長、学生部次長

宮田 康平（福岡大学）

担当教員：井槌 大介（福岡大学）

伊東 智宏（福岡大学）

（一般目標）

全身の視野を有する歯科医師の養成のために、医学の基礎的な領域の1つである産婦人科学の基本的事項を習得する。具体的には、生殖内分泌学、婦人科腫瘍学、周産期学の代表的疾患と、それらの理解に必要な生殖器解剖・生殖生理について理解する。

（教育方法）

教科書・スライド・プリントによる講義

（学習方法）

授業前後に教科書の該当箇所を読むこと。

【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 3.0 時間】

（評価）

記述試験（100%）掲示により成績通知を行う。

（教科書）

丸尾猛、岡井崇 編集「標準産科婦人科学 第3版」医学書院

（参考書）

なし

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	6/18	宮田	ユニット1 生殖内分泌（月経/不妊症総論） 婦人科感染症（性感染症/付属器炎）	健全な生殖現象の成立に必要な生理機能とこれを阻害する因子を知る。各種性感染症について、基礎的知識と蔓延の実態、予防や治療等について理解する。	視床下部-下垂体-卵巢系の内分泌学的調節機構について説明する。 排卵のしくみを理解し、卵巢機能障害や月経異常の原因、診断法、治療法を述べる。 不妊/不育症の原因、診断法、治療法を述べる。 性感染症の概念を説明する。 性感染症の概念を理解し、予防/治療法を説明する。	Ⅲ-2 Ⅲ-5 Ⅲ-5 Ⅲ-4 Ⅲ-5	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	教科書のP30からP83 教科書のP229からP239	1.0
2	6/25	井槌	ユニット2 産科学の基礎 産科検査法 周産期の管理	母体、胎児を含めた正常妊娠経過について理解する。胎児、胎盤検査法の意義について理解する。正常分娩経過、産褥経過について理解する。	妊娠に伴う母体の生理的変化について説明できる。 正常胎児発育について理解する。妊娠の診断法を説明できる。 産科超音波検査法について説明できる。 分娩監視装置による検査法の意義と異常所見を説明できる。 正常分娩の経過について説明できる。正常産褥の経過を説明できる。	Ⅲ-2 Ⅲ-3 Ⅲ-2 Ⅲ-17 Ⅲ-2	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	教科書のP288からP316 教科書のP411からP445 教科書のP446からP463, P526からP531	1.0
3	7/2	伊東	ユニット3 婦人科概論 婦人科腫瘍学	女性性器の解剖学的および生理学的特性を理解する。婦人科疾患の症候、診断方法、治療の概要を理解する。主たる婦人科腫瘍について、その徴候、進行期、診断方法、治療方法を理解する。	女性性器の構造を具体的に説明する。 女性性器の生理学的特徴を説明する。 子宮頸癌の徴候、進行期、治療法の概要を説明する。 子宮体癌の徴候、進行期、治療法の概要を説明する。 卵巢癌の徴候、進行期、治療法の概要を説明する。	Ⅲ-2 Ⅲ-2 Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	教科書のP1からP13, P18からP29, P245からP269 教科書のP101からP164	1.0

後 期

令和2年度 授業時間割表 【第3学年】

(後期)

3年生		20	25	25	15	25	25	25	25	25	20	25
月曜日	時間	8月31日	9月7日	9月14日	9月21日	9月28日	10月5日	10月12日	10月19日	10月26日	11月2日	11月9日
1限目	(9:00-10:20)		高齢学Ⅱ-1 701	高齢学Ⅱ-3 701	敬老の日	基礎研究演習/A 班介護実習-5	介護実習-11	高齢学Ⅱ-5 701	高齢学Ⅱ-7 701	高齢学Ⅱ-9 701	高齢学Ⅱ-11 701	高齢学Ⅱ-13 701
2限目	(10:35-11:55)		高齢学Ⅱ-2 701	高齢学Ⅱ-4 701		基礎研究演習/A 班介護実習-6	介護実習-12	高齢学Ⅱ-6 701	高齢学Ⅱ-8 701	高齢学Ⅱ-10 701	高齢学Ⅱ-12 701	高齢学Ⅱ-14 701
3限目	(13:00-14:20)		南内療法学-1 701	南内療法学-2 701		基礎研究演習/A 班介護実習-7	南内療法学-3 701	基礎研究演習-22 合同成果報告会	南内療法学-4 701	南内療法学-5 701	南内療法学-6 701	南内療法学-8 701
4限目	(14:35-15:55)		臨床栄養学-2 701	臨床栄養学-3 701		基礎研究演習/A 班介護実習-8	臨床栄養学-4 701	基礎研究演習-23 合同成果報告会	臨床栄養学-5 701	臨床栄養学-7 701	南内療法学-7 701	南内療法学-9 701
5限目	(16:10-17:30)					基礎研究演習/A 班介護実習-9		基礎研究演習-24 合同成果報告会				
						A班介護実習-10						

[illegible]

3年生												
水曜日	時間	9月2日	9月9日	9月16日	9月23日	9月30日	10月7日	10月14日	10月21日	10月28日	11月4日	11月11日
1眼目	(9:00-10:20)	小児歯科学Ⅰ-1 701	小児歯科学Ⅰ-2 701	小児歯科学Ⅰ-3 701	小児歯科学Ⅰ-4 701	基礎研究演習	小児歯科学Ⅰ-5 701	小児歯科学Ⅰ-6 701	小児歯科学Ⅰ-7 701	小児歯科学Ⅰ-8 701	小児歯科学Ⅰ-9 701	小児歯科学Ⅰ-10 701
2眼目	(10:35-11:55)	冠橋義歯学Ⅰ-1 701	冠橋義歯学Ⅰ-2 701	冠橋義歯学Ⅰ-3 701	冠橋義歯学Ⅰ-4 701	基礎研究演習	冠橋義歯学Ⅰ-5 701	冠橋義歯学Ⅰ-6 701	冠橋義歯学Ⅰ-7 701	冠橋義歯学Ⅰ-8 701	冠橋義歯学Ⅰ-9 701	冠橋義歯学Ⅰ-10 701
3眼目	(13:00-14:20)	歯科修復基礎実習-1 402	歯科修復基礎実習-4 402	歯科修復基礎実習-7 402	歯科修復基礎実習-10 402	基礎研究演習	歯科修復基礎実習-13 402	歯科修復基礎実習-16 402	歯科修復基礎実習-19 402	歯科修復基礎実習-22 402	歯科修復基礎実習-25 402	歯科修復基礎実習-28 402
4眼目	(14:35-15:55)	歯科修復基礎実習-2 402	歯科修復基礎実習-5 402	歯科修復基礎実習-8 402	歯科修復基礎実習-11 402	基礎研究演習	歯科修復基礎実習-14 402	歯科修復基礎実習-17 402	歯科修復基礎実習-20 402	歯科修復基礎実習-23 402	歯科修復基礎実習-26 402	歯科修復基礎実習-29 402
5眼目	(16:10-17:30)	歯科修復基礎実習-3 402	歯科修復基礎実習-6 402	歯科修復基礎実習-9 402	歯科修復基礎実習-12 402	基礎研究演習	歯科修復基礎実習-15 402	歯科修復基礎実習-18 402	歯科修復基礎実習-21 402	歯科修復基礎実習-24 402	歯科修復基礎実習-27 402	歯科修復基礎実習-30 402

3年生												
木曜日	時間	9月3日	9月10日	9月17日	9月24日	10月1日	10月8日	10月15日	10月22日	10月29日	11月5日	11月12日
1眼目	(9:00-10:20)	医事法制-1 701	医事法制-2 701	医事法制-3 701	医事法制-4 701	基礎研究演習/C 班介護実習-5	医事法制-5 701	医事法制-6 701	医事法制-7 701	医事法制-8 701	医事法制-9 701	医事法制-10 701
2眼目	(10:35-11:55)	有床義歯補綴学 I-1 701	有床義歯補綴学 I-2 701	有床義歯補綴学 I-3 701	有床義歯補綴学 I-4 701	基礎研究演習/C 班介護実習-6	有床義歯補綴学 I-5 701	有床義歯補綴学 I-6 701	有床義歯補綴学 I-7 701	有床義歯補綴学 I-8 701	有床義歯補綴学 I-9 701	有床義歯補綴学 I-10 701
3眼目	(13:00-14:20)	社会歯科学-1 701	社会歯科学-2 701	社会歯科学-3 701	社会歯科学-4 701	基礎研究演習/C 班介護実習-7	社会歯科学-5 701	社会歯科学-6 701	社会歯科学-7 701	社会歯科学-8 701	社会歯科学-9 701	社会歯科学-10 701
4眼目	(14:35-15:55)	隣接医学Ⅱ-1 (整形外科-1)	隣接医学Ⅱ-2 (整形外科-2)	隣接医学Ⅱ-3 (整形外科-3)	隣接医学Ⅱ-4 (整形外科-4)	基礎研究演習/C 班介護実習-8	隣接医学Ⅱ-5 (整形外科-5)	隣接医学Ⅱ-7 (耳鼻喉科-1)	隣接医学Ⅱ-9 (耳鼻喉科-2)	隣接医学Ⅱ-10 (耳鼻喉科-3)	隣接医学Ⅱ-12 (耳鼻喉科-4)	隣接医学Ⅱ-14 (耳鼻喉科-5)
5眼目	(16:10-17:30)					基礎研究演習/C 班介護実習-9	隣接医学Ⅱ-6 (泌尿器科-1)	地域医療・ 災害口腔医学-8 701	隣接医学Ⅱ-8 (泌尿器科-2)	地域医療・ 災害口腔医学-13 701	地域医療・ 災害口腔医学-16 701	地域医療・ 災害口腔医学-19 701
						C班介護実習-10						

[illegible]

25	20	25	25	25	5					
11月16日	11月23日	11月30日	12月7日	12月14日	12月21日	12月28日	1月4日	1月11日	1月18日	1月25日
齲蝕学Ⅱ-15 701	勤労感謝の日	齲蝕学Ⅱ-17 701	齲蝕学Ⅱ-19 701	歯内療法学-16 701				成人の日		
齲蝕学Ⅱ-16 701		齲蝕学Ⅱ-18 701	歯内療法学-14 701	歯内療法学-17 701						
歯内療法学-10 701		歯内療法学-12 701	歯内療法学-15 701	臨床栄養学-14 701			定期試験(予定)			
歯内療法学-11 701		歯内療法学-13 701	臨床栄養学-13 701	臨床栄養学-15 701						

11月17日	11月24日	12月1日	12月8日	12月15日	12月22日	12月29日	1月5日	1月12日	1月19日	1月26日
歯科矯正学Ⅰ-9 701	歯科矯正学Ⅰ-10 701	歯科矯正学Ⅰ-11 701	歯科矯正学Ⅰ-12 701	歯科矯正学Ⅰ-14 701			定期試験(予定)	定期試験(予定)		
内科学-9 701	内科学-10 701	内科学-11 701	内科学-12 701	内科学-15 701						
臨床薬理学-11 701	臨床薬理学-12 701	臨床薬理学-13 701	臨床薬理学-14 701	臨床薬理学-15 701						
歯周治療学Ⅰ-11 701	歯周治療学Ⅰ-12 701	歯周治療学Ⅰ-13 701	歯周治療学Ⅰ-14 701	歯周治療学Ⅰ-15 701						

11月18日	11月25日	12月2日	12月9日	12月16日	12月23日	12月30日	1月6日	1月13日	1月20日	1月27日
小児歯科学Ⅰ-11 701	小児歯科学Ⅰ-12 701	小児歯科学Ⅰ-13 701	小児歯科学Ⅰ-14 701	小児歯科学Ⅰ-15 701			定期試験(予定)	定期試験(予定)		
冠橋義歯学Ⅰ-11 701	冠橋義歯学Ⅰ-12 701	冠橋義歯学Ⅰ-13 701	冠橋義歯学Ⅰ-14 701	冠橋義歯学Ⅰ-15 701						
歯冠修復 基礎実習-31 402	歯冠修復 基礎実習-34 402	歯冠修復 基礎実習-37 402	歯冠修復 基礎実習-40 402	歯冠修復 基礎実習-43 402						
歯冠修復 基礎実習-32 402	歯冠修復 基礎実習-35 402	歯冠修復 基礎実習-38 402	歯冠修復 基礎実習-41 402	歯冠修復 基礎実習-44 402						
歯冠修復 基礎実習-33 402	歯冠修復 基礎実習-36 402	歯冠修復 基礎実習-39 402	歯冠修復 基礎実習-42 402	歯冠修復 基礎実習-45 402						

11月19日	11月26日	12月3日	12月10日	12月17日	12月24日	12月31日	1月7日	1月14日	1月21日	1月28日
医事法制-11 701	医事法制-12 701	医事法制-13 701	医事法制-14 701	医事法制-15 701			定期試験(予定)	定期試験(予定)		
有床義歯補綴学Ⅰ-11 701	有床義歯補綴学Ⅰ-12 701	有床義歯補綴学Ⅰ-13 701	有床義歯補綴学Ⅰ-14 701	有床義歯補綴学Ⅰ-15 701						
社会歯科学-11 701	社会歯科学-13 701	社会歯科学-15 701	社会歯科学-17 701	社会歯科学-19 701						
社会歯科学-12 701	社会歯科学-14 701	社会歯科学-16 701	社会歯科学-18 701	社会歯科学-20 701						
地域医療・ 災害口腔医学-22 701										

11月20日	11月27日	12月4日	12月11日	12月18日	12月25日	1月1日	1月8日	1月15日	1月22日	1月29日
地域医療・ 災害口腔医学-23 (実習)	地域医療・ 災害口腔医学-25 (実習)	地域医療・ 災害口腔医学-27 701	地域医療・ 災害口腔医学-29 701	歯科矯正学Ⅰ-15 701			定期試験(予定)			
地域医療・ 災害口腔医学-24 (実習)	地域医療・ 災害口腔医学-26 (実習)	地域医療・ 災害口腔医学-28 701	地域医療・ 災害口腔医学-30 701	地域医療・ 災害口腔医学-31 701						
隣接医学Ⅱ-15 (眼科-3)	隣接医学Ⅱ-16 (眼科-4)	隣接医学Ⅱ-17 (眼科-5)	歯科矯正学Ⅰ-13 701							
臨床栄養学-10 701	臨床栄養学-11 701	臨床栄養学-12 701	内科学-13 701							
			内科学-14 701							

課題解決演習Ⅱ 【演習】

科目番号 OD031001

後期：9コマ

評価責任者：尾崎 正雄

- ◆基礎研究演習
※基礎研究演習シラバスに記載の担当教員と同一
- ◆口腔保健学実習
埴岡 隆、谷口奈央、島津 篤、渡辺 猛、内藤麻利江、矢田部尚子
- 担当教員：◆歯冠修復基礎実習
松浦尚志、山口雄一郎、加我公行、柴口塊、宮園祥爾
- ◆地域医療・災害口腔医学
森田浩光、牧野路子、堤貴司

（一般目標）

◆全般

1. 自ら考え、実践を積み、それをフィードバックし、知識・実践知を系統立てて整理するために必要な基本的能力を育む
2. 異なった専門的背景を持つ職種間で、共有した目標に向けて協働するために必要な基本的能力を育む

◆基礎研究演習

基礎研究室において、研究の基本を体験するとともに、生命科学や医療技術の成果を学び、病因、病態を解明するなどの研究マインドを育成する。

◆口腔保健学実習

健康行動の変容支援に携わる歯科医師の将来像の意識を醸成するとともに、患者自ら口腔の健康増進と歯科疾患の予防に関する課題を解決するための動機づけおよび行動変容の支援に関する基本技能を習得する。

◆歯冠修復基礎実習

提示された症例から、問診、検査、診断、治療計画の立案、インフォームドコンセント、治療の実践のプロセスの重要性と実践方法を理解する。

◆地域医療・災害口腔医学

地域包括ケアシステムにおいて、医療チームの一員として医科歯科連携の実践のために、必要な知識・技能・態度を修得する。

（教育方法）

◆基礎研究演習

パワーポイントを用いた研究成果の公表

◆口腔保健学実習

ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習・演習（ロールプレーを含む）

◆歯冠修復基礎実習

印刷物として提示された症例の資料をステップごとに手渡し、グループで討論する。

◆地域医療・災害口腔医学

問題解決型実習（PBL）

（ディスカッション・ディベート）（グループワーク）（プレゼンテーション）（実習・演習）

（学習方法）

◆基礎研究演習

小グループごとに公開発表会前に研究演習の成果をまとめる。

◆口腔保健学実習

実習前後に下記教科書や参考書の該当箇所を読むこと。与えられた課題を解決する。実習要領にしたがって担当ケースに習熟しておくこと。

◆歯冠修復基礎実習

ステップごとの課題についてグループで討論して、グループごとの結論を見出す。

◆地域医療・災害口腔医学

事前学習を行っていることを前提に進めるので、必ず事前に教科書・参考書・授業プリントを用いて予習を行うこと。また実習終了後は必ず重要事項の復習を行い、理解を定着させるよう努めること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 27.0 時間】

(評 価)

◆基礎研究演習

パワーポイントを用いた研究成果の公表結果を評価する。
各研究室での研究活動内容は、公開発表会にて学生全員並びに教員へ公表される。

◆口腔保健学実習

実習態度（30%）と実習帳レポート評価（30%）のフィードバックおよび実習試験（40%）による評価を行う。

◆歯冠修復基礎実習

態度を評価する。

◆地域医療・災害口腔医学

評価シートを用いての評価：評価後、コメントとともに返却
口頭試問による評価：試問中に適宜、コメント
観察記録による評価：評価後、コメントとともに返却

(教 科 書)

◆基礎研究演習

配属研究室で別途指定する。

◆口腔保健学実習

1. 安井利一、宮崎秀夫、鶴本明久、川口陽子、山下喜久、廣瀬公治編、「口腔保健・予防歯科学」、医歯薬出版、2018
4年生口腔保健学実習帳

◆歯冠修復基礎実習

會田雅啓ほか 「冠橋義歯補綴学 第3版」、永末書店
歯科補綴学専門用語集 第5版、医歯薬出版

◆地域医療・災害口腔医学

今井裕、岩淵博史 監修「有病者歯科学」永末書店 2018
全身疾患と歯科治療時の注意点についてわかりやすく解説されている。

(参 考 書)

◆基礎研究演習

配属研究室で別途指定する。

◆口腔保健学実習

タバコ白書第4版、禁煙支援マニュアル、WHO禁煙と口腔保健の統合報告書と患者ガイド・歯科手引書

◆歯冠修復基礎実習

Rosenstielほか「Contemporary Fixed Prosthodontics, 5th ed.」, Mosby 日本語訳もある。

◆地域医療・災害口腔医学

西田百代 監修 「有病高齢者歯科治療のガイドライン（上・下）」 クインテッセンス出版 2013
全身疾患と歯科治療についてわかりやすく解説されている。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1 2 3	10/12 10/12 10/12	基礎研究演習担当教員	研究成果の発表と議論の重要性の理解	研究成果をまとめて、多数の聴衆に向けて公表し、質疑応答をおこなう。	小グループごとに研究内容を要約し、全体に向けて発表できる。 研究、実験データや新たな課題について他の学生（研究者）とディスカッションできる。	I-8 I-8	精神運動（支援部分） 精神運動（支援部分）	小グループごとに公開発表会前に研究演習の成果をまとめる。	1] 12.0
4 5	10/23 10/23	埴岡 隆、渡辺 猛、谷口 奈央、島津 篤、内藤麻利江、矢田部尚子、松尾忠行（福岡医療短期大学）	禁煙指導・禁煙支援	禁煙指導・禁煙支援の実践を理解する。	禁煙指導・禁煙支援を説明できる。	IV-6	情意（実践状況対応）	禁煙指導・禁煙支援	4] 5.0
6 7	12/9 12/9	松浦尚志、山口雄一郎、加我公行、柴口塊、宮園祥爾	歯質欠損に対する検査・診断・治療計画の立案	歯質欠損に対する検査・診断・治療計画の立案の流れを理解する。	歯質欠損に対する検査・診断・治療計画の立案を説明できる。	Ⅲ-9	認知（問題解決）	実習書の該当ページ	6] 5.0
8 9	12/11 12/11	森田浩光、牧野路子、堤貴司	全身管理実習	全身疾患を有する患者への歯科治療時の医科歯科連携について理解する	全身疾患を有する患者の歯科治療時のリスクを説明する 服用薬剤と歯科治療に用いる薬剤との相互作用を説明する 全身疾患の重症度と歯科治療のリスクについて評価する 全身疾患の重症度について医科に相談する	IV-17 IV-17 IV-17 IV-17	認知（解釈） 認知（解釈） 認知（問題解決） 認知（問題解決）	教科書・参考書の該当部分を予習	8] 5.0

臨床薬理学 【講義】

科目番号 OD031115

後期：15コマ

評価責任者：八田光世

担当教員：八田光世、長岡良礼、大久保つや子

（一般目標）

全身疾患の治療に繁用される薬物の薬理作用・副作用、薬物動態、薬物相互作用を理解すると共に、それらを処方されている患者に対して、歯科で更に薬物を使用する際の基盤となる知識を修得する。

（教育方法）

教科書と参考書「ポイントがよくわかるシンプル歯科薬理学」を中心に、配布資料、板書、パワーポイントを用いて講義する。
（実習・演習）

（学習方法）

【予習方法】授業前に教科書の該当箇所を読むこと。

【復習方法】授業後に教科書・参考書、配布資料、板書ノートを用いて講義内容を復習する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 17.0 時間】

（評価）

【評価方法】

中間試験（40％）：ユニット1-3を範囲とする。

定期試験（60％）：ユニット4-7を範囲とする。

各ユニットでの小テストやレポート（他提出物）に対しての配点は上記の試験点数に含める。

【学生へのフィードバックの時期と方法】

各試験後に成績を掲示し、模範解答・答案を開示する。必要に応じて個別に指導する。

（教科書）

大谷 啓一監修 「現代歯科薬理学」第6版 医歯薬出版 2018年

（参考書）

大浦 清ら編 「ポイントがよくわかるシンプル歯科薬理学 第2版」 永末書店 2019年

（理解しやすいように内容が簡潔にまとめられている。覚えるべき重要事項や薬物が示されており、理解度を図るための練習問題も設けられている。）

田中 千賀子ら編 「NEW薬理学 改訂第7版」南江堂 2017年

（作用メカニズム、分子薬理学などを中心に充実している。）

安達一典ら編 「解る！歯科薬理学第3版」 学建書院 2019年

（必要なことがわかりやすく書かれた本、理解度を図るためのセルフチェックが設けられている。）

大浦 清、戸苅 彰史編「歯科衛生士テキスト 最新薬理学」学建書院 2017年

（講義や教科書で理解できない項目について概略を把握したいときに参考にすると役に立つ。）

浦部 晶夫ら編「今日の治療薬2020」 南江堂 2020年

（薬物の性状、副作用などが表にまとめて書かれており、臨床医のマニュアルとなっている。）

「日本薬局方」ホームページ（厚生労働省のWebサイト）「第十七改正日本薬局方」のPDFファイルをダウンロードできる。

（「日本薬局方」とは通則、生薬総則、製剤総則、一般試験法、医薬品各条からなり、国が定めた医薬品の規格基準書である。）

「医療用医薬品情報検索」ホームページ（独立行政法人 医薬品医療機器総合機構のWebサイト）

添付文書のPDFファイルをダウンロードできる。<http://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuSearch/>

（医師及び歯科医師が処方する医薬品に添付されている情報である。）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/1	八田	ユニット1 血液に作用する薬物	血栓性疾患の治療に用いられる薬物の薬理作用や副作用を理解する。	臨床薬理学講義の目的を述べる。 止血の仕組みと血栓性疾患について説明する。 抗血小板薬、抗凝固薬、血栓溶解薬のそれぞれを作用機序で分類し、薬理作用・副作用を説明する。	Ⅲ-20 Ⅲ-17 Ⅲ-20	情意（自己対応） 認知（想起） 認知（解釈）	教科書 p.175-179, 182-187を読む	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
2 3	9/1 9/8	[2回] 八田 [3回] 八田	ユニット2 腎臓・免疫に作用する薬物および救急用薬物	利尿薬、免疫抑制薬・免疫賦活薬の薬理作用や副作用を理解する。また、緊急時対応に使用される薬物について理解する。	腎臓機能を調節する機構とその病態を述べる。 チアジド系利尿薬、ループ利尿薬、K保持性利尿薬、浸透圧利尿薬を作用機序で分類し、薬理作用・副作用を説明する。 免疫と自己免疫疾患について述べる。 免疫抑制薬、免疫賦活薬のそれぞれを作用機序で分類し、薬理作用・副作用を説明する。 全身的偶発症（ショック、局所麻酔薬中毒など）について説明する。 全身的偶発症の緊急対応時に使用される薬物について説明する。	Ⅲ-17 Ⅲ-20 Ⅲ-17 Ⅲ-20 Ⅲ-20	認知（想起） 認知（解釈） 認知（想起） 認知（解釈） 認知（解釈）	[2回] 教科書 p.189-193 を読む [3回] 教科書 p.294-305, 241-245 を読む	2] 1.0 3] 1.0
4 5 6	9/8 9/15 10/6	[4回] 長岡 [5回] 八田 [6回] 八田	ユニット3 代謝系に作用する薬物	代謝性疾患（骨粗鬆症、糖尿病、脂質異常症）の治療に用いられる薬物の薬理作用や副作用を理解する。	骨代謝と骨粗鬆症について説明する。 血中カルシウム濃度を調節するホルモン、骨芽細胞、破骨細胞の働きを述べる。 骨粗鬆症治療薬を作用機序で分類し、薬理作用・副作用を説明する。 血糖の調節と糖尿病について説明する。 膵臓β細胞からのインスリン分泌機構を説明する。 インスリン製剤、経口糖尿病薬のそれぞれを作用機序で分類し、薬理作用・副作用を説明する。 リポタンパク質代謝機構と脂質異常症について説明する。 脂質異常症治療薬を作用機序で分類し、薬理作用・副作用を説明する。	Ⅲ-17 Ⅲ-2 Ⅲ-20 Ⅲ-17 Ⅲ-2 Ⅲ-20 Ⅲ-17 Ⅲ-20	認知（想起） 認知（想起） 認知（解釈） 認知（想起） 認知（想起） 認知（解釈） 認知（解釈）	[4回] 教科書 p.327-338 を読む [5回] 教科書 p.209-214 を読む [6回] 教科書 p.217-219 を読む	4] 1.0 5] 1.0 6] 1.0
7 8	10/13 10/20	[7回] 大久保 [8回] 大久保	ユニット4 呼吸器・消化器に作用する薬物	呼吸器疾患および消化器疾患の治療に用いられる薬物の薬理作用や副作用を理解する。	呼吸機能を調節する機構とその病態を述べる。 呼吸興奮薬、鎮咳薬、去痰薬、気管支喘息治療薬のそれぞれを作用機序で分類し、薬理作用・副作用を説明する。 消化管機能を調節する機構とその病態を述べる。 制酸薬、胃炎治療薬、潰瘍治療薬のそれぞれを作用機序で分類し、薬理作用・副作用を説明する。	Ⅲ-17 Ⅲ-20 Ⅲ-17 Ⅲ-20	認知（想起） 認知（解釈） 認知（想起） 認知（解釈）	[7回] 教科書 p.194-198 を読む [8回] 教科書 p.199-206 を読む	7] 1.0 8] 1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピューター	教育目標領域	予習の項目	必要時間
9	10/27	八田	中間試験	—	ユニット1-3の中間試験を実施する。	Ⅲ-20		中間試験の学習をする	3.0
					後日公開する各人の採点済み答案をもとに達成度を評価し、今後の学習にフィードバックさせる。	Ⅲ-20	精神運動（自律部分・支援全体）		
10	11/10	[10回] 八田	ユニット5 循環器に作用する薬物	循環器疾患（高血圧、不整脈、狭心症、心不全）の治療に用いられる薬物の薬理作用や副作用を理解する。	循環機能を調節する機構とその病態を述べる。	Ⅲ-17	認知（想起）	[10回] 教科書 p. 164-167 を読む	[10] 1.0
11	11/17	[11回] 八田			高血圧治療薬を作用機序で分類し、薬理作用・副作用を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）	[11回] 教科書 p. 167-174 を読む	[11] 1.0
					心拍を調節する機構とその病態を述べる。	Ⅲ-17	認知（想起）		
					抗不整脈薬を作用機序で分類し、薬理作用・副作用を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					心拍出機能を維持する機構とその病態を述べる。	Ⅲ-17	認知（想起）		
					強心薬、狭心症治療薬のそれぞれを作用機序で分類し、薬理作用・副作用を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
12	11/24	[12回] 八田	ユニット6 医薬品の適正使用の理解-1	薬物の副作用・有害作用および薬物併用による相互作用について理解する。	薬物の副作用・有害作用とその対応について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）	[12回] 教科書 p. 67-75 を読む	[12] 1.0
13	12/1	[13回] 八田			口腔領域に現れる副作用・有害作用（歯肉増殖症、口腔乾燥症、歯の形成不全・着色、味覚異常など）と原因薬物について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）	[13回] 教科書 p. 75-79 を読む	[13] 1.0
					薬物併用あるいは嗜好品との相互作用について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					薬物の副作用・有害作用および相互作用に関する演習課題を達成する。	Ⅲ-20	精神運動（自律部分・支援全体）		
14	12/8	[14回] 八田	ユニット7 医薬品の適正使用の理解-2	医薬品の適正な臨床使用を行なうための処方、投薬、管理ならびに法規制について理解する。	薬物の連用による影響（耐性、依存、蓄積など）を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）	[14回] 教科書 p. 56-66, 94-95 を読む	[14] 1.0
15	12/15	[15回] 八田			薬効に影響を及ぼす身体的要因（妊娠、加齢および疾患など）について説明する。	Ⅲ-20	認知（想起）	[15回] 教科書 p. 85-94, 96-99 を読む	[15] 1.0
					処方箋の役割と記載事項、服薬指導について述べる。	I-3	認知（想起）		
					医薬品医療機器等法（劇薬、毒薬など）、日本薬局方、その他の関連法規（麻薬および向精神薬取締法など）について知る。	I-3	認知（想起）		
					医薬品開発の臨床試験（プラセボ、二重盲検法、無作為化、GCPなど）について知る。	I-3	認知（想起）		
					医薬品添付文書、安全性情報を活用することの重要性について述べる。	I-2	認知（解釈）		
					健康被害、薬害についての情報を共有する。	I-2	情意（模擬対人対応）		

基礎研究演習 【演習】

科目番号 OD031110

後期：21コマ

評価責任者：基礎医歯学部門長

担当教員：日高真純、埴岡 隆、梅津桂子、藤田亜美
田中芳彦、都留寛治、稲井哲一朗、畠山雄次
橋本修一、岡部幸司、八田光世、大野 純
島津 篤、谷口奈央、渡辺 猛、丸田道人
児玉 淳、岡村和彦、岡野慎士、林 道夫
橋口一成、石井健士、永尾潤一、川口 稔
北河憲雄、岡本富士雄、鍛冶屋浩、進 正史
藤兼亮輔、内藤麻利江、成田由香、有田健一、
梶本 昇、佐藤 平、大谷崇仁、緒方佳代子、
林 慶和、吉本尚平、長岡良礼

（一般目標）

基礎研究室において、研究の基本を体験するとともに、生命科学や医療技術の成果を学び、病因、病態を解明するなどの研究マインドを育成する。

（教育方法）

※課題解決演習に要する3コマの出欠は、課題解決演習Ⅱの出席・欠席として取り扱う。

研究倫理についてのプリント、コンピュータプロジェクションを用いた講義

小グループによる研究演習：9/28（月）～10/2（金）の5日間のうち、グループごとに定められた4日間の1限目～5限目

パワーポイントを用いた研究成果の公表

（ディスカッション・ディベート）（グループワーク）（プレゼンテーション）（実習・演習）

（学習方法）

研究倫理についてインターネットなどから情報を得ておく。

予め、配属学生に対して研究活動内容を連絡する。それに基づき、研究室ごとに研究活動を体験するために必要な予備知識を得る。

小グループごとに公開発表会前に研究演習の成果をまとめる。

【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 5.0 時間】

（評 価）

研究倫理講義についてのレポート提出をユニット1の成績として、全成績の5%に算入する。レポートは後日返却する。

研究体験ノート、発表、態度などをもとにした、同一研究室に配属された学生間での相対評価をおこない、ユニット2の成績として全成績の80%に算入する。

パワーポイントを用いた研究成果の公表をユニット3の成績として、全成績の15%に算入する。

各研究室での研究活動内容は、公開発表会にて学生全員並びに教員へ公表される。

（教 科 書）

配属研究室で別途指定する。

（参 考 書）

配属研究室で別途指定する。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピューター	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/25	基礎医歯学部 部門長、研究倫理教育 責任者	ユニット1 学部学生が口腔医学研究を体験する意義と研究上の行動規範の理解	学部学生が口腔医学研究を体験する意義と研究者に求められる行動規範を理解する。	学部学生が研究の基本を体験することの意義について説明する。 研究倫理違反の具体的事例に照らして、社会に対する科学者の基本的責任と姿勢を説明できる。 特定研究不正行為（ねつ造、改ざん、盗用）を説明できる。	I-8 I-2 I-2	情意（自己対応） 認知（想起） 認知（想起）	研究倫理についてインターネットで調べておく。	0.6
2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21		各研究室教員	ユニット2 研究室配属による口腔医学研究に必要な基本的事項の体験	生命科学の講義・実習で得た知識をもとに研究課題を設定し、課題の解決に向けて科学的な研究を体験する。	研究手法や研究・実験に用いる機器の操作、実験動物の扱い方などを説明できる。 情報図書館やインターネットを利用して、興味ある科学論文に関連する文献を検索できる。 小グループごとに研究テーマを挙げ、研究目的を説明できる。 仮説を設定して解決に向けた科学的な研究（臨床研究、疫学研究、生命科学研究等）を体験する。	I-7 I-7 I-8 I-8	精神運動（支援部分） 精神運動（支援部分） 精神運動（支援部分） 精神運動（支援部分）	研究室ごとの研究活動内容に基づき、必要な予備知識を得る。	2.4
22 23 24	10/12 10/12 10/12	担当教員	ユニット3 研究成果の発表と議論の重要性の理解（課題解決演習 11）	研究成果をまとめて、多数の聴衆に向けて公表し、質疑応答をおこなう。	小グループごとに研究内容を要約し、全体に向けて発表できる。 研究、実験データや新たな課題について他の学生（研究者）とディスカッションできる。	I-8 I-8	精神運動（支援部分） 精神運動（支援部分）	小グループごとに公開発表会前に研究演習の成果をまとめる。	2.0

社会歯科学 【講義】

科目番号 OD031116

後期：20コマ

評価責任者：渡辺 猛

担当教員：渡辺 猛
内藤麻利江

（一般目標）

社会保障の一翼を担う歯科医師になるため、「国民の健康で文化的な生活を保障するために社会保障制度があり、社会保障制度を円滑に運営するために協働する職種の一つが歯科医師である」ことを認識する。歯科医師が多様な業務を担っていることを理解し、業務を通じて社会にいかに関与しているかを評価する。自身が歯科医師になってから社会にどのように貢献できるかを考察する。

（教育方法）

口授、プリント、スライド

（学習方法）

予習方法：授業前に、下記「予習の項目」に記載されている項目をインターネットで検索し閲覧すること。

復習方法：各授業で指示する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 40.0 時間】

（評価）

・レポートによる評価(10%)：1回目と16回目の授業の課題に関してそれぞれレポートを課し、優れたレポートを後日の授業で紹介。
・定期試験(客観試験)による評価(90%)：試験後、正答を掲示。
※受講態度の悪い場合は1コマにつき5%以下の減点。

（教科書）

指定せず

（参考書）

1. 中垣晴男 「臨床家のための社会歯科学 改訂3版」 永末書店 2013 WU100
2. 石井拓男 「スタンダード社会歯科学」 学建書院 2016 WU100

（1・2は、他の歯科大学で使われている社会歯科学の教科書です）

3. 社会保障入門編集委員会 「社会保障入門 2016」 中央法規 2016 364

4. 厚生労働省 「平成30年版 厚生労働白書 障害や病気などと向き合い、全ての人が活躍できる社会に」 日経印刷 2019 WA525

（3・4で、わが国の社会保障の全体像が分かります）

5. 口腔保健協会 「2019年版 歯科保健関係統計資料 口腔保健・歯科医療の統計」 口腔保健協会 2019 WU30

（わが国の歯科保健医療に関する統計資料が掲載されています）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/3	渡辺	医療職	医療に関わる職種について理解する。	期待される歯科医師像について説明する。	I-1	認知（解釈）	歯科医師、医師・歯科医師・薬剤師調査	2.0
2	9/10	渡辺	医療職	医療に関わる職種について理解する。	歯科衛生士や歯科技工士との連携について説明する。	II-1	認知（解釈）	歯科衛生士、歯科技工士、衛生行政報告例（就業医療関係者）	2.0
3	9/17	渡辺	医療職	医療に関わる職種について理解する。	薬剤師、医師、言語聴覚士、診療放射線技師、臨床検査技師との連携について説明する。	II-1	認知（解釈）	薬剤師、医師、言語聴覚士、診療放射線技師、臨床検査技師	2.0
4	9/24	渡辺	医療職	医療に関わる職種について理解する。	診療録、診断書、処方せん、歯科衛生士業務記録、歯科技工指示書について説明する。	II-1	認知（解釈）	診療録、診断書、処方せん、歯科衛生士業務記録、歯科技工指示書	2.0
5	10/8	渡辺	医療施設	医療を提供する体制について理解する。	医療提供の理念について説明する。	I-2	認知（解釈）	医療法、医療提供の理念、地域医療支援病院、特定機能病院、臨床研究中核病院	2.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピューター	教育目標領域	予習の項目	必要時間
6	10/15	渡辺	医療施設	医療を提供する体制について理解する。	クリニカルパス、地域連携クリニカルパスについて説明する。	I-5	認知（解釈）	クリニカルパス、地域連携クリニカルパス	2.0
7	10/22	渡辺	医療施設	医療を提供する体制について理解する。	医療安全確保措置、医療安全支援センター、医療事故調査制度について説明する。	I-1	認知（解釈）	医療安全確保措置、医療安全支援センター、医療事故調査制度	2.0
8	10/29	渡辺	医療施設	医療を提供する体制について理解する。	医療計画について説明する。	I-1	認知（解釈）	医療計画	2.0
9	11/5	渡辺	医療施設	医療を提供する体制について理解する。	薬機法、GCP、医薬品医療機器総合機構について説明する。	I-1	認知（解釈）	薬機法、GCP、薬害、医薬品医療機器総合機構（PMDA）	2.0
10	11/12	渡辺	医療保険制度	医療保険制度について理解する。	我が国の医療保険制度について説明する。	I-6	認知（解釈）	健康保険法、国民健康保険法、高齢者医療確保法、高額療養費制度	2.0
11	11/19	渡辺	医療保険制度	医療保険制度について理解する。	国民医療費について説明する。	I-6	認知（解釈）	国民医療費、歯科医療費	2.0
12	11/19	渡辺	福祉と保健の制度	福祉と保健の制度について理解する。	我が国の社会保障制度の概要について説明する。	Ⅲ-22	認知（解釈）	社会保障制度、社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生	2.0
13	11/26	渡辺	福祉と保健の制度	福祉と保健の制度について理解する。	児童福祉・母子保健における歯科医師の役割について説明する。	Ⅲ-22	認知（解釈）	児童福祉法、児童福祉施設、児童憲章、児童虐待防止法、母子保健法	2.0
14	11/26	内藤	福祉と保健の制度	福祉と保健の制度について理解する。	学校教育・学校保健における歯科医師の役割について説明する。	Ⅲ-22	認知（解釈）	教育基本法、学校教育法、学校保健安全法	2.0
15	12/3	渡辺	福祉と保健の制度	福祉と保健の制度について理解する。	労働者保護・産業保健における歯科医師の役割について説明する。	Ⅲ-22	認知（解釈）	労働基準法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、雇用保険法	2.0
16	12/3	内藤	福祉と保健の制度	福祉と保健の制度について理解する。	国民健康づくり運動における歯科医師の役割について説明する。	Ⅲ-22	認知（解釈）	国民健康づくり運動、健康増進法、健康増進計画、健康日本21	2.0
17	12/10	渡辺	福祉と保健の制度	福祉と保健の制度について理解する。	障害者福祉における歯科医師の役割について説明する。	Ⅲ-22	認知（解釈）	障害者総合支援法、障害福祉計画、自立支援医療	2.0
18	12/10	渡辺	福祉と保健の制度	福祉と保健の制度について理解する。	高齢者の保健・医療・福祉における歯科医師の役割について説明する。	V-5	認知（解釈）	高齢者医療確保法、メタボ健診、後期高齢者医療制度、老人福祉法、地域包括ケアシステム	2.0
19	12/17	渡辺	福祉と保健の制度	福祉と保健の制度について理解する。	地域保健における歯科医師の役割について説明する。	Ⅲ-22	認知（解釈）	地域保健法、市町村、市町村保健センター、保健所、保健師、人材確保支援計画	2.0
20	12/17	渡辺	福祉と保健の制度	福祉と保健の制度について理解する。	口腔医学と歯科口腔保健の推進について説明する。	Ⅲ-22	認知（解釈）	口腔医学、歯科口腔保健の推進に関する法律	2.0

医事法制 【講義】

科目番号 OD031117

後期：15コマ

評価責任者：学生部長、渡辺 猛

担当教員：奥田貴介

（一般目標）

社会生活における様々な人間関係を法律関係として認識・理解できる素養を身につけ、歯科医師と患者との関係を法律的に整理・把握できるようになるとともに、歯科医師に関する法律関係を理解する。

（教育方法）

適宜設例を交え、板書を多用しながら講義する。

（学習方法）

授業を聞き、新聞報道等で歯科及び内科についての事件・事故等の事案に興味を持ち、接すること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評 価）

定期試験 （80%）

授業出席 （10%）

授業態度 （10%）

評価判定後、評価結果を呈示する。

（教科書）

未定

（参考書）

未定

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/3	奥田	ユニット1 法体系の構造	法とは何かを理解する。	法とは何かを説明できる。	Ⅱ-1	認知（想起）	法とは何か、自分の考えをまとめる	1.0
2	9/10	奥田	ユニット1 法体系の構造	憲法と法律の意義を知り、公法と私法、実体法と手続法の別を理解する。	憲法の意義を説明できる。 公法と私法、実体法と手続法との違いを説明できる。 具体的な違法行為を例に、法の適用について説明できる。	Ⅱ-1 Ⅱ-1 Ⅱ-1	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	公法と私法、実体法と手続法について調べる	1.0
3	9/17	奥田	ユニット2 医療行為の法的性質 契約関係としての医療行為	刑罰法規の構成と適用、被害者の承諾を理解する。	刑罰法規の構成と適用を述べる。 医療行為がなぜ傷害罪とならないのかについて説明できる。	Ⅱ-1 Ⅰ-4	認知（想起） 認知（想起）	刑罰法規の構成と適用を調べる	1.0
4	9/24	奥田	ユニット2 医療行為の法的性質 契約関係としての医療行為	契約に基づく法律関係、基づかない法律関係を理解する。行政法規を理解する。	契約に基づく法律関係と契約に基づかない法律関係を具体的例を挙げて説明できる。 行政法規について具体例を挙げて説明できる。	Ⅱ-2 Ⅱ-1	認知（想起） 認知（想起）	契約に基づく法律関係と契約に基づかない法律関係と、行政法規の具体例を調べる	1.0
5	10/8	奥田	ユニット2 医療行為の法的性質 契約関係としての医療行為	契約関係に基づく法律関係、契約の成立と効果について具体的に述べる。	契約の成立要件と効果を説明できる。	Ⅱ-2	認知（想起）	契約関係に基づく法律関係、契約の成立と効果について調べる	1.0
6	10/15	奥田	ユニット3 医療契約	医療契約の成立とその効果を理解する。	医療契約の成立要件と効果を説明できる。	Ⅰ-5	認知（想起）	医療契約について調べる	1.0
7	10/22	奥田	ユニット4 法律で見る医療行為	医療契約上の医師の義務、インフォームドコンセントの意義を理解する。	医療契約上の医師の義務を説明できる。 医療契約上、医師が患者に説明すべき内容を述べる。	Ⅰ-4 Ⅰ-5	認知（想起） 認知（想起）	医療契約上の医師の義務について調べる	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
8	10/29	奥田	ユニット4 法律で見る医療行為	医療契約上の医師の義務、インフォームドコンセントの意義を理解する。	医療契約上の医師の義務を説明できる。	I-4	認知（想起）	インフォームドコンセントについて調べる	1.0
					医療契約上、医師が患者に説明すべき内容を述べる。	I-5	認知（想起）		
9	11/5	奥田	ユニット5 歯科医師法	歯科医師資格に関する規定を知る。	歯科医師資格の目的を述べる。	I-4	認知（想起）	歯科医師資格に関する規定について調べる	1.0
					歯科医師資格に関する規定の内容を説明できる。	I-4	認知（想起）		
					義務違反による歯科医師資格への影響を説明できる。	I-4	認知（想起）		
10	11/12	奥田	ユニット5 歯科医師法	歯科医師資格に関する規定を知る。	歯科医師資格の目的を述べる。	I-4	認知（想起）	義務違反による歯科医師資格への影響について調べる	1.0
					歯科医師資格に関する規定の内容を説明できる。	I-4	認知（想起）		
					義務違反による歯科医師資格への影響を説明できる。	I-4	認知（想起）		
11	11/19	奥田	ユニット6 歯科衛生士法・歯科技工士法について理解する。	歯科衛生士法・歯科技工士法について理解する。	歯科衛生士の資格について述べる。	I-3	認知（想起）	歯科衛生士法・歯科技工士法について調べる	1.0
					歯科衛生士の業務を列記する。	I-3	認知（想起）		
					歯科技工士の資格について述べる。	I-3	認知（想起）		
					歯科技工士の業務について列記する。	I-3	認知（想起）		
12	11/26	奥田	ユニット7 医療に関する法	医療法・その他の法について知る。	医療施設、広告、医療法人等について説明できる。	I-3	認知（想起）	医療施設、広告、医療法人について調べる	1.0
13	12/3	奥田	ユニット8 医事紛争ケーススタディ	医療紛争の類型、医療事故による損害の費目について理解する。	医事紛争の類型を説明する。	I-5	認知（想起）	医事紛争の類型と医療事故による損害の費目について調べる	1.0
					医療事故による損害の費目を列記する。	I-5	認知（想起）		
14	12/10	奥田	ユニット9 医事紛争ケーススタディ	具体的事例を知る。	医事紛争の具体的事例につき、問題点を理解する。	I-5	認知（想起）	医事紛争の具体的事例について調べ、問題点を考える	1.0
15	12/17	奥田	ユニット10 医事紛争ケーススタディ	医事紛争の解決方法を考察する。	医事紛争を予測し予防する手段を説明できる。	I-4	認知（想起）	医事紛争の予防と解決方法について考える	1.0
					医事紛争の解決方法を具体的に述べる。	II-2	認知（想起）		

口腔保健学実習 【実習】

科目番号 0D031213

後期：15コマ

評価責任者：埴岡 隆

埴岡 隆、渡辺 猛、谷口奈央、島津 篤、内藤麻利江、矢田部尚子

担当教員：松尾忠行（福岡医療短期大学）

三ヶ尻佳貴（医療法人 雄之会 つきやま歯科医院 院長）

（一般目標）

健康行動の変容支援、予防処置および健康管理に携わる歯科医師の将来像の意識を醸成するとともに口腔の健康増進と歯科疾患の予防に関する課題を解決するとともに動機づけおよび行動変容の支援と予防処置に関する基本技能を習得する。

（教育方法）

※課題解決演習に要する2コマの出欠は、課題解決演習Ⅱの出席・欠席として取り扱う。

相互実習、ディスカッション、実験、課題解決

（ディスカッション・ディベート）（グループワーク）（プレゼンテーション）（実習・演習）（その他AL）

（学習方法）

実習前後に下記教科書や参考書の該当箇所を読むこと。与えられた課題を解決する。実習要領にしたがって担当ケースに習熟しておくこと。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：11.0時間】

（評価）

各ユニット毎の実習態度（30%）と実習帳レポート評価（30%）のフィードバックおよび実習試験（40%）による評価を行う。

（教科書）

1. 安井利一、宮崎秀夫、鶴本明久、川口陽子、山下喜久、廣瀬公治編、「口腔保健・予防歯科学」、医歯薬出版、2018
4年生口腔保健学実習帳

（参考書）

1. 筒井昭仁 他編、「新 フッ化物ではじめるむし歯予防」、医歯薬出版、2012（フッ化物の応用に必要な知識と、一般大衆の疑問に即した解説をしている）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/4	埴岡 隆、渡辺 猛、谷口奈央、島津 篤、内藤麻利江、矢田部尚子、松尾 忠行（福岡医療短期大学）	ユニット1 歯・口腔の健康指標	歯科疾患の数量評価法を理解する。	口腔の健康診査を説明できる。	IV-6	情意（実践状況対応）	口臭および歯周病の検査、予防、管理	1.0
2	9/4	埴岡 隆、渡辺 猛、谷口奈央、島津 篤、内藤麻利江、矢田部尚子、松尾 忠行（福岡医療短期大学）	ユニット1 歯・口腔の健康指標	歯科疾患の数量評価法を理解する。	口腔の健康診査を説明できる。	IV-6	情意（実践状況対応）	口臭および歯周病の検査、予防、管理	1.0
3	9/4	埴岡 隆、渡辺 猛、谷口奈央、島津 篤、内藤麻利江、矢田部尚子、松尾 忠行（福岡医療短期大学）	ユニット1 歯・口腔の健康指標	歯科疾患の数量評価法を理解する。	口腔疾患のリスク診断を説明できる。	IV-6	情意（実践状況対応）	口臭および歯周病の検査、予防、管理	1.0
4	9/11	埴岡 隆、渡辺 猛、谷口奈央、島津 篤、内藤麻利江、矢田部尚子、松尾 忠行（福岡医療短期大学）	ユニット2 う蝕の予防、フッ化物応用	う蝕の予防、特にフッ化物の応用について理解する。	う蝕のリスク検査、初期う蝕の検査を説明できる。	IV-6	情意（実践状況対応）	う蝕の予防、特にフッ化物の応用	1.0
5	9/11	埴岡 隆、渡辺 猛、谷口奈央、島津 篤、内藤麻利江、矢田部尚子、松尾 忠行（福岡医療短期大学）	ユニット2 う蝕の予防、フッ化物応用	う蝕の予防、特にフッ化物の応用について理解する。	う蝕のリスク検査、初期う蝕の検査を説明できる。	IV-6	情意（実践状況対応）	う蝕の予防、特にフッ化物の応用	1.0
6	9/11	埴岡 隆、渡辺 猛、谷口奈央、島津 篤、内藤麻利江、矢田部尚子、松尾 忠行（福岡医療短期大学）	ユニット2 う蝕の予防、フッ化物応用	う蝕の予防、特にフッ化物の応用について理解する。	う蝕予防法、特に、フッ化物応用法の実施を説明できる。	IV-10	情意（実践状況対応）	う蝕の予防、特にフッ化物の応用	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
7	9/18	埴岡 隆、渡辺 猛、谷口奈央、島津篤、内藤麻利江、矢田部尚子、松尾 忠行（福岡医療短期大学）	ユニット3 口臭、歯周病の予防	口臭および歯周病の検査、予防、管理について理解する。	口臭検査、歯周組織のリスク検査ができる。	IV-6	情意（実践状況対応）	歯科疾患の数量評価法、口腔の健康診査、口腔疾患のリスク診断	1.0
8	9/18	埴岡 隆、渡辺 猛、谷口奈央、島津篤、内藤麻利江、矢田部尚子、松尾 忠行（福岡医療短期大学）	ユニット3 口臭、歯周病の予防	口臭および歯周病の検査、予防、管理について理解する。	口臭検査、歯周組織のリスク検査ができる。	IV-6	情意（実践状況対応）	歯科疾患の数量評価法、口腔の健康診査、口腔疾患のリスク診断	1.0
9	9/18	埴岡 隆、渡辺 猛、谷口奈央、島津篤、内藤麻利江、矢田部尚子、松尾 忠行（福岡医療短期大学）	ユニット3 口臭、歯周病の予防	口臭および歯周病の検査、予防、管理について理解する。	口臭・歯周病予防のセルフケアを説明できる。	IV-6	情意（実践状況対応）	歯科疾患の数量評価法、口腔の健康診査、口腔疾患のリスク診断	1.0
10	10/16	埴岡 隆、渡辺 猛、谷口奈央、島津篤、内藤麻利江、矢田部尚子、松尾 忠行（福岡医療短期大学）	ユニット4 ブラークコントロール	ブラークコントロールについて理解する。	歯口清掃の各種指数による検査を説明できる。	IV-6	情意（実践状況対応）	ブラークコントロール	1.0
11	10/16	埴岡 隆、渡辺 猛、谷口奈央、島津篤、内藤麻利江、矢田部尚子、松尾 忠行（福岡医療短期大学）	ユニット4 ブラークコントロール	ブラークコントロールについて理解する。	歯口清掃の各種指数による検査を説明できる。	IV-6	情意（実践状況対応）	ブラークコントロール	1.0
12	10/16	埴岡 隆、渡辺 猛、谷口奈央、島津篤、内藤麻利江、矢田部尚子、松尾 忠行（福岡医療短期大学）	ユニット4 ブラークコントロール	ブラークコントロールについて理解する。	ブラッシング方法および化学的清掃法を説明できる。	IV-6	情意（実践状況対応）	ブラークコントロール	1.0
13	10/23	埴岡 隆、渡辺 猛、谷口奈央、島津篤、内藤麻利江、矢田部尚子、松尾 忠行（福岡医療短期大学）	ユニット5 禁煙指導・禁煙支援の実践（課題解決演習）	禁煙指導・禁煙支援の実践を理解する。	禁煙指導・禁煙支援を説明できる。	IV-6	情意（実践状況対応）	禁煙指導・禁煙支援	1.0
14	10/23	埴岡 隆、渡辺 猛、谷口奈央、島津篤、内藤麻利江、矢田部尚子、松尾 忠行（福岡医療短期大学）	ユニット5 禁煙指導・禁煙支援の実践（課題解決演習）	禁煙指導・禁煙支援の実践を理解する。	禁煙指導・禁煙支援を説明できる。	IV-6	情意（実践状況対応）	禁煙指導・禁煙支援	1.0
15	10/30	埴岡 隆、渡辺 猛、谷口奈央、島津篤、内藤麻利江、矢田部尚子、松尾 忠行（福岡医療短期大学）	ユニット6 予防歯科の実践	予防歯科の実践を理解する。	予防歯科の実践を説明できる。	IV-6	情意（実践状況対応）	実習試験、予防歯科の実践	1.0
16	10/30	三ヶ尻佳貴（医療法人 雄之会 つきやま歯科医院 院長）	ユニット6 予防歯科の実践	予防歯科の実践を理解する。	予防歯科の実践を説明できる。	IV-6	情意（実践状況対応）	歯科疾患の数量評価法、口腔の健康診査、口腔疾患のリスク診断臨床予防歯科の実践	1.0
17	10/30	三ヶ尻佳貴（医療法人 雄之会 つきやま歯科医院 院長）	ユニット6 予防歯科の実践	予防歯科の実践を理解する。	予防歯科の実践を説明できる。	IV-6	情意（実践状況対応）	歯科疾患の数量評価法、口腔の健康診査、口腔疾患のリスク診断臨床予防歯科の実践	1.0

地域医療・災害口腔医学 【演習】

科目番号 0D031214

通年：29コマ

評価責任者：森田浩光

森田浩光 牧野路子 堤貴司
児玉淳
玉置幸雄 松田裕子 安永まどか
香川豊宏

担当教員：
*非常勤：佐藤慶太（鶴見大学）
*非常勤：田口則宏（鹿児島大学）

内田竜司
その他演習のため増員

（一般目標）

地域包括ケアシステムにおいて、医療チームの一員として地域医療・災害時医療・災害時の身元確認（歯科法医学）に貢献できる歯科医療の実践のために、必要な知識・技能・態度を修得する。

（教育方法）

※課題解決演習に要する2コマの出欠は、課題解決演習Ⅱの出席・欠席として取り扱う。
教科書、参考書、プリントを中心とした講義と災害時の身元確認（歯科法医学）・歯科医療支援および全身管理についての実習（ディスカッション・ディベート）（グループワーク）（実習・演習）（その他AL）

（学習方法）

講義は事前学習を行っていることを前提に進めるので、必ず事前に講義内容を確認し、教科書・参考書を用いて予習を行うこと。また講義終了後は必ず重要事項の復習を行い、理解を定着させるよう努めること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：28.0時間】

（評価）

定期客観試験（80%）、出席、授業・実習態度、レポート（20%）
試験に関しては、結果発表後掲示を行う。

（教科書）

①災害医学 2009年 第2版 南山堂
国内外を問わず津波、地震、列車事故、戦争等、大きな災害を経験し、災害に対する危機管理が行政、医療現場、関係職種の人々に浸透してきている。本書は前版の啓蒙的なニュアンスから脱却し、更に1歩前進させた内容となっている。災害現場の特殊性、教育、病院における備え、対処法などはもちろん、心得ておかなければならない知識やテクニックが具体的に網羅されている。
②槻木恵一、中久木康一 編「災害歯科医学」医歯薬出版 2018
災害時医療支援・歯科保健医療支援についてわかりやすく解説されている。
③日本歯科医療管理学会 編「歯科医療管理 医療の質と安全確保のために」医歯薬出版 2011
チーム医療についてわかりやすく解説されている。
⑤今井裕、岩淵博史 監修「有病者歯科科学」永末書店 2018
全身疾患と歯科治療時の注意点についてわかりやすく解説されている。

（参考書）

①澤口彰子、一杉正仁 ほか 共著 「臨床のための法医学（第6版）」 朝倉出版 2010
②臨床のための法医学：改訂6版：朝倉出版2010年
③法歯科医学基礎知識から臨床・災害時の対応まで：永末書店2017年
④西田百代 監修 「有病高齢者歯科治療のガイドライン（上・下）」 クインテッセンス出版 2013
全身疾患と歯科治療についてわかりやすく解説されている。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/4	森田浩光	災害の実態、災害時の医療、災害と法	災害の実態、災害時医療に、災害に関する法律について理解する	災害の種類と規模および経時的変化（フェーズ）を説明する 災害支援の必要性を説明する 災害に関する法律を列挙する トリアージ（START法）について説明する 災害時の医療情報収集について説明する 災害時の組織運営について説明する	Ⅲ-24 Ⅲ-24 Ⅲ-24 Ⅲ-24 Ⅲ-24 Ⅲ-24	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習	0.5

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
2	9/11	佐藤慶太	歯科法医学の社会的役割	法の意義、医療と法の関係を理解する	法の定義を説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習（大規模災害・事故と歯科との関連）	0.5
					医療と法の関係を説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
			歯科法医学の実際	歯科法医学の実際について理解する	災害の実態を知る	Ⅲ-24	認知（想起）		
					歯科法医学の社会的な必要性について説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
					歯科法医学の対象について説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
					死に関する法的な手続きについて説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
					死因究明制度と歯科医師の役割について説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
3	9/11	佐藤慶太	災害時の検案支援	法歯学と個人識別	災害時の検案支援の必要性を説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習（大規模災害・事故と歯科との関連）	0.5
					個人識別に有効な方法を列挙できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
					デンタルチャートを説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
					解剖における関連法規について列挙できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
					死体現象について説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
			遺伝標識による個人識別	ヒト由来組織（血液、体液、組織等）からの血液型やDNA型を用いた個人識別の手法や原理を理解する	ABO式血液型を用いた個人識別を説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
					Rh式血液型を用いた個人識別を説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
4	9/18	児玉淳	死体現象	個体死・死因、早期死体現象、晚期死体現象について理解する	個体死・死因を説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習（死と死体現象について）	0.5
					早期死体現象を説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
					晚期死体現象を説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
5	9/18	児玉淳	窒息死	窒息死の種類、そのメカニズムについて理解する	窒息死の種類を説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習（外因死・内因死について）	0.5
					窒息のメカニズムを説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
			損傷に基づく死	損傷の種類、成傷機転について理解する	損傷の種類、成傷機転を説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
					損傷による死因について説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
					死体の診方を説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
			異状環境下における死	凍死、熱傷、日射病、熱射病、感電死について理解する	凍死、熱傷、日射病、熱射病、感電死を説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
					熱傷を説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
					熱射病、日射病を説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
					感電死について説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
			虐待	虐待について理解する	小児の虐待による損傷について説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
6	10/9	児玉淳	硬組織からの個人識別	骨形態等の骨格上の特徴や指掌紋からの個人識別の原理及び手法について理解する	骨形態からの個人識別について説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習（骨からの鑑別について）	0.5
					骨縫合度からの年齢推定について説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
					ヒトと動物の骨組織上の違いについて説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
			軟組織からの個人識別	指掌紋からの個人識別の原理及び手法について理解する	指掌紋を用いた個人識別を説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
7	10/9	児玉淳	歯科的所見からの個人識別	身元特定に際しての歯科的所見の有効性及び識別の原理と手法について理解する	歯科的所見の有効性について説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習（歯からの鑑別について）	0.5
					歯からの年齢推定について説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
					歯からの性別推定について説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
8	10/15	児玉淳	歯科的所見からの個人識別	身元特定に際しての歯科的所見の有効性及び識別の原理と手法について理解する	歯科的所見の採取や記録法について説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習（歯科的所見の有用性について）	0.5
9	10/16	児玉淳	実習（デンタルチャート作成1）	歯科的所見からの個人識別法の修得のため、死後記録の作成及び生前記録との照会等に関する一連の異同識別を演習形式によって理解する	デンタルチャートを作成できる	Ⅲ-24	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習（口腔内所見記録について）	1.0
					デンタルチャート作成時のヒューマンエラーを説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
					ヒューマンエラーの対策法を説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）		
					データベースソフトについて説明できる（操作できる）	Ⅲ-24	認知（想起）		
10	10/16	児玉淳	実習（デンタルチャート作成1）	歯科的所見からの個人識別法の修得のため、死後記録の作成及び生前記録との照会等に関する一連の異同識別を演習形式によって理解する	デンタルチャートから個人識別時の一致、不一致について説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習（口腔内所見記録について）	1.0
11	10/23	玉置幸雄	実習（デジタル機器取り扱い1：口腔内写真撮影）	口腔内写真撮影	口腔内撮影に必要な器材を説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習（口腔内写真について）	0.5
					口腔内撮影に必要な器材の取扱いが説明できる（操作できる）	Ⅲ-24	認知（想起）		
12	10/23	玉置幸雄	実習（デジタル機器取り扱い2：口腔内写真撮影）	口腔内写真撮影	口腔内写真の撮影法を説明できる（操作できる）	Ⅲ-24	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習（口腔内写真について）	0.5
13	10/29	森田浩光	災害時支援 1	災害時の衛生管理と多職種連携について理解する	災害時要配慮者について説明する	Ⅲ-24	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習	0.5
					災害時の衛生管理について説明する	Ⅲ-24	認知（想起）		
					災害時の感染対策について説明する	Ⅲ-24	認知（想起）		
					災害時の口腔衛生の必要性について説明する	Ⅲ-24	認知（想起）		
					災害時の多職種の役割を説明する	Ⅲ-24	認知（想起）		
					災害時の多職種連携について説明する	Ⅲ-24	認知（想起）		
14	10/30	牧野路子	全身疾患を有する患者への対応 1	歯科治療を行う際に留意すべき主な全身疾患（喘息・アレルギー・自己免疫疾患）およびステロイド服用患者に対する歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について理解する	喘息患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	Ⅳ-17	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習	0.5
					アレルギー疾患患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	Ⅳ-17	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピューター	教育目標領域	予習の項目	必要時間
15	10/30	牧野路子	全身疾患を有する患者への対応 1	歯科治療を行う際に留意すべき主な全身疾患（喘息・アレルギー・自己免疫疾患）およびステロイド服用患者に対する歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	自己免疫疾患患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	Ⅳ-17	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習	0.5
					ステロイド服用患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	Ⅳ-17	認知（想起）		
16	11/5	森田浩光	災害時支援 2	災害時の歯科医療支援と心のケアについて理解する	災害時の口腔管理の必要性について説明する	Ⅲ-24	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習	0.5
					災害時の歯科医療支援について説明する	Ⅲ-24	認知（想起）		
					災害時の歯科医療のニーズについて説明する	Ⅲ-24	認知（想起）		
					災害時の心的外傷について説明する	Ⅲ-24	認知（想起）		
					災害時の被災者および医療支援者の心のケアの必要性について説明する	Ⅲ-24	認知（想起）		
					心理的応急処置（PFA）について説明する	Ⅲ-24	認知（想起）		
17	11/6	香川豊宏	実習（デジタル機器取り扱い3：携帯用X線撮影装置）	携帯用X線装置の取り扱いと撮影・現像処理	X線写真撮影に必要な器材を説明できる	Ⅲ-24	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習（歯科放射線機器取り扱いと撮影法）	0.5
					X線写真撮影に必要な機材の取り扱いが説明できる（操作できる）	Ⅲ-24	認知（想起）		
18	11/6	香川豊宏	実習（デジタル機器取り扱い3：携帯用X線撮影装置）	携帯用X線装置の取り扱いと撮影・現像処理	IPやCCDの説明ができる（操作できる）	Ⅲ-24	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習（歯科放射線機器取り扱いと撮影法）	0.5
					デジタル写真のイメージ処理を理解する（操作できる）	Ⅲ-24	認知（想起）		
19	11/12	森田浩光	全身疾患を有する患者への対応 2	歯科治療を行う際に留意すべき主な全身疾患（高血圧・不整脈・虚血性心疾患）と歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について理解する	歯科治療を行う際に留意すべき全身疾患を列挙する	Ⅳ-17	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習	1.5
					高血圧症患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	Ⅳ-17	認知（想起）		
					不整脈患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	Ⅳ-17	認知（想起）		
					虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	Ⅳ-17	認知（想起）		
20	11/13	森田浩光	全身疾患を有する患者への対応 3	歯科治療を行う際に留意すべき主な全身疾患（心臓弁膜症・感染性心内膜炎・心不全）と歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について理解する	心臓弁膜症患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	Ⅳ-17	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習	1.5
					歯科治療時の感染性心内膜炎の予防法について説明する	Ⅳ-17	認知（想起）		
					心不全患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	Ⅳ-17	認知（想起）		
21	11/13	森田浩光	全身疾患を有する患者への対応 4	歯科治療を行う際に留意すべき主な全身疾患（甲状腺疾患・腎疾患・肝疾患・消化器疾患）および妊婦に対する歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について理解する	甲状腺疾患患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	Ⅳ-17	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習	1.5
					腎疾患患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	Ⅳ-17	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
22	11/19	森田浩光	全身疾患を有する患者への対応 4	歯科治療を行う際に留意すべき主な全身疾患（甲状腺疾患・腎疾患・肝疾患・消化器疾患）および妊婦に対する歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	肝疾患患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	IV-17	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習	1.5
					消化器疾患の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	IV-17	認知（想起）		
					妊婦への歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	IV-17	認知（想起）		
23	11/20	森田浩光、 牧野路子、 堤貴司	実習（災害時 歯科医療支援）	災害時の歯科医療支援の評価・方法を理解する	避難所・施設の評価（ラビッド・アセスメント）を実践する	Ⅲ-24	認知（解釈）	教科書・参考書の該当部分を予習	1.5
24	11/20	森田浩光、 牧野路子、 堤貴司	実習（災害時 歯科医療支援）	災害時の歯科医療支援の評価・方法を理解する	個別評価を実践する	Ⅲ-24	認知（問題解決）	教科書・参考書の該当部分を予習	1.5
25	11/27	牧野路子	全身疾患を有する患者への対応 5	歯科治療を行う際に留意すべき主な全身疾患（脳血管障害）と歯科治療時のリスク、偶発症への対処法および回復期リハビリテーションについて理解する	脳血管障害患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	IV-17	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習	1.5
					脳血管障害患者の回復期リハビリテーションについて説明する	IV-17	認知（想起）		
26	11/27	牧野路子	訪問歯科 1	患者の状態に応じた訪問歯科診療について理解する	訪問歯科診療の意義について説明する	V-3	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習	3.0
					患者の状態に応じた訪問歯科診療の必要性を説明する	V-3	認知（想起）		
					地域包括ケアシステムにおける訪問歯科診療の役割について説明する	V-3	認知（想起）		
					訪問歯科診療における多職種協働の必要性を説明する	V-3	認知（想起）		
27	12/4	森田浩光	訪問歯科 2	急性期、終末期における訪問歯科診療について理解する	急性期で遭遇しやすい全身疾患を列挙する	IV-14	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習	3.0
					周術期等口腔機能管理について説明する	IV-14	認知（想起）		
					終末期・緩和ケア患者の口腔管理について説明する	V-3	認知（想起）		
					アドバンスド・ケア・プランニング（ACP）について説明する	V-3	認知（想起）		
28	12/4	田口則宏	訪問歯科 3	離島・僻地での歯科診療について理解する	離島・僻地診療の現状を説明する	V-3	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習	0.5
					離島・僻地での歯科ニーズについて説明する	V-3	認知（想起）		
					離島・僻地での歯科診療について説明する	V-3	認知（想起）		
29	12/11	森田浩光、 牧野路子、 堤貴司	課題解決演習Ⅱ（全身管理実習）	全身疾患を有する患者への歯科治療時の医科歯科連携について理解する	全身疾患を有する患者の歯科治療時のリスクを説明する	IV-17	認知（解釈）	教科書・参考書の該当部分を予習	0.5
					服用薬剤と歯科治療に用いる薬剤との相互作用を説明する	IV-17	認知（解釈）		
30	12/11	森田浩光、 牧野路子、 堤貴司	課題解決演習Ⅱ（全身管理実習）	全身疾患を有する患者への歯科治療時の医科歯科連携について理解する	全身疾患の重症度と歯科治療のリスクについて評価する	IV-17	認知（問題解決）	教科書・参考書の該当部分を予習	0.5
					全身疾患の重症度について医科に相談する	IV-17	認知（問題解決）		
31	12/18	牧野路子	訪問歯科 4	回復期、慢性期における訪問歯科診療について理解する	回復期、慢性期で遭遇しやすい全身疾患を列挙する	V-3	認知（想起）	教科書・参考書の該当部分を予習	0.5
					回復期、慢性期における口腔管理について説明する	V-3	認知（想起）		
					訪問歯科診療機材を説明する	V-3	認知（想起）		
					訪問診療における患者安全管理（セーフティーマネジメント）について説明する	V-3	認知（想起）		

齲蝕学Ⅱ 【講義】

科目番号 OD031215

後期：19コマ

評価責任者：米田雅裕

担当教員：米田雅裕、丸田道人、山田和彦、畠山純子、松崎英津子

（一般目標）

近年、若年者の齲蝕に加えて超高齢社会に特徴的な齲蝕も増加している。また、齲蝕のほか、tooth wear等の非齲蝕性硬組織疾患も増加している。齲蝕および非齲蝕性硬組織疾患の予防・検査・治療に関する基礎的能力を身につけるために齲蝕治療学に関する臨床的知識を修得する。

（教育方法）

教科書、プリントおよびスライドによる講義

（学習方法）

予習はシラバスに記載された教科書「第五版 保存修復学21」「第7版 保存修復学」の授業関連項目を読むこととする。また、復習は配布資料および教科書の関連ページを再読し、提示された問題を再度、解くことにより行う。さらに、参考書を用いて関連領域の学習を行うことを推奨する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 17.0 時間】

（評 価）

記述試験（定期試験：90%）

聴講態度ならびに小テスト（10%）

「学生へのフィードバックの時期と方法」

定期試験後、口頭で試験のできればえについて説明する。

（教 科 書）

田上順次、奈良陽一郎、山本一世、斎藤隆史 監修『第五版 保存修復学21』永末書店、2017

千田 彰、寺中敏夫、寺下正道、宮崎真至 編集『第7版 保存修復学』医歯薬出版、2019

（参 考 書）

千田 彰、寺下正道、田上順次ほか編集『保存修復クリニカルガイド第2版』医歯薬出版、2009

田上順次、花田信弘、桃井保子編集『う蝕学—チェアサイドの予防と回復のプログラム—』永末書店、2008

特定非営利活動法人日本歯科保存学会編 保存修復学専門用語集 第2版 医歯薬出版、2017

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/7	畠山（純）	ユニット1 接着修復の理論と治療法	接着修復材料を用いた治療を適確に行なうために、接着メカニズムの理論と治療法を修得する。	接着性修復の臨床的意義を説明できる。	Ⅳ-3	認知（想起）	第7版 保存修復学 P141-147 第5版 保存修復学21 P149-202	1.0
					コンポジットレジン修復の接着メカニズムを説明できる。	Ⅲ-21	認知（想起）		
2	9/7	畠山（純）	ユニット2 コンポジットレジン修復法の特徴	代表的な直接的保存修復法であるコンポジットレジン修復の特徴を知り、適応症・窩洞形態・形成法について理解する。	コンポジットレジン修復の長所と短所について説明できる。	Ⅳ-4	認知（想起）	第7版 保存修復学 P147-170 第5版 保存修復学21 P149-202	1.0
					コンポジットレジン窩洞の形態と形成法について説明できる。	Ⅳ-4	認知（想起）		
3	9/14	畠山（純）	ユニット3 コンポジットレジン修復	コンポジットレジン修復を行うために、その種類に関する知識を身につけるとともに、光重合型コンポジットレジンの特徴と物理化学的性質について理解する。	コンポジットレジンの種類について説明できる。	Ⅲ-21	認知（想起）	第7版 保存修復学 P147-170 第5版 保存修復学21 P149-202	1.0
					光重合型コンポジットレジンの長所と短所について説明できる。	Ⅲ-21	認知（想起）		
4	9/14	畠山（純）	ユニット4 光重合型コンポジットレジン修復の手順	円滑な光重合型コンポジットレジン修復を行うために、その手順と留意点について理解する。	光重合型コンポジットレジン修復手順について説明できる。	Ⅳ-2	認知（想起）	第7版 保存修復学 P147-170 第5版 保存修復学21 P149-202	1.0
					各ステップ毎の留意点について説明できる。	Ⅳ-2	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
5	10/12	山田	ユニット5 従来型ガラス アイオノマー セメント	従来型ガラスアイオノマーセメントの組成および硬化機序を知り、その特徴について理解する。	ガラスアイオノマーセメントの硬化機序について説明できる。	Ⅲ-21	認知（想起）	第7版 保存修復学 P170-177 第5版 保存修復学21 P203-214	1.0
					ガラスアイオノマーセメントの長所・短所について説明できる。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					ガラスアイオノマーセメント修復窩洞の特徴について説明できる。	Ⅳ-2	認知（想起）		
6	10/12	山田	ユニット6 光硬化型ガラス アイオノマーセメント	光硬化型ガラスアイオノマーセメントの特徴を理解し、その修復手順を身につける。	光硬化型ガラスアイオノマーセメントの特徴について説明できる。	Ⅲ-21	認知（想起）	第7版 保存修復学 P170-177 第5版 保存修復学21 P203-214	1.0
					光硬化型ガラスアイオノマーセメントとコンポジットレジンの違いについて説明できる。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					光硬化型ガラスアイオノマーセメントの修復手順について説明できる。	Ⅳ-6	認知（想起）		
7	10/19	山田	ユニット7 アマルガム修復	アマルガム修復の歴史およびアマルガム修復用合金の種類と組成について知り、必要とされる窩洞形態と適応症について理解する。	アマルガム修復の歴史について説明できる。	Ⅲ-21	認知（想起）	第7版 保存修復学 P177-179 第5版 保存修復学21 P215-218	1.0
					アマルガム修復窩洞の特徴について説明できる。	Ⅳ-6	認知（想起）		
					アマルガム修復の適応症について説明できる。	Ⅳ-6	認知（想起）		
8	10/19	松崎	ユニット8 間接修復法	広範囲に及ぶ歯冠欠損に対処するために、間接修復法の種類と方法を理解する。	間接修復法の種類（コンポジットレジン、セラミック、メタル）、特徴を説明できる。	Ⅳ-4	認知（想起）	第7版 保存修復学 P181-224 第5版 保存修復学21 P254-260	1.0
					間接修復法の治療の流れを説明できる。	Ⅳ-4	認知（想起）		
					セメントの種類、特徴および用途を説明できる。	Ⅲ-21	認知（想起）		
9	10/26	山田	ユニット9 鋳造修復1	メタルインレー修復法の特徴について理解する。印象法、間接法模型の作製、蠟形（ワックスパターン）の調整、埋没・鋳造法に関する知識を身につける。	メタルインレー修復法の特徴について説明できる。	Ⅳ-6	認知（想起）	第7版 保存修復学 P193-207 第5版 保存修復学21 P247-274	1.0
10	10/26	山田	ユニット10 鋳造修復2	インレー修復に必要な材料の特徴について理解する。印象法、間接法模型の作製、蠟形（ワックスパターン）の調整、埋没・鋳造法に関する知識を身につける。	鋳造用合金の種類と組成について説明できる。	Ⅲ-21	認知（想起）	第7版 保存修復学 P193-207 第5版 保存修復学21 P247-274	1.0
					作業用模型の種類と特徴について説明できる。	Ⅳ-6	認知（想起）		
11	11/2	山田	ユニット11 研磨	鋳造体とレジンの研磨法の違いについて理解する。	鋳造体の研磨法・合着法について説明できる。	Ⅳ-6	認知（想起）	第7版 保存修復学 P193-207 第5版 保存修復学21 P247-274	1.0
					レジンの研磨法について説明できる。	Ⅳ-6	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピューター	教育目標領域	予習の項目	必要時間
12	11/16	畠山（純）	ユニット12 コンポジットレジンインレー修復	コンポジットレジンインレー修復の特徴について理解するとともに、窩洞形態・適応症・種類・材料の組成・修復手順に関する知識を身につける。	コンポジットレジンインレー修復の特徴について説明できる。	IV-6	認知（想起）	第7版 保存修復学 P207-211 第5版 保存修復学 21 P219-234	1.0
					本修復法の手順について説明できる。	IV-6	認知（想起）		
13	11/30	丸田	ユニット13 セラミックス	セラミックインレー修復に必要な材料の特徴について理解する。	セラミックスの種類と組成について説明できる。	Ⅲ-21	認知（想起）	第7版 保存修復学 P210-P224 第5版 保存修復学 21 P235-246	1.0
					セラミックスの長所と短所について説明できる。	Ⅲ-21	認知（想起）		
14	11/30	米田	ユニット14 セラミックインレー修復	セラミックインレー修復の特徴について理解するとともに、窩洞形態・適応症・種類・材料の組成・修復手順に関する知識を身につける。	セラミックインレー修復の特徴について説明できる。	IV-6	認知（想起）	第7版 保存修復学 P212-第5版 保存修復学21 P235-246	1.0
					CAD/CAM修復の特徴について説明できる。	IV-6	認知（想起）		
15	11/2	米田	ユニット15 歯の変色と漂白	歯の変色の原因を知り、各種漂白法の特徴・適応症について理解する。	歯の変色の原因について説明できる。	Ⅲ-8	認知（想起）	第7版 保存修復学 P85-90 第5版 保存修復学21 P297-306	1.0
					漂白法の種類について説明できる。	IV-6	認知（想起）		
					各漂白法の適応症について説明できる。	IV-4	認知（想起）		
16	11/9	米田	ユニット16 変色歯の修復	変色歯の各種修復法の特徴・適応症について理解する。	変色歯修復の特徴について説明できる。	IV-6	認知（想起）	第7版 保存修復学 P224-231 第5版 保存修復学 21 P297-306	1.0
					ベニア修復の手順について説明できる。	IV-6	認知（想起）		
					ベニア修復法とコンポジットレジン修復法の適応症の違いについて説明する。	IV-4	認知（想起）		
17	11/9	米田	ユニット17 高齢者における保存修復治療	高齢者に特徴的な歯の硬組織疾患に対処するために、歯科治療上の留意点を理解する。	歯の生理的な加齢変化を説明できる。	Ⅲ-7	認知（想起）	第7版 保存修復学 P224-231 第5版 保存修復学 21 P297-306	1.0
					高齢者の歯の硬組織疾患の特徴を説明できる。	Ⅲ-13	認知（想起）		
					高齢者に対する修復治療上の留意点を説明できる。	IV-1	認知（想起）		
18	11/16	米田	ユニット18 齲蝕学前半まとめ	齲蝕学前半（齲蝕の基礎、検査、窩洞形成等）について理解する。	齲蝕の基礎、検査、窩洞形成について説明できる。	Ⅲ-8	認知（想起）	齲蝕学Ⅰ 講義資料	1.0
19	12/7	米田	ユニット19 齲蝕学後半まとめ	齲蝕学後半（各種修復法、変色歯の対応等）について理解する。	各種窩洞形成法、変色歯の対応等について説明できる。	IV-6	認知（想起）	齲蝕学Ⅱ 講義資料	1.0

歯内療法学 【講義】

科目番号 OD031204

後期：17コマ

評価責任者：阿南 壽

阿南 壽

担当教員：松崎英津子

松本典祥

（一般目標）

歯の硬組織疾患から始まる一連の歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患の病因および病態生理について学習するとともに、各疾患の診査・診断・治療方法の詳細について理解する。

（教育方法）

教科書、プリント、スライドおよびDVDによる講義

（学習方法）

予習はシラバスに記載された教科書「エンドドンティクス第5版」の授業関連項目を読むこととする。また、復習は配布資料および教科書の関連ページを再読し、提示された問題を再度、解くことにより行う。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：11.0 時間】

（評価）

記述試験（定期試験：90%）

聴講態度ならびに小テスト（10%）

「学生へのフィードバックの時期と方法」

定期試験後、口頭で試験のできばえについて説明する。

（教科書）

興地隆史、石井 信之、小木曾 文内編集『第5版 エンドドンティクス』永末書店、2018

〔選定理由〕歯科基礎医学の知識、基本的な手技から最新の診断・治療方法にいたるまで歯内療法学全般にわたって詳細に解説したベストセラーテキストである。国家試験参考図書、歯内療法学会指定図書。

（参考書）

勝海一郎、興地隆史、石井信之、中田和彦編集『第5版 歯内治療学』医歯薬出版、2018

須田英明編集『エンドドンティクス21歯内療法カラーアトラス』永末書店、2008 〔選定理由〕歯内療法の実際を詳細に解説している。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/7	阿南	ユニット1 歯髄腔の基本形態と歯髄の機能	歯と歯根周囲組織の構造と機能に関する知識を理解する。	歯内療法の目的について説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）	第5版 エンドドンティクス 第1章歯と歯根周囲の組織学 第2章歯髄腔の解剖学 P2-27	0.5
					歯髄と根尖周囲組織について説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					歯内疾患の発症機序について説明できる。	Ⅲ-5	認知（想起）		
2	9/14	阿南	ユニット2 歯髄疾患の病態	歯髄疾患の病態について理解する。	歯髄疾患と細菌との関連性について説明できる。	Ⅲ-4	認知（想起）	第5版 エンドドンティクス 第4章 歯髄疾患 P32-P46	0.7
					各歯髄疾患の病態について説明できる。	Ⅲ-8	認知（想起）		
3	10/5	阿南	ユニット3 歯髄疾患の検査	歯髄疾患における検査方法について理解する。	歯髄疾患の臨床的分類について説明できる。	Ⅳ-3	認知（想起）	第5版 エンドドンティクス 第6章 歯内療法における診査・検査・診断 P64-P77	0.7
4	10/19	松本	ユニット4 歯髄疾患の治療方針	歯髄疾患の治療方針について理解する。	歯髄疾患の治療方針について説明できる。	Ⅲ-21	認知（想起）	第5版 エンドドンティクス 第7章 症例選択、治療計画 P78-85、第8章 無菌的処置P86-P93	0.7
					歯内療法用器具器材の滅菌消毒法について説明できる。	Ⅲ-21	認知（想起）		
5	10/26	松本	ユニット5 歯髄疾患の治療（1）歯髄鎮痛消炎療法	歯髄鎮痛消炎療法について理解する。	象牙質知覚過敏症の病態について説明できる。	Ⅲ-8	認知（想起）	第5版 エンドドンティクス P26-P31第3章 象牙質／歯髄複合体の生理学的機能、第9章 歯髄保護と歯髄保存療法P93-P101	0.7
					象牙質知覚過敏症の治療法について説明できる。	Ⅳ-3	認知（想起）		
					歯髄鎮痛消炎療法について説明できる。	Ⅳ-4	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピューター	教育目標領域	予習の項目	必要時間
6	11/2	松本	ユニット6 歯髄疾患の治療（2）覆髄法	覆髄法の術式と使用される薬剤について理解する。	暫間的間接覆髄法について説明できる。	IV-4	認知（想起）	第5版 エンドドンティクス 第9章 歯髄保護と歯髄保存療法P93-P101	0.7
					間接覆髄法について説明できる。	IV-4	認知（想起）		
					直接覆髄法について説明できる。	IV-4	認知（想起）		
7	11/2	松崎	ユニット3 歯髄疾患の検査	歯髄疾患における検査方法について理解する。	歯髄疾患の臨床的分類について説明できる。	IV-3	認知（想起）	第5版 エンドドンティクス 第10章 歯髄除去療法 P102-P114	0.7
			ユニット7 歯髄疾患の治療（3）断髄法（アペキシゲネーシス）	断髄法について理解する。	歯髄除去療法の目的について説明できる。	IV-4	認知（想起）		
					断髄法（アペキシゲネーシス）の目的について説明できる。	IV-4	認知（想起）		
					断髄法（アペキシゲネーシス）の術式について説明できる。	IV-4	認知（想起）		
8	11/9	松崎	ユニット8 歯髄疾患の治療（4）抜髄法	抜髄法について理解する。	抜髄法の目的について説明できる。	IV-4	認知（想起）	第5版 エンドドンティクス 第10章 歯髄除去療法 P102-P114, 第12章 根管形成P123-136	0.7
					抜髄法の術式について説明できる。	IV-4	認知（想起）		
					抜髄に使用する器具について説明できる。	Ⅲ-21	認知（想起）		
9	11/9	松崎	ユニット9 根管充填	根管充填について理解する。	根管充填の目的について説明できる。	IV-4	認知（想起）	第5版 エンドドンティクス 第14章 根管充填 P145-P162	0.7
					根管充填に使用される材料と器具について説明できる。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					根管充填後の根尖部創傷の治癒機転と予後について説明できる。	IV-5	認知（想起）		
10	11/16	阿南	ユニット10 根尖性歯周疾患の病態	根尖性歯周疾患の病態について理解する。	根尖性歯周疾患の検査法について説明できる。	IV-3	認知（想起）	第5版 エンドドンティクス 第5章 根尖性歯周組織疾患 P47-P60、第6章 歯内療法における診査・検査・診断 P64-P77	0.7
					根尖性歯周疾患の臨床的分類について述べる。	Ⅲ-8	認知（想起）		
					根尖性歯周疾患の治療の概要について説明できる。	IV-4	認知（想起）		
11	11/16	松崎	ユニット11 感染根管治療	感染根管治療について理解する。	感染根管治療の治療用器材と術式について説明できる。	Ⅲ-21	認知（想起）	第5版 エンドドンティクス 第11章 根尖性歯周組織疾患の治療 P115-P122、第13章 根管貼薬・仮封 P137-P144、第19章 根未完成歯 P205-P209	0.7
					根管清掃剤と根管貼薬剤について説明できる。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					アペキシフィケーションについて説明できる。	IV-4	認知（想起）		
12	11/30	松崎	ユニット12 感染根管治療後の根管充填	感染根管治療後の根管充填について理解する。	感染根管治療後の根管充填の目的と時期について説明できる。	IV-4	認知（想起）	第5版 エンドドンティクス 第16章 再根管治療 P180-187、第14章 根管充填 P145-P163	0.5
					感染根管治療後の根尖部歯周組織の治癒機転について説明できる。	IV-5	認知（想起）		
					失活歯の漂白法について説明できる。	IV-4	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
13	11/30	松崎	ユニット13 外科的歯内療法	外科的歯内療法について理解する。	外科的歯内療法の適応症と禁忌症について説明できる。	IV-4	認知（想起）	第5版 エンドドンティクス 第21章 外科的歯内療法 P218-P229、第22章 マイクロスコープを応用した歯内療法 P230-235	0.7
					外科的歯内療法の術式と治療機転について説明できる。	IV-4	認知（想起）		
					マイクロスコープを応用した外科的歯内療法について説明できる。	IV-4	認知（想起）		
14	12/7	阿南	ユニット14 歯内一歯周疾患	歯内一歯周疾患について理解する。	歯髄と歯周組織の交通路について説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）	第5版 エンドドンティクス 第20章 歯内一歯周疾患 P210-P217	0.6
					歯内一歯周疾患の診査・診断・分類について説明できる。	IV-3	認知（想起）		
					歯内一歯周疾患の治療方法を類型別に説明できる。	IV-4	認知（想起）		
15	12/7	阿南	ユニット15 高齢者の歯内療法	高齢者の特徴を踏まえた歯内療法について理解する。	高齢者の歯、歯髄および根尖歯周組織の加齢変化を説明できる。	Ⅲ-7	認知（想起）	第5版 エンドドンティクス 第23章 高齢者の歯内療法 P236-P243	0.5
					高齢者の歯内療法の留意点を説明できる。	IV-4	認知（想起）		
					全身疾患と歯内療法の関連性について説明できる。	IV-5	認知（想起）		
16	12/14	松崎	ユニット16 歯内療法時の偶発症	歯内療法時の偶発症について理解する。	外傷による歯髄疾患の診断と治療法について説明できる。	IV-4	認知（想起）	第5版 エンドドンティクス 第15章 歯内療法時の安全対策 P163-P178、第18章 歯の外傷 P196-P204	0.5
					歯の内部吸収および外部吸収について説明できる。	Ⅲ-8	認知（想起）		
					歯内治療時の偶発事故について説明できる。	IV-4	認知（想起）		
17	12/14	松崎	ユニット17 新しい歯内療法	マイクロスコープを応用した歯内療法について理解する。	歯内再生療法について説明できる。	IV-4	認知（想起）	第5版 エンドドンティクス 第6章 歯内療法における診査・検査・診断 P64-P77、第12章 根管形成 P123-P136、第22章 マイクロスコープを応用した歯内療法 P230-235	0.7
					歯内療法におけるCBCTの有用性について説明できる。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					歯内療法における実体顕微鏡の有用性について説明できる。	Ⅲ-21	認知（想起）		

歯周治療学Ⅰ 【講義】

科目番号 0D031205

後期：15コマ

評価責任者：坂上竜資

担当教員：吉永泰周、大城希美子、金子高士、加藤 熙、吉村篤利

（一般目標）

歯周病学における基礎を身につけるために、歯周組織の構造、歯周疾患の病態と病因、および基本的な治療法を理解する。

（教育方法）

講義

問題演習

（実習・演習）

（学習方法）

予習方法：教科書を熟読する。

復習方法：配布プリントを用いて自分でノートを作る。

臨場感を持って想像しながら学習する。

問題演習で理解到達度を確認する。

学習者同士や教員との討議を行って理解を深める。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評 価）

定期試験（80%）：記述式問題ならびに客観試験

試験終了後、質問に来た学生に対して解説を行う。

中間試験（20%）：客観試験

試験終了後、解説を行う。

（教科書）

加藤 熙他著、『新版最新歯周病学』、医歯薬出版株式会社、2011

（現在の歯周病学、歯周治療学を網羅して編纂された教科書）

（参考書）

Jan Lindhe他、『Lidhe 臨床歯周病学とインプラント第4版（基礎編）』、クインテッセンス出版、2005

（研究論文に裏づけされた臨床歯周病学のバイブル）

吉江弘正他編、『臨床歯周病学』、医歯薬出版、2007

（現在の歯周病学、歯周治療学を網羅して編纂された教科書）

天野敦雄他監修、『ビジュアル歯周病を科学する』、クインテッセンス出版、2012

（基礎的な内容がしっかりと盛り込まれた美しいカラーイラストの本）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピューター	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/1	坂上	ユニット1 歯周療法学概論 歯周療法の意義及び目的	歯周病学の口腔医学における位置づけ、歯周療法の意義と目的を理解する。	歯周疾患の概念を説明できる。 歯周疾患の進行について説明できる。 歯周療法の目的を列記できる。	Ⅲ-8 Ⅲ-5 Ⅲ-8	認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈）	「歯周疾患」をキーワードに調べてくる。	1.0
2	9/8	坂上	ユニット4 プラーク、細菌、歯石	歯周疾患の病因に関する考察が行えるように、プラークの病原性について理解する。	歯周病原性細菌を列記できる。 各細菌の病原性を説明できる。 臨床症状の変化との関連を説明できる。	Ⅲ-8 Ⅲ-4 Ⅲ-5	認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈）		
3	9/15	加藤	ユニット5 特別講義 歯周病学の歴史	歯周疾患の病因と治療に対する考え方の変化を理解する。	歯周疾患の原因因子を説明できる。 歯周疾患の治療形態について説明できる。	Ⅲ-8 Ⅲ-5	認知（解釈） 認知（解釈）		
4	9/15	吉永	ユニット2 歯周組織の発生、構造と機能（1）	正常な歯周組織を理解し、歯周組織の構造や機能を知る基礎を身につける。	正常な歯周組織の模式図を描き説明できる。 上皮付着と結合組織性付着の違いを説明できる。 歯肉の機能、組織学的な特徴を説明できる。	Ⅲ-6 Ⅲ-6 Ⅲ-6	認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈）	1)教科書を読む（pp.1 - 13） 2)口腔解剖学、口腔組織学の該当範囲の復習	1.0
			ユニット2 歯周組織の発生、構造と機能（2）	歯根膜、歯槽骨、セメント質の特徴を理解し、さらに歯周組織の発生と生理を理解する。	歯根膜、歯槽骨、セメント質の機能、組織学的な特徴を説明できる。 歯周組織の発生の過程を説明できる。	Ⅲ-6 Ⅲ-7	認知（解釈） 認知（解釈）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
5	10/6	坂上	ユニット3 歯周疾患の病態、原因因子、リスクファクター（1）	歯周疾患の病態を知り、正常、歯肉炎、歯周炎の違いについて理解する。	正常歯肉、歯肉炎、歯周炎の臨床症状を説明できる。	Ⅲ-8	認知（解釈）	1)教科書を読む（pp. 24 - 46）	1.0
			ユニット3 歯周疾患の病態、原因因子、リスクファクター（2）	歯周疾患の進行に影響をもたらす全身的因子と薬物について理解する。	歯周疾患の原因因子を説明できる。 歯周疾患のリスクファクターを列記できる。	Ⅲ-8 Ⅲ-8	認知（解釈） 認知（解釈）		
6	10/6	[6回] 吉永	ユニット6 歯周疾患の検査と診断の基本（1） [7回] 吉村 [8回] 吉永	歯周疾患における医療面接とともに、一般的診察事項を理解するとともに身につける。	歯周疾患の診査の目的と意義を説明できる。	Ⅲ-8	認知（解釈）	[6回] 1)教科書を読む（pp. 66-100）	[6] 1.0
7	10/13	[7回] 吉村			医療面接において一般的事項、主訴、全身の既往症、家族歴、口腔の既往歴と現病歴で聞くべき事柄を列記できる。	Ⅳ-1	認知（解釈）	[7回] 1)教科書を読む（pp. 66-100） 2)口腔病理学の該当範囲の復習	[7] 1.0
8	10/20	[8回] 吉永			口腔外検査法を列記できる。	Ⅳ-3	認知（解釈）	[8回] 1)教科書を読む（pp. 66-100） 2)口腔病理学の該当範囲の復習	[8] 1.0
					口腔内検査法を列記できる。	Ⅳ-3	認知（解釈）		
					歯周病の疫学について理解する。	Ⅳ-3	認知（解釈）		
					歯周組織の破壊状態と病変の進行状態の診査法を理解するとともに身につける。	Ⅲ-8	認知（解釈）		
					ポケット深さとアタッチメントレベルを説明できる。	Ⅳ-3	認知（解釈）		
					仮性ポケットと真性ポケットとの違いを説明できる。	Ⅳ-3	認知（解釈）		
					骨縁上ポケットと骨縁下ポケットの違いを説明できる。	Ⅳ-3	認知（解釈）		
					根分岐部病変のLindheの分類とGlickmanの分類を説明できる。	Ⅳ-3	認知（解釈）		
			ユニット7 歯周組織の破壊状態の検査（2）	歯周病学における骨欠損の分類とともに、根分岐部病変を理解する。	水平性骨欠損と垂直性骨欠損を説明できる。	Ⅳ-3	認知（解釈）		
					クレーター状骨欠損、ヘミセプター状骨欠損、1,2,3,4壁性骨欠損、開窓、裂開を説明できる。	Ⅳ-3	認知（解釈）		
					歯の動揺度を分類できる。	Ⅳ-3	認知（解釈）		
					歯周組織の炎症に伴う症状の評価方法を列記できる。	Ⅳ-3	認知（解釈）		
					歯の動揺、早期接触、咬頭干涉、側方圧、舌習癖、ブラキシズムなどの評価法を説明できる。	Ⅳ-2	認知（解釈）		
					エックス線写真、口腔内カラー写真、研究用模型に表れる変化を説明できる。	Ⅳ-2	認知（解釈）		
					治療計画の意義を説明できる。	Ⅲ-8	認知（解釈）		
					歯周初期治療計画の流れを説明できる。	Ⅲ-8	認知（解釈）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
9	10/27	大城	ユニット3 歯周疾患の病態、原因因子、リスクファクター（3） 中間試験	歯周病の分類と成り立ちを理解する。	歯周病の分類を説明できる。	Ⅲ-8	認知（解釈）	1) 第1-8回までの復習を更に行う。 2) 教科書を読む（pp. 14-23）	1.0
					歯肉炎と歯周炎の成り立ちについて説明できる。	Ⅲ-8	認知（解釈）		
					—	Ⅲ-8			
10	11/10	大城	ユニット11 ブラークコントロール（1）	歯周基本治療の意義を理解する。	基本治療の目的について列記できる。	Ⅳ-6	認知（解釈）	1) 教科書を読む（pp. 109 - 127）	1.0
					全身性疾患に配慮した治療方針を説明できる。	Ⅳ-6	認知（解釈）		
			ユニット11 ブラークコントロール（2）	歯周疾患の応急処置について理解する。	急性症状に対する応急処置を説明できる。	Ⅳ-6	認知（解釈）		
					原因除去療法（広義のブラークコントロール）を理解する。	Ⅳ-5	認知（解釈）		
			ユニット11 ブラークコントロール（3）		モチベーションの意義を説明できる。	Ⅳ-5	認知（解釈）		
					歯ブラシ、補助的清掃用具、家庭用口腔洗浄器、染色剤、化学的方法によるブラークコントロールについて説明できる。	Ⅳ-5	認知（解釈）		
					清掃指導の効果判定と失敗の対策について説明できる。	Ⅳ-5	認知（解釈）		
11	11/17	吉永	ユニット13 スケーリング・ルートブレイニング	スケーリング・ルートブレイニングの意義と術式およびスケーリング・ルートブレイニング後の治癒について理解する。	スケーリングとルートブレイニングを定義できる。	Ⅳ-6	認知（解釈）	1) 教科書を読む（pp. 128-141）	1.0
					超音波スケーラーの作用メカニズムと歯石除去のための使用法について説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					手用スケーラーとその特徴を図示して説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					手用スケーラー使用時の重要事項について説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					スケーラーの研磨法について、図示して説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					スケーリング・ルートブレイニング後の組織変化について説明できる。	Ⅲ-8	認知（解釈）		
12	11/24	坂上	ユニット12 歯周治療における咬合治療	咬合の基礎知識、咬合治療の基本的な考え方、咬合調整について理解する。	咬合の基礎知識を説明できる。	Ⅳ-3	認知（解釈）	1) 教科書を読む（pp. 53 - 60, pp. 101 - 108）	1.0
					咬合治療の基本的な考え方を説明できる。	Ⅳ-6	認知（解釈）		
					咬合調整について説明できる。	Ⅳ-6	認知（解釈）		
13	12/1	坂上	ユニット14 咬合治療とブラキシズムの治療、歯周矯正治療	暫間固定と永久固定の処置、ブラキシズムの処置、歯周治療における矯正治療について理解する。	暫間固定と永久固定について、維持形式、使用形式による分類を行うことができる。	Ⅳ-6	認知（解釈）	1) 教科書を読む（pp. 53 - 60, pp. 101 - 108）	1.0
					ブラキシズムに対する治療について説明できる。	Ⅳ-5	認知（解釈）		
					MTMの適応及び注意事項、術前と治療時の処置、MTMに用いられる各種の方法、器具について説明できる。	Ⅳ-6	認知（解釈）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
14	12/8	金子	ユニット15 全身と歯周病 （1）	ペリオドンタルメ ディシンについて 理解する。	ペリオドンタル・メディ シンを説明できる。	Ⅲ-19	認知（解 釈）	1)教科書を読む（pp. 47- 52, pp.61 - 65）	1.0
					歯周炎の発症と進行に影響 を及ぼす疾患群を概説でき る。	Ⅲ-19	認知（解 釈）		
					歯周炎の影響を受ける疾患 群を概説できる。	Ⅲ-19	認知（解 釈）		
					歯周炎と全身疾患の関連性 を裏づける機序を説明でき る。	Ⅲ-19	認知（解 釈）		
			ユニット15 全身と歯周病 （2）	歯周疾患の病因に 対する考察が行え るように、免疫応 答や組織反応につ いて理解する。	歯周組織においてプラーク によって生じる、細胞性免 疫と体液性免疫を説明でき る。	Ⅲ-1	認知（解 釈）		
					臨床症状との関連を説明で きる。	Ⅲ-8	認知（解 釈）		
15	12/15	坂上	ユニット8 歯周基本治療 と再評価 （1）	広義のプラークコ ントロールの意義 と術式について理 解する。	基本治療における不良修復 物・補綴物の修正や除去、 齦蝕・硬組織疾患の処理、 歯内治療、知覚過敏処置の 意義を説明できる。	Ⅳ-6	認知（解 釈）	1)教科書を読む（pp. 142 - 150）	1.0
					保存不可能歯の抜去の意義 ならびに抜歯の判定の基準 を説明できる。	Ⅳ-6	認知（解 釈）		
			ユニット8 歯周基本治療 と再評価 （2）	外傷性増悪因子の 除去について理解 する。	咬合調整について説明でき る。	Ⅳ-6	認知（解 釈）		
					暫間固定、喪失歯の仮補綴 の意義について説明でき る。	Ⅳ-6	認知（解 釈）		
					基本治療において改善する 必要のある悪習癖の種類を 列挙し、その改善法を説明 できる。	Ⅳ-6	認知（解 釈）		
			ユニット8 歯周基本治療 と再評価 （3）	基本治療後の再評 価について理解す る。	基本治療後の再評価の意義 について説明できる。	Ⅳ-6	認知（解 釈）		
					再評価によって治療計画の 修正について説明できる。	Ⅳ-4	認知（解 釈）		

冠橋義歯学Ⅰ 【講義】

科目番号 OD031206

後期：15コマ

評価責任者：松浦尚志

担当教員：松浦尚志

（一般目標）

全部鑄造冠、一部被覆冠の製作法を通じて、歯質欠損に対する歯冠修復の臨床的意義と方法を理解する。さらに、適切な歯科材料の選択基準ならびに取扱い方法を理解する。

（教育方法）

パワーポイントによるプレゼンテーションと板書による講義スタイルとする。予め講義ノート用の資料を配布し、学生が自分で資料に書き込みながらノートを作成していき、理解を深めるようにする。

（学習方法）

授業前後に下記教科書や参考書の該当部分を読むこと。講義と教科書、参考書を参考に自分で講義ノートを作成し、卒業までの参考書とすること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評価）

定期試験（記述約40%、客観試験約60%）。定期試験終了後、模範解答を開示し、質問を受け付ける。

（教科書）

- ① 會田雅啓ほか 『冠橋義歯補綴学 テキスト 第3版』、永末書店
最新の全国教科書
- ② 三浦宏之ほか 『クラウン・ブリッジテクニック 第2版』、医歯薬出版
全国共通に使用されている基礎ならびに臨床実習用教科書
- ③ 歯科補綴学専門用語集 第5版 医歯薬出版
専門用語を簡単に引き出せる。

（参考書）

Rosenstielほか『Contemporary Fixed Prosthodontics 5th ed』、Mosby
世界でよく使用されている教科書の一つ、図が見やすく理解しやすい（5版日本語訳有り）。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1 2	9/2 9/9	松浦尚志	ユニット1 支台歯形成	金属冠製作のための支台歯の形態と形成方法を理解する。	全部金属冠の支台歯形成法を説明する。	IV-7	認知（想起）	教科書① p11-p24	1] 1.0 2] 1.0
3	9/16	松浦尚志	ユニット1 支台歯形成	金属冠製作のための支台歯の形態と形成方法を理解する。	部分金属冠の支台歯形成法を説明する。	IV-7	認知（想起）	教科書① p11-p24	1.0
4	9/23	松浦尚志	ユニット2 プロビジョナルレストレーション	プロビジョナルレストレーションの意義と製作方法を理解する。	プロビジョナルレストレーションの意義と製作方法を説明する。	Ⅲ-21	認知（解釈）	教科書① p40-44	1.0
5	10/7	松浦尚志	ユニット3 印象採得	印象採得の意義と方法を理解する。	印象採得の方法を説明する。	IV-7	認知（解釈）	教科書① p24-p33	1.0
6	10/14	松浦尚志	ユニット4 顎間関係の記録	顎間関係の記録の意義と方法を理解する。	咬合採得と作業用模型製作の方法を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）	教科書① p33-p39, p44-p47	1.0
7	10/21	松浦尚志	ユニット5 咬合器装着	咬合器装着の方法を理解する。	作業用模型の咬合器への装着法を説明する。	Ⅲ-21	認知（解釈）	教科書① p48-p51、教科書② p85-p90	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
8	10/28	松浦尚志	ユニット6 技工操作	金属冠の技工操作を理解する。	ろう型形成の方法を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）	教科書① p52-p53、教科書② p105-p114	1.0
9	11/4	松浦尚志	ユニット6 技工操作	金属冠の技工操作を理解する。	埋没、鋳造、研磨の方法を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）	教科書① p54-p60, p150-151	1.0
10	11/11	松浦尚志	ユニット7 口腔内試適・装着	口腔内試適と装着の方法を理解する。	試適と装着の方法を説明する。	Ⅳ-7	認知（解釈）	教科書① p60-p66	1.0
11	11/18	松浦尚志	ユニット8 支台築造	支台築造の目的、種類および方法を理解する。	支台築造の目的と種類を説明する。	Ⅲ-9	認知（想起）	教科書① p80-p92	1.0
12	11/25	松浦尚志	ユニット8 支台築造	支台築造の目的、種類および方法を理解する。	支台築造の方法を説明する。	Ⅲ-21	認知（解釈）	教科書① p80-p92	1.0
13	12/2	松浦尚志	ユニット9 術後管理	術後管理の意義と方法を理解する。	術後管理の意義と方法を説明する。	Ⅳ-3	認知（想起）	教科書① p228-p232	1.0
14	12/9	松浦尚志	ユニット10 診断	診断に必要な検査を理解する。	咬合習癖や顎関節症の検査を説明する。	Ⅳ-3	認知（解釈）	教科書① p234-p239	1.0
15	12/16	松浦尚志	ユニット10 診断	診断に必要な検査を理解する。	診断のための検査の重要性を説明する。	Ⅳ-3	認知（想起）	教科書① p1-p10	1.0

科目番号 OD031208

後期：43コマ

評価責任者：松浦尚志

担当教員：松浦尚志、山口雄一郎、加我公行、柴口塊、宮園祥爾

（一般目標）

鑄造歯冠修復物の製作を通じて臨床に必要な基本的鑄造歯冠修復手法と技術を習得するとともに、適切な材料の選択基準並びに取扱い方法を理解する。

（教育方法）

※課題解決演習に要する2コマの出欠は、課題解決演習Ⅱの出席・欠席として取り扱う。

配布する実習書に沿った実技実習。

ライターによる説明およびデモ。

部分的なビデオの上映。

（実習・演習）

（学習方法）

実習前に、配布する実習書や下記教科書の該当箇所を読むこと。

実習前に、講義の該当箇所の復習を行うこと。

実習中に、ライターの説明をよく聞き、デモを見学すること。

疑問な点はライターに質問すること。

実習中に、実践ビデオを見ること。

実習後に、行ったことの復習を行うこと。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 0.0 時間】

（評価）

- ・レジン歯の形成（築造窩洞形成、支台歯形成20%）
- ・歯冠修復物（20%）
- ・作業模型（20%）
- ・実習態度（20%）
- ・実習試験（20%）（筆記、実技）

最終日の実習試験終了後、模範解答を開示し、質問を受け付ける。

（教科書）

- ・三浦宏之 他 クラウンブリッジテクニック第2版 医歯薬出版 2018年
- ・実習書
- ・冠橋義歯補綴学テキスト第3版 2019年

（参考書）

- ・Rosenstiel 他 Contemporary Fixed Prosthodontics 5th Edition MOSBY 2015年

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	コンピューター	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	9/2 9/2 9/2 9/9 9/9 9/9 9/16 9/16 9/16 9/23 9/23 9/23	松浦尚志、山口雄一郎、加我公行、柴口塊、宮園祥爾	ユニット1 支台歯形成	全部金属冠の支台歯形成の意義と方法を理解する。	全部金属冠の支台歯形態と形成法を説明する。	Ⅳ-7	認知（解釈）	実習書の該当ページ、クラウンブリッジテクニック第2章 A, B	1-12] 0.1
13 14 15	10/7 10/7 10/7	松浦尚志、山口雄一郎、加我公行、柴口塊、宮園祥爾	ユニット2 個人トレーの製作	個人トレーの意義と製作法を理解する。	個人トレーの設計と製作法を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）	実習書の該当ページ、クラウンブリッジテクニック第4章 A	13-15] 0.1
16 17 18	10/14 10/14 10/14	松浦尚志、山口雄一郎、加我公行、柴口塊、宮園祥爾	ユニット3 精密印象採得	精密印象（シリコーンラバー印象材）の特徴と方法を理解する。	歯肉圧排の必要性と精密印象採得の方法を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）	実習書の該当ページ、クラウンブリッジテクニック第4章 A 第7章	16-17] 0.1
			ユニット4 咬合採得	咬合採得の意義と方法を理解する。	咬頭嵌合位での顎間関係の記録の意義と方法を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピューター	教育目標領域	予習の項目	必要時間
19 20 21	10/21 10/21 10/21	松浦尚志、 山口雄一 郎、加我公 行、柴口 塊、宮園祥 爾	ユニット5 作業用模型の 製作	作業用模型の製作 法を理解する。	作業用模型の構成、種類お よび製作方法を説明する。	Ⅳ-7	認知（解 釈）	実習書の該当ページ、クラ ウンブリッジテクニク 第8章	19-21] 0.1
22 23 24	10/28 10/28 10/28	松浦尚志、 山口雄一 郎、加我公 行、柴口 塊、宮園祥 爾	ユニット6 咬合器装着	咬合器装着の意義 と方法を理解す る。	咬合器装着の意義と方法を 説明する。	Ⅲ-21	認知（想 起）	実習書の該当ページ、クラ ウンブリッジテクニク 第7章 第8章 B	22-24] 0.1
25 26 27 28 29 30 31 32 33	11/4 11/4 11/4 11/11 11/11 11/11 11/18 11/18 11/18	松浦尚志、 山口雄一 郎、加我公 行、柴口 塊、宮園祥 爾	ユニット7 ワックスアップ	ワックスアップの 方法を理解する。	ろう型形成の種類と方法を 説明する。	Ⅲ-21	認知（想 起）	実習書の該当ページ、クラ ウンブリッジテクニク 第9章	25-33] 0.1
34 35 36	11/25 11/25 11/25	松浦尚志、 山口雄一 郎、加我公 行、柴口 塊、宮園祥 爾	ユニット8 埋没・鑄造	埋没・鑄造の原理 と方法を理解す る。	埋没材の種類、鑄造収縮の 補償および埋没と鑄造の方 法を説明する。	Ⅲ-21	認知（想 起）	実習書の該当ページ、クラ ウンブリッジテクニク 第10章	34-36] 0.1
37 38 39 40	12/2 12/2 12/2 12/9	松浦尚志、 山口雄一 郎、加我公 行、柴口 塊、宮園祥 爾	ユニット9 口腔内試適・ 装着	口腔内試適と装着 の方法を理解す る。	口腔内試適の意義と手順お よび装着法を説明する。	Ⅳ-7	認知（解 釈）	実習書の該当ページ、クラ ウンブリッジテクニク 第17章	37-40] 0.1
41 42	12/9 12/9	松浦尚志、 山口雄一 郎、加我公 行、柴口 塊、宮園祥 爾	ユニット10 課題解決演習	歯質欠損に対する 検査・診断・治療 計画の立案の流れ を理解する。	歯質欠損に対する検査・診 断・治療計画の立案を説明 できる。	Ⅲ-9	認知（問題 解決）	実習書の該当ページ	41-42] 0.1
43 44 45	12/16 12/16 12/16	松浦尚志、 山口雄一 郎、加我公 行、柴口 塊、宮園祥 爾	ユニット11 実習試験およ び解説	-	-	Ⅲ-9	-	実習書全ページ、上記の教 科書の該当項目	43-45] 0.1

有床義歯補綴学Ⅰ 【講義】

科目番号 OD031210

後期：15コマ

評価責任者：都築 尊

担当教員：都築 尊、川口智弘、吉田兼義、清水博史

（一般目標）

一顎または上下顎の全部の歯を喪失した、いわゆる無歯顎者の口腔の特性と歯の喪失に伴う顎口腔系の形態系、機能的変化および全身におよぼす影響を理解する。さらに、歯の喪失によって生じる部分無歯顎者の歯列および咬合を主体とした顎口腔系の形態系、機能的な変化とその病態、ならびに審美的な変化を理解するとともに、部分無歯顎の特異な咬合圧負担形式の様相とその神経筋機構を理解し、これらを踏まえ、診察、検査、診断、治療計画の立案、治療の方法、補綴装置の概念と作製方法、治療の経過、術後の管理に必要な基礎的理論と実際について習得する。

（教育方法）

教科書、配布講義ノート、スライド、動画を併用した講義、症例および実物の呈示、治療術式のデモ

（学習方法）

授業前にMoodle上にアップされている教科書のハイライト部分をマークし、最低でもハイライト部分は読んでくること。

授業後はMoodleにアップされている小テストを満点が取れるまで実施すること。

授業には教科書と配布講義ノートを必ず持参すること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評価）

定期試験100%（記述試験）

試験終了後、希望者に試験結果（成績）を知らせる。

Moodleの小テストは成績には反映されないが、小テストを実施していない学生は呼び出して教授試問を行う。

（教科書）

- ①市川哲雄他編 「無歯顎補綴治療学 第3版」 医歯薬出版
- ②細井紀雄他編 「コンプリートデンチャーテクニク 第6版」 医歯薬出版
- ③三谷春保他編 「歯学生のパーシャルデンチャー 第6版」 医歯薬出版
- ④五十嵐順正他編 「パーシャルデンチャーテクニク 第5版」 医歯薬出版

（参考書）

日本補綴歯科学会編 「歯科補綴学専門用語集第5版」 医歯薬出版

（歯科補綴学の専門用語集で歯学生必携の本である。）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/3	都築	ユニット1 全部床義歯補綴の臨床ステップ	全部床義歯の臨床ステップを理解する。	研究用模型の目的を説明する。 個人トレーの目的を説明する。 作業用模型の目的を説明する。 咬合床の構成を説明する。 咬合採得の順番を説明する。 標示線記入の目的を説明する。	Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	3年顎口腔機能学の講義ノートを見直して復習しておくこと。	1.0
2	9/10	都築	ユニット1 全部床義歯補綴の臨床ステップ	全部床義歯の臨床ステップを理解する。	咬合平面板を用いた咬合器装着を説明する。 フェイスボウを用いた咬合器装着を説明する。 前歯部人工歯の選択を説明する。 臼歯部人工歯の選択を説明する。 ろう義歯試適の目的と確認事項を説明する。	Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	講義ノートの該当箇所を目を通しておくこと。	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
3	9/17	都築	ユニット1 全部床義歯補綴の臨床ステップ	全部床義歯の臨床ステップを理解する。	義歯重合法の種類・順番を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）	講義ノートの該当箇所に目を通しておくこと。	1.0
					咬合器再装着の目的・種類を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					削合の目的を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
4	9/24	都築	ユニット4 部分床義歯補綴の臨床ステップ	部分床義歯の臨床ステップを理解する。	負担様式に基づく印象採得の考え方と方法を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）	講義ノートの該当箇所に目を通しておくこと。	1.0
					サベイングの目的を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					サベイヤーの構造を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					支台歯の前処置を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
5	10/8	都築	ユニット4 部分床義歯補綴の臨床ステップ	部分床義歯の臨床ステップを理解する。	部分床義歯の咬合採得を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）	講義ノートの該当箇所に目を通しておくこと。	1.0
					部分床義歯の人工歯排列を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					部分床義歯の埋没・重合を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					部分床義歯の装着を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
6	10/15	川口	ユニット5 前処置	前処置の目的と方法を理解する。	補綴的前処置を説明する。	Ⅲ-9	認知（想起）	Moodleにアップされている教科書のハイライト部分を自分の教科書にマークして くこと。	1.0
					外科的前処置を説明する。	Ⅲ-9	認知（想起）		
					その他の前処置を説明する。	Ⅲ-9	認知（想起）		
7	10/22	川口	ユニット6 可撤性義歯の印象採得	筋圧形成、印象用材料、概形印象、研究用模型、精密印象を理解する。	概形印象を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）	Moodleにアップされている教科書のハイライト部分を自分の教科書にマークして くこと。	1.0
					精密印象を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					印象材の組み合わせ別印象法を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					目的別印象法の種類を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					粘膜への圧力別印象法を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					ダイナミック印象を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					咬座印象を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					ウォッシュインプレッションを説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					作業用模型の製作法を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					模型改造印象法を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
8	10/29	川口	ユニット6 可撤性義歯の印象採得	筋圧形成、印象用材料、概形印象、研究用模型、精密印象を理解する。	可撤性義歯制作における個人トレーの製作法を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）	Moodleにアップされている教科書のハイライト部分を自分の教科書にマークして くこと。	1.0
					筋圧形成の方法を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					コンパウンドの取り扱い方を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
9	11/5	川口	ユニット7 可撤性義歯の咬合採得	可撤性義歯の咬合採得に使用する器具、方法を理解する。	咬合床の試適を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）	Moodleにアップされている教科書のハイライト部分を自分の教科書にマークして くこと。	1.0
					リップサポートを説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					仮想咬合平面の設定法を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					下顎咬合床の高さの調整を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
10	11/12	川口	ユニット7 可撤性義歯の咬合採得	可撤性義歯の咬合採得に使用する器具、方法を理解する。	形態的根拠に基づく垂直的顎間関係の記録法を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）	Moodleにアップされている教科書のハイライト部分を自分の教科書にマークして くこと。	1.0
					機能的根拠に基づく垂直的顎間関係の記録法を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
11	11/19	川口	ユニット7 可撤性義歯の咬合採得	可撤性義歯の咬合採得に使用する器具、方法を理解する。	標示線を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）	Moodleにアップされている教科書のハイライト部分を自分の教科書にマークして くこと。	1.0
					特に器具を必要としない水平的顎間関係の記録法を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					部分床義歯における咬合採得を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
12	11/26	川口	ユニット7 可撤性義歯の咬合採得	可撤性義歯の咬合採得に使用する器具、方法を理解する。	ゴシックアーチ描記法を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）	Moodleにアップされている教科書のハイライト部分を自分の教科書にマークして くこと。	1.0
13	12/3	川口	ユニット8 部分床義歯の設計と製作	部分床義歯の設計と製作に必要な器具、方法を理解する。	サバイヤーツールの使用方法を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）	Moodleにアップされている教科書のハイライト部分を自分の教科書にマークして くこと。	1.0
					サベイングの順番を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					部分床義歯の着脱方向を決定する要因を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					支台歯の前処置を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
14	12/10	川口	ユニット2 部分床義歯の構成要素	部分床義歯の構成要素を理解する。	鑄造鉤を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）	Moodleにアップされている教科書のハイライト部分を自分の教科書にマークして くこと。	1.0
					線鉤を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					コンビネーションクラスプを説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					アタッチメントの分類を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					歯冠外アタッチメントを説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					歯冠内アタッチメントを説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					歯根アタッチメントを説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					バーアタッチメントを説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）		
15	12/17	清水	ユニット9 部分床義歯用材料	部分床義歯製作に用いられる材料を理解する。	床用材料、クラスプ、バー用材料、人工歯の材料、熱処理を説明する。	Ⅲ-21	認知（想起）	Moodleにアップされている教科書のハイライト部分を自分の教科書にマークして くこと。	1.0

小児歯科学Ⅰ 【講義】

科目番号 OD031211

後期：15コマ
 評価責任者：尾崎 正雄
 尾崎 正雄
 担当教員：岡 暁子
 馬場 篤子

（一般目標）

胎生期から成人に至る間に小児の口腔領域の正常な発育を促し、これを阻害する口腔疾患について、その予防と治療を知ることによって、小児の口腔の健康促進ならびに管理について理解し、健全な顎口腔機能を育成するための理論や方法を習得し、小児の総合的咀嚼時間を認識する。

（教育方法）

教科書、スライドおよびレジメを用いた説明。

（学習方法）

教科書の流れに沿って授業が行われるので、シラバスに沿って予習復習を行うこと。また、参考書には、小児歯科疾患特有の硬組織疾患および軟組織疾患がカラー写真で掲載されているので、理解を含めるため復習に使用すること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 17.0 時間】

（評価）

記述試験 採点后約1週間後に成績を掲示し、採点内容は随時学生の申し出により、採点した答案用紙を提示する。

（教科書）

朝田芳信 他編集：小児の口腔科学（小児歯科全般の内容が分かりやすくカラーで解説されている）

（参考書）

高木祐三 他編集：小児歯科学（小児歯科全般の内容が分かりやすくカラーで解説されている）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/2	尾崎	ユニット1 小児歯科概論・小児歯科学の臨床的意義	小児歯科学の歯科における位置づけと小児歯科治療の意義と目的を理解する。	小児歯科学の概念を説明できる。	I-5	認知（解釈）	小児歯科学概論	1.0
2	9/9	岡	ユニット2 小児歯科に必要な心身の発育	小児歯科治療に必要な心身の発育を理解する。	発育の評価法と小児の生理的特徴を説明できる。	Ⅲ-12	認知（想起）	定型発達、成長の評価方法（小児の発育と栄養）	1.0
3	9/16	岡	ユニット3 頭部・顎・顔面の発育・歯の発生と発育異常	頭蓋、顎および顔面の発育や乳歯および幼若永久歯の特徴を理解する。	歯の異常と萌出異常について説明できる。	Ⅲ-12	認知（解釈）	頭蓋顎顔面の発育	1.0
4	9/23	岡	ユニット4 小児の診療方針・小児患者への対応	小児の口腔診断を行うための基本知識と治療方針立案と定期検診について理解する。小児の心理と歯科的対応法の実際について理解する。	治療方針と定期検診の時期を説明できる。小児の心理的特徴と対応法を説明できる。	I-5	認知（解釈）	小児の歯科治療システム、心理的特徴や歯科的対応法	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
5 6	10/7 10/14	岡	ユニット5 小児の齲蝕とその予防法	乳歯及び幼若永久歯の齲蝕とその処置、齲蝕予防法と窩溝填塞法について理解する。	小児における齲蝕の特徴と予防法を説明できる。	IV-10	認知（解釈）	乳歯・幼若永久歯の齲蝕診断法	5] 1.0 6] 1.0
7 8	10/21 10/28	岡	ユニット6 歯列および咬合の発育	乳歯裂及び永久歯列の発育変化と咬合発育異常について理解する。	乳歯、混合歯列、永久歯列の特徴と異常を説明できる。	IV-10	認知（解釈）	[7回] 中間テスト [8回] 歯列の成長変化・乳歯列、混合歯列、永久歯列の特徴	7] 3.0 8] 1.0
9 10	11/4 11/11	岡	ユニット7 咬合誘導	保険を含む咬合誘導の目的と症例について理解する。	静的・動的咬合誘導装置の目的と方法を説明できる。	IV-10	認知（解釈）	小児における歯列不正と静的咬合誘導、保険装置	9] 1.0 10] 1.0
11 12	11/18 11/25	岡	ユニット8 小児の歯の外傷と処置	乳歯・幼若永久歯・永久歯の外傷とその処置について理解する	歯の外傷の種類、その対応法、予後の観察について説明できる。	Ⅲ-12	認知（解釈）	[11回] 乳歯の外傷 [12回] 幼若永久歯の外傷	11] 1.0 12] 1.0
13 14	12/2 12/9	[13回] 尾崎 [14回] 岡	ユニット9 小児の外科的処置・軟組織疾患	小児の外科的処置、軟組織に生じる疾患と異常の概要を理解する。	小児における外科処置が必要な疾患を説明できる。軟組織疾患を説明できる	Ⅲ-12	認知（解釈）	[13回] 小児の外科的処置 [14回] 小児の口腔軟組織疾患	13] 1.0 14] 1.0
15	12/16	尾崎	ユニット10 遺伝性疾患・歯科治療時に留意すべき小児疾患	遺伝性疾患の特徴、歯科治療における配慮を理解する。	顎顔面の発育異常を伴う疾患を説明できる	Ⅲ-12	認知（解釈）	遺伝性疾患・治療に留意すべき全身疾患	1.0

科目番号 OD031212

後期：15コマ

評価責任者：玉置幸雄

担当教員：玉置幸雄、阿部朗子、高田俊輔

（一般目標）

顎顔面骨格、歯・歯列および神経筋機構の成長発育に関する基礎知識を修得し、それらに基づいて正常咬合の成立と不正咬合の発現について理解する。また、不正咬合の診断法および治療に必要な生体力学や歯科材料学の基本的事項を理解するとともに、不正咬合の治療に必要な基本的知識を修得する。

（教育方法）

プリントおよびパワーポイントによる講義

教科書を適宜使用

（実習・演習）

（学習方法）

各ユニットの授業開始までに「予習の項目」にある教科書の該当箇所を予習し、授業では知識の整理と理解に努め、復習ではプリントを核として知識の定着化をはかる。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評価）

定期試験（前期終了後）：100%（記述試験および客観試験）

希望者に解答用紙を呈示し、講義プリントと教科書を参照しながらフィードバックする。

（教科書）

飯田順一郎、葛西一貴、後藤滋己、末石研二、榎宏太郎、山城隆 他編、『歯科矯正学 第6版』、医歯薬出版、2019

（参考書）

William R. Proffit著、高田健治訳、『新版 プロフィットの現代歯科矯正学』、クインテッセンス出版、2004

（歯学生から専門医までを対象に歯科矯正学の理論をわかりやすく解説した本）

新井一仁、石川博之他著、『第3版 新しい歯科矯正学』、永末書店、2012

（歯科矯正学の講義の理解を助け、知識の整理をするための本）

榎宏太郎、後藤滋己、石川博之編集『歯科矯正マニュアル』、南山堂、2006

（箇条書きの表組みを主体とし、視覚的に知識をわかりやすく整理した本）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/1	玉置	ユニット1 歯科矯正学序論	歯学における歯科矯正学の位置づけ、および矯正治療の目的と意義を理解する。	成長発育と不正咬合の発現の概要を述べる。	Ⅲ-11	認知（想起）	教科書1章・2章	1.0
					不正咬合による障害を列挙する。	Ⅲ-11	認知（想起）		
					矯正治療手段の概要を述べる。	Ⅳ-9	認知（想起）		
					予防矯正・抑制矯正・本格矯正を説明する。	Ⅳ-9	認知（想起）		
2	9/8	玉置	ユニット2 成長と発育Ⅰ・概論	成長発育の概念と評価方法を理解する。	成長発育の定義を述べる。	Ⅲ-3	認知（想起）	教科書3章—Ⅰ	1.0
					成長発育パターンを説明する。	Ⅲ-3	認知（想起）		
					成長発育段階の評価方法を説明する。	Ⅲ-3	認知（想起）		
3	9/15	玉置	ユニット3 成長と発育Ⅱ・骨の成長発育	頭蓋・顎顔面骨格の成長発育を理解する。	骨形成様式を述べる。	Ⅲ-7	認知（想起）	教科書3章—Ⅱ	1.0
					脳頭蓋の成長発育機構を説明する。	Ⅲ-7	認知（想起）		
					顔面頭蓋の成長発育機構を説明する。	Ⅲ-7	認知（解釈）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
4	10/13	玉置	ユニット4 成長と発育 Ⅲ・口腔機能の発達	口腔機能の発達過程を理解する。	乳児型嚥下と成熟型嚥下を比較する。	Ⅲ-7	認知（解釈）	教科書3章—Ⅳ	1.0
					咀嚼・発音機能の発達を説明する。	Ⅲ-7	認知（想起）		
			ユニット5 成長と発育 Ⅳ・特論	顎顔面の成長発育に関する基本的理論を理解する。	顎顔面成長におけるV理論を説明する。	Ⅲ-7	認知（想起）		
					ファンクショナルマトリックスを説明する。	Ⅲ-7	認知（想起）		
5	10/13	阿部	ユニット6 正常咬合	正常咬合の概念および成立の条件を理解する。	正常咬合の特徴を述べる。	Ⅲ-11	認知（想起）	教科書4章—Ⅱ	1.0
					正常咬合の種類と定義を述べる。	Ⅲ-11	認知（想起）		
					正常咬合の成立・保持条件を説明する。	Ⅲ-11	認知（解釈）		
6	10/20	高田	ユニット7 不正咬合Ⅰ・不正咬合の種類	不正咬合の概念と特徴を理解する。	個々の歯の位置異常を列挙する。	Ⅲ-11	認知（想起）	教科書4章—Ⅲ—2 教科書4章—Ⅲ—3	1.0
					数歯にわたる位置異常を列挙する。	Ⅲ-11	認知（想起）		
					歯列弓形態の異常を列挙する。	Ⅲ-11	認知（想起）		
					上下歯列弓関係の異常を列挙する。	Ⅲ-11	認知（想起）		
			ユニット8 不正咬合Ⅱ・不正咬合の分類	不正咬合の分類法の種類と定義を理解する。	Angleの分類を説明する。	Ⅲ-11	認知（解釈）		
					高橋の分類を説明する。	Ⅲ-11	認知（想起）		
7	10/27	玉置	ユニット9 不正咬合Ⅲ・不正咬合の原因1	先天的原因による不正咬合の発現を理解する。	先天的・全身的原因による不正咬合の発現を説明する。	Ⅲ-18	認知（想起）	教科書5章—Ⅰ・Ⅱ	1.0
					顎顔面領域に関連した先天異常と歯列・咬合の特徴を述べる。	Ⅲ-18	認知（想起）		
					先天的・局所的原因による不正咬合の発現を説明する。	Ⅲ-11	認知（想起）		
8	11/10	玉置	ユニット10 不正咬合Ⅳ・不正咬合の原因2	後天的原因による不正咬合の発現を理解する。	後天的・全身的原因による不正咬合の発現を説明する。	Ⅲ-18	認知（想起）	教科書5章—Ⅲ	1.0
					後天的・局所的原因による不正咬合の発現を説明する。	Ⅲ-11	認知（解釈）		
9	11/17	玉置	ユニット11 診断学概論	矯正診断の概念と診断過程を理解する。	診査・検査から診断にいたる流れを説明する。	Ⅳ-9	認知（想起）	教科書9章—Ⅰ	1.0
					一般的・全身的・局所的診査を説明する。	Ⅳ-9	認知（想起）		
					口腔模型を用いた検査方法を述べる。	Ⅳ-9	認知（想起）		
					各種X線写真を用いた検査方法を述べる。	Ⅳ-9	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
10	11/24	玉置	ユニット12 症例分析	不正咬合の形態的分析と機能的分析を理解する。	模型計測・歯冠幅径の予測方法を説明する。	IV-9	認知（想起）	教科書9章—I・II	1.0
					セファロ分析の概要を説明する。	IV-9	認知（解釈）		
					機能的異常の検査と分析方法を説明する。	IV-9	認知（想起）		
11	12/1	阿部	ユニット13 矯正力と固定	矯正力の性質と固定の概念を理解する。	矯正力の種類と作用様式を説明する。	IV-9	認知（想起）	教科書13章・14章	1.0
					歯の移動様式を列挙する。	IV-9	認知（想起）		
					固定の意義を述べる。	IV-9	認知（想起）		
					固定を性質・抵抗源の部位・強さにより分類する。	IV-9	認知（想起）		
12	12/8	阿部	ユニット14 矯正材料と器具	矯正治療に用いる器材の種類と用途を理解する。	矯正治療に用いる器具の名称と用途を述べる。	III-21	認知（想起）	教科書15章—I・II、付録—I・II	1.0
					矯正歯科材料の種類と用途を述べる。	III-21	認知（想起）		
					矯正歯科材料の物理的性質と所要条件を説明する。	III-21	認知（想起）		
13	12/11	高田	ユニット15 矯正力による生体反応1	矯正力によって生じる生体反応を理解する。	矯正力によって圧迫側歯周組織に生じる組織学的変化を説明する。	III-1	認知（解釈）	教科書7章—I・II	1.0
					矯正力によって牽引側歯周組織に生じる組織学的変化を説明する。	III-1	認知（解釈）		
14	12/15	阿部	ユニット16 矯正力による生体反応2	効率的で安全な歯の移動を行う矯正力を理解する。	最適な矯正力の考え方を説明する。	IV-9	認知（解釈）	教科書7章—III・IV・V	1.0
					過大な矯正力による障害を説明する。	IV-9	認知（解釈）		
					差動矯正力を説明する。	IV-9	認知（解釈）		
15	12/18	玉置	ユニット17 成長発育および咬合のまとめ	これまでに学習した成長と発育、正常咬合および不正咬合に関する知識を整理して理解する。	成長と発育、正常咬合および不正咬合に関する重要事項を説明する。	III-11	認知（解釈）	配布資料	1.0

介護実習 【実習】

科目番号 OD031209

後期：15コマ

評価責任者：内藤 徹（高齢者歯科）

梅崎陽二郎、山口真広（高齢者歯科学）、
井林雪郎（特定医療法人社団三光会 誠愛リハビリテーション病院）、二ノ坂保喜（にのさかクリニック）、稲光哲明（及川病院 緩和ケア科・心療内科）、
齋田直樹、秋竹 純、末松美保子（福岡医療短期大学保健福祉学科）
担当教員：堀部晴美、石井綾子、南レイラ（福岡医療短期大学歯科衛生学科）
中島與志行（介護老人保健施設「サンシャインシティ」）
山川公明（介護老人福祉施設「サンシャインプラザ」）
濱崎義孝（介護老人福祉施設「サンシャインセンター」）

（一般目標）

口腔医学の基本となる全人的歯科医療の実践に役立てるため、また超高齢化社会における高齢者医療と要介護高齢者の福祉のシームレスな状態に対応できるような歯科医師養成に資するために、介護施設で要介護者と1日をともに過ごし、食事介助・口腔ケアなどの基本的な介護技法の修練と、要介護高齢者とのコミュニケーションを通して、医療人に必要とされる基本的態度と倫理観を身につけるとともに要介護者へのチーム介護を知る。

（教育方法）

身体介護と高齢者コミュニケーションについての基本的な技術を身につけるための実習を行う。その後、グループにわかれ、介護老人保健施設「サンシャインシティ」、介護老人福祉施設「サンシャインプラザ」、「サンシャインセンター」のいずれかの施設において、高齢者介護一般、食事介助および口腔ケアを体験する。さらに、施設における介護の体験を咀嚼し、高齢社会における医療と福祉の現状への理解を深めるための講義を行う。

（フィールドワーク）（実習・演習）

（学習方法）

実習要領に添付する資料に基づく介護に関する基本的な要項の予習。高齢者介護施設での食事介助、口腔ケア、コミュニケーションなどの介護体験とそれをもとにした高齢者介護、高齢者医療、高齢社会などに関する討議を行う。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評 価）

実習時の行動観察記録（50%）、提出物・レポート（50%）。
実習終了後に、行動観察記録およびレポートへのコメントを配布。

（教 科 書）

指定せず

（参 考 書）

内藤徹、秋竹純、牧野路子、水谷慎介：高齢者の歯科診療ははじめの一步介護介助の基本スキル、医歯薬出版、東京、2017
（介護に必要なスキルがコンパクトにまとめられている。とくに歯科診療への応用ができる手技についての解説が詳しい。）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/25	内藤	ユニット1 介護演習オリエンテーション	高齢社会における医療と福祉の位置づけや要介護高齢者の居住施設の概要について理解する。	要介護高齢者の保健・医療・福祉の概要を説明できる。	I-4	情意（模擬対人対応）	実習書（事前に配布）の該当部分を確認	1.0
2	9/25	齋田、秋竹、末松	ユニット2 介護基本技術演習	介護に必要な高齢者とのコミュニケーション、基本的な身体介助技術、介護に関わる職種、食事介助、口腔ケアを理解する。	高齢者とのコミュニケーションを説明できる。	V-4	認知（想起）	実習書（事前に配布）の該当部分を確認	1.0
					車椅子の操作を行うことができる。	Ⅲ-13	精神運動（支援部分）		
					介護に関わる職種を列挙できる。	Ⅱ-3	情意（模擬対人対応）		
3	9/25	齋田、秋竹、末松	ユニット2 介護基本技術演習	介護に必要な高齢者とのコミュニケーション、基本的な身体介助技術、介護に関わる職種、食事介助、口腔ケアを理解する。	食事介助の手順を説明できる。	Ⅳ-17	情意（模擬対人対応）	実習書（事前に配布）の該当部分を確認	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
4	9/25	堀部、石井、南	ユニット2 介護基本技術演習	介護に必要な高齢者とのコミュニケーション、基本的な身体介助技術、介護に関わる職種、食事介助、口腔ケアを理解する。	口腔ケアの手順を説明できる。	Ⅲ-13	情意（模擬対人対応）	実習書（事前に配布）の該当部分を確認	1.0
5 6 7 8 9 10	9/28	内藤、梅崎、山口	ユニット3 介護実習	高齢者とのコミュニケーション、身体介護、食事介助、口腔ケアを体験する。	高齢者とコミュニケーションを図ることができる。	Ⅱ-3	精神運動（自律全体）	実習書（事前に配布）の該当部分を確認	5-10] 1.0
	9/29				基本的な身体介助を実施できる。	Ⅲ-13	精神運動（自律全体）		
	10/1				要介護高齢者に対して口腔ケアを実施できる。	Ⅰ-4	情意（模擬対人対応）		
	10/2								
11	10/5	内藤	ユニット4 医療と福祉のシームレスな連携	地域包括ケアや在宅医療、終末期の医療について理解し、要介護高齢者のサポートのための医療と福祉の連携について考察する。	ライフステージに応じた医療の在り方を説明できる。	Ⅳ-17	認知（解釈）	実習書（事前に配布）の該当部分を確認	1.0
12	10/5	二ノ坂	ユニット4 医療と福祉のシームレスな連携	地域包括ケアや在宅医療、終末期の医療について理解し、要介護高齢者のサポートのための医療と福祉の連携について考察する。	在宅医療の概要を説明できる。	Ⅲ-13	情意（模擬対人対応）	実習書（事前に配布）の該当部分を確認	1.0
13	10/9	井林	ユニット4 医療と福祉のシームレスな連携	地域包括ケアや在宅医療、終末期の医療について理解し、要介護高齢者のサポートのための医療と福祉の連携について考察する。	急性期、回復期医療の違いを説明できる。	Ⅳ-17	情意（模擬対人対応）	実習書（事前に配布）の該当部分を確認	1.0
14	10/9	稲光	ユニット4 医療と福祉のシームレスな連携	地域包括ケアや在宅医療、終末期の医療について理解し、要介護高齢者のサポートのための医療と福祉の連携について考察する。	終末期の医療と緩和ケアについて説明できる。	Ⅲ-13	認知（解釈）	実習書（事前に配布）の該当部分を確認	1.0
15	10/9	内藤	ユニット4 医療と福祉のシームレスな連携	地域包括ケアや在宅医療、終末期の医療について理解し、要介護高齢者のサポートのための医療と福祉の連携について考察する。	終末期の医療の概念を説明できる。	Ⅳ-17	情意（模擬対人対応）	実習書（事前に配布）の該当部分を確認	1.0

内科学Ⅱ 【講義】

科目番号 OD031314

後期：15コマ

評価責任者：大星博明

担当教員：大星博明、徳本正憲、梶木晶子

（一般目標）

口腔は体の中の重要な臓器であり、口腔の障害が全身の疾患を引き起こし、同時に全身疾患が口腔に病変を引き起こす。また、超高齢化社会においては、全歯科領域においても全身疾患を有する患者を診療する機会が増加している。そこで、医口腔医学概論および内科学Ⅰで学んだことを基礎として、口腔医学を学習し実践する上で必要となる臨床医学をさらに主要臓器別に学習する。すなわち、生体活動の基本である体液循環・呼吸を担う循環器・呼吸器・腎臓の病態生理と代表的な疾患の臨床を学び、口腔医学における全体的な視点の重要性を理解する。

（教育方法）

教科書・プリントによる講義
マルチメディアによる説明

（学習方法）

授業前に下記教科書や参考書の該当箇所を読み、授業後は教科書や参考書と共に授業時に配布された資料・プリント等を参照して学習する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：16.0時間】

（評価）

中間試験（30％）、定期試験（70％）
小テストを行い、次の授業で解答状況にあわせて解説を行う。
各試験の後にも質問を受け付ける。

（教科書）

井村裕夫 編集、『わかりやすい内科学 第4版』、文光堂、2014

（参考書）

矢崎義雄 総編集、『内科学』第11版、朝倉書店、2017
（内科学の代表的なテキスト）
西田 次郎 他編、『歯科のための内科学』第4版、南江堂、2018
（歯科のための内科学の教科書）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/1	大星	ユニット4 呼吸器の構造・機能と代表的呼吸器疾患	呼吸器の構造と機能に関する知識を身につけ、代表的な呼吸器疾患を理解する。	呼吸器（気道・肺・縦隔）系の基本的な構造と呼吸生理を説明する。	Ⅲ-17	認知（問題解決）	教科書の第1章呼吸器疾患 3-6 頁、9 0 9-9 2 3 頁	1.0
					呼吸器症状を分類して、具体的に述べる。	Ⅲ-17	認知（問題解決）		
					主な呼吸器疾患の検査異常所見を理解し、説明する。	Ⅲ-17	認知（問題解決）		
2	9/8	大星	ユニット4 呼吸器の構造・機能と代表的呼吸器疾患	呼吸器の構造と機能に関する知識を身につけ、代表的な呼吸器疾患を理解する。	ウイルス感染症、細菌感染症の病因と治療法を述べる。	Ⅲ-17	認知（解釈）	教科書の第1章呼吸器疾患 7-1 4 頁、9 0 9-9 2 3 頁	1.0
					慢性閉塞性肺疾患の診断と治療を述べ、喫煙との関係を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
3	9/15	大星	ユニット4 呼吸器の構造・機能と代表的呼吸器疾患	呼吸器の構造と機能に関する知識を身につけ、代表的な呼吸器疾患を理解する。	代表的なアレルギー性疾患の病因と臨床症状を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）	教科書の第2章呼吸器疾患 1 4-2 0 頁、2 9-6 3 頁	1.0
					間質性肺疾患の病態と特徴を述べる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					塵肺と職業性肺疾患の原因と診断について述べる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					肺結核の病態と診断について述べる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
4	10/6	大星	ユニット4 呼吸器の構造・機能と代表的呼吸器疾患	呼吸器の構造と機能に関する知識を身につけ、代表的な呼吸器疾患を理解する。	肺癌の病因・疫学・生物学的特徴を述べる。	Ⅲ-17	認知（解釈）	教科書の第2章呼吸器疾患 63-81頁、85-89頁	1.0
					胸膜の構造・生理を理解し、気胸・胸膜系の症状を述べる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					縦隔について述べ、縦隔腫瘍を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					嚥下性肺炎の成因を説明できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					嚥下性肺炎の治療を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
5	10/13	大星	ユニット4 呼吸器の構造・機能と代表的呼吸器疾患					中間試験	1.0
6	10/20	檜木	ユニット1 循環器疾患診療の基礎と心機能不全	循環器疾患の診療の基礎と診断法を知り、循環生理の異常である心不全の診断と治療を理解する。	循環器疾患の病歴聴取と診察法を説明できる。	Ⅲ-17	認知（問題解決）	教科書の第2章循環器疾患 97-99頁、921-922頁	
					循環器に関する主要な症候を列挙できる。	Ⅲ-17	認知（問題解決）		
					循環器疾患の代表的な検査法を説明できる。	Ⅲ-17	認知（問題解決）		
7	10/27	檜木	ユニット1 循環器疾患診療の基礎と心機能不全	循環器疾患の診療の基礎と診断法を知り、循環生理の異常である心不全の診断と治療を理解する。	心機能の病態生理と評価法を列挙できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）	教科書の第2章循環器疾患 100-106頁	1.0
					急性心不全の診断と治療を説明できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					慢性心不全の診断と治療を説明できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
8	11/10	檜木	ユニット2 心筋虚血と不整脈	虚血性心疾患と不整脈疾患の診断と治療を理解する。	動脈硬化の発症機序を説明できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）	教科書の第2章循環器疾患 133-155頁	1.0
					心筋虚血の病態生理に基づき、狭心症の症候を説明できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					急性心筋梗塞の診断と治療を説明できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
9	11/17	檜木	ユニット2 心筋虚血と不整脈	虚血性心疾患と不整脈疾患の診断と治療を理解する。	不整脈の検査法を列挙できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）	教科書の第2章循環器疾患 177-191頁	1.0
					頻脈性不整脈疾患を分類できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					徐脈性不整脈疾患を分類できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
10	11/24	檜木	ユニット3 代表的循環器疾患	代表的循環器疾患のスペクトラムと臨床像を知り、脈管疾患の臨床を理解する。	先天性心疾患と弁膜症を説明できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）	教科書の第2章循環器疾患 106-132、155-176頁	1.0
					心筋症と心筋炎の臨床を説明できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					心内膜炎と心外膜炎を説明できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
11	12/1	徳本	ユニット5 腎疾患の診断と電解質異常	腎臓の形態と機能を知り、腎疾患の診断手順と電解質異常を理解する。	腎臓の構造と機能を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）	教科書の第10章腎・尿路疾患791-807頁	3.0
					腎臓疾患の臨床検査を列挙し、説明する。	Ⅲ-17	認知（問題解決）		
					腎疾患の症候を列挙する。	Ⅲ-17	認知（問題解決）		
					腎疾患のスペクトラムを述べる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
12	12/8	橋本	ユニット3 代表的循環器疾患	代表的循環器疾患のスペクトラムと臨床像を知り、脈管疾患の臨床を理解する。	大動脈疾患の診断を説明できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）	教科書の第2章循環器疾患206-239頁	1.0
					高血圧症の診断基準と合併症を列挙する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					高血圧症の治療を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
13	12/11	徳本	ユニット5 腎疾患の診断と電解質異常	腎臓の形態と機能を知り、腎疾患の診断手順と電解質異常を理解する。	体液調節の機序を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）	教科書の第10章腎・尿路疾患862-885頁	1.0
					ナトリウム、カリウムの電解質異常の診断と治療を述べる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					酸塩基平衡異常を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
14	12/11	徳本	ユニット6 代表的腎疾患	代表的な腎疾患と腎不全の診断と治療を理解する。	糸球体疾患、ネフローゼ症候群の病態と診断・治療を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）	教科書の第10章腎・尿路疾患827-853頁、892-899頁	1.0
					糖尿病性腎症の診断と治療を述べる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					腎尿路系の結石症、感染症、腫瘍の臨床を述べる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
15	12/15	徳本	ユニット6 代表的腎疾患	代表的な腎疾患と腎不全の診断と治療を理解する。	慢性腎疾患の診断基準を述べる。	Ⅲ-17	認知（解釈）	教科書の第10章腎・尿路疾患808-827頁、853-862頁、885-891頁	1.0
					急性腎不全の診断と治療を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					慢性腎不全の診断と治療を説明する。	Ⅲ-17	認知（解釈）		

隣接医学Ⅱ（整形）【講義】

科目番号 0D031312B

後期：5コマ

評価責任者：井上敏生

井上敏生

担当教員：加島伸浩

永野智子

（一般目標）

1. 運動器の解剖と正常な機能を修得する。
2. リハビリテーションの意義、目的、方法について理解する。
3. 骨組織の解剖、発生、成長、老化、代謝について基本的知識を修得する。
4. 主要な運動器外傷の病態、原因、症候、診断・鑑別診断と治療を知る。
5. 主要な運動器疾患の病態、原因、症候、診断・鑑別診断と治療を知る。

（教育方法）

講義

1. 基礎的な事柄を解りやすく説明する。
2. 代表的疾患について、原因、病態、治療を解説する。
3. 暗記型でなく、考え方を重視した講義を行う。
4. 理解度を確かめるため、学生からの質問を積極的に受け入れる。

視聴覚教育

1. パワーポイントを使った代表的疾患の説明（適宜講義の中に組み込まれる）。

（学習方法）

予習方法：筋骨格系（運動器）の解剖・生理（1年時、2年時の学習内容）について復習しておく。

復習方法：配付資料で重点項目を理解する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 3.0 時間】

（評 価）

1. 客観試験
約30-60題の正誤式試験（100%）
2. レポート
客観試験で学力が劣る学習を行う。
3. 最終評価の方法
客観試験を中心に評価する。
4. 学生へのフィードバックの時期と方法
定期試験時に問題を持ち帰らせ、自己学習を促す。

（教 科 書）

なし

（参 考 書）

中村孝利、松野丈夫監修『標準整形外科学 第13版』医学書院

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/3	井上	ユニット1 運動器の解剖と正常な機能	運動器の解剖と正常な機能について基礎的知識を理解する	運動器の解剖と正常な機能を具体的に述べる	Ⅲ-2	認知（想起）	筋骨格系（運動器）の解剖・生理（1年時、2年時履修）の知識整理	0.6
2	9/10	永野	ユニット2 リハビリテーション	リハビリテーションの意義、目的、方法について理解する	リハビリテーションの意義、目的、方々について説明できる	Ⅲ-5	認知（想起）	筋骨格系（運動器）の解剖・生理（1年時、2年時履修）の知識整理	0.6
3	9/17	井上	ユニット3 骨組織の解剖、発生、成長、老化、代謝	骨組織の解剖、発生、成長、老化、代謝について基本的知識を修得する	骨組織の解剖、発生、成長、老化、代謝について具体的に説明する	Ⅲ-3	認知（想起）	筋骨格系（運動器）の解剖・生理（1年時、2年時履修）の知識整理	0.6
4	9/24	加島	ユニット4 主要な運動器外傷	主要な運動器の外傷の病態、原因、症候、診断・鑑別診断と治療を知る	主要な運動器外傷の診断・治療を具体的に述べる	Ⅲ-5	認知（想起）	筋骨格系（運動器）の解剖・生理（1年時、2年時履修）の知識整理	0.6
5	10/8	井上	ユニット5 主要な運動器疾患	主要な運動器疾患の病態、原因、症候、診断・鑑別診断と治療を知る	主要な運動器疾患の病態、原因、症候、診断・鑑別診断を列記する	Ⅲ-17	認知（想起）	筋骨格系（運動器）の解剖・生理（1年時、2年時履修）の知識整理	0.6

隣接医学Ⅱ（泌尿器）【講義】

科目番号 0D031312D

後期：2コマ

評価責任者：学生部長、学生部次長

担当教員：高橋 康一

（一般目標）

歯科領域における診察、治療を行う場合、全身疾患に対し注意を払わなければ重篤な合併症をきたすことを知る。全身循環動態の一旦を担う泌尿生殖器系臓器に生じる疾患の基礎的知識は、歯科治療を全身治療の一環として捉えた場合、必須のものとなることを理解する。排尿を障害する尿路閉塞性疾患の病態の理解、および致死状況にも至る可能性のある、尿路性器疾患の概念修得を目標とする。

（教育方法）

教科書・スライド・プリントによる講義

（学習方法）

概説であり、詳細は各自が成書を熟読すること 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 2.0 時間】

（評価）

記述試験（100%）評価判定後、評価結果を呈示する。

（教科書）

なし

（参考書）

内藤誠二編 新泌尿器科学 改訂4版 南山堂

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	10/8	高橋	尿路閉塞性疾患の概説 尿路結石症、神経因性膀胱、前立腺肥大症、腎不全など	上部尿路閉塞の代表的疾患として尿路結石症、下部尿路閉塞疾患として、神経因性膀胱や前立腺肥大症、これらの進行による腎後性腎不全を説明できる。	尿路閉塞を生じたときの病理を述べる。	Ⅲ-5	認知（想起）	参考書P165～P173、225～243、201～205	1.0
					尿路結石症の症状、診断、治療を説明できる。	Ⅲ-17	認知（想起）		
					前立腺肥大症の症状、診断、治療を説明できる。	Ⅲ-17	認知（想起）		
					神経因性膀胱の症状、診断、治療を説明できる。	Ⅲ-17	認知（想起）		
2	10/22	高橋	尿路性器感染症	腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、前立腺炎、精巣上体炎の定義、診断、治療を説明でき、そのなかで重症尿路性器感染症を提示する。	それぞれの感染症の診断を適確に行える。	Ⅲ-4	認知（想起）	参考書P143～P163、P343～P361、P245～P257	1.0
					抗菌薬（内科的）治療の限界と外科的治療の有用性を理解する。	Ⅲ-5	認知（想起）		
			泌尿器科的緊急症、外傷	外科的治療を要する泌尿器科的緊急症を知り、その対処法を理解する。	緊急的処置を要する泌尿器科疾患を列挙する。	Ⅲ-19	認知（想起）		
					上記の治療法を知り、適確な対処法を判断する。	Ⅲ-19	認知（想起）		

隣接医学Ⅱ（耳鼻科）【講義】

科目番号 0D031312C

後期：5コマ
評価責任者：山野貴史
山野貴史
担当教員：浅田弥子
西隆四郎

（一般目標）

耳鼻咽喉科領域は解剖学的にも生理学的にも歯科領域ときわめて深い関連性を持っている。したがって、歯科医学を学ぶためには、隣接する耳鼻咽喉科領域を十分に理解することが不可欠ある。

聴器、平衡器、鼻副鼻腔、咽頭喉頭の構造と機能を理解し、病理生理を把握する。各疾患の病因、診断、治療に関する知識を獲得する。

（教育方法）

プリント・スライドなどによる講義

（学習方法）

参考書・プリントによる予習復習 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 3.0 時間】

（評価）

定期試験、小テスト等の解説を授業の中で行う。

（教科書）

なし

（参考書）

エッセンシャル耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 柳原尚明編著 医歯薬出版
NEW耳鼻咽喉科・頭頸部外科 喜多村 健、森山 寛 編 南江堂

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	10/15	山野貴史	耳	聴覚の機能と構造を理解する。	耳疾患の症候、検査治療を説明できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）	プリント・参考書の該当箇所	1.0
2	10/22	浅田弥子	鼻・副鼻腔	鼻副鼻腔疾患の症候、検査治療を理解する。	副鼻腔の解剖と炎症、アレルギー疾患について説明できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）	プリント・参考書の該当箇所	1.0
3	10/29	西隆四郎	口腔・咽頭	口腔咽頭の構造と疾患を理解する。	口腔咽頭の疾患について、歯科との関連を説明できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）	プリント・参考書の該当箇所	1.0
4	11/5	山野貴史	喉頭	喉頭の構造と機能について理解する。	喉頭疾患について急性期の対応を含めた診断治療について説明できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）	プリント・参考書の該当箇所	1.0
5	11/12	山野貴史	頭頸部	頸部、気管、食道の構造を理解する。	耳下腺、顎下腺疾患や悪性腫瘍について説明できる。	Ⅲ-17	認知（解釈）	プリント・参考書の該当箇所	1.0

隣接医学Ⅱ（眼科）【講義】

科目番号 0D031312A

後期：5コマ

評価責任者：川野庸一

担当教員：川野庸一

（一般目標）

臨床医として必要な眼科学の基礎的知識の習得を目的とする。眼科学各論においては各疾患の病態の理解を通じて、局所の病変と全身疾患との関連を考える能力をつける。

（教育方法）

講義（プリント、スライド）による。

（学習方法）

授業前に下記教科書の該当部分を予習すること。

授業後に配布したシラバスの内容を復習する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 5.0 時間】

（評価）

論述試験、もしくは多枝選択試験による。

フィードバックとして試験後に模範解答、解説を配布し、学生の自己採点を通して重要な知識の再確認を行わせる。

（教科書）

松橋正和 編 「よくわかる病態生理 13 眼疾患」 日本醫事新報社 2009

目の解剖、生理、疾患のポイントが、わかりやすいイラストで簡潔に解説されている。

（参考書）

丸尾敏夫 他 編集「眼科学」文光堂 2002

大野重昭 他 編集「標準眼科学」医学書院 2007

歯科医にとって必要で十分な記載がある。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	11/6	川野庸一	ユニット1 眼の解剖と生理	1) 眼球、眼付属器の解剖と機能を理解する。	視球の構造と役割を説明することができる。	Ⅲ-2	認知（想起）	「よくわかる病態生理 13 眼疾患」の該当箇所	1.0
			ユニット2 眼の神経支配とその異常	2) 眼周囲組織の神経支配とその異常について理解する。	眼周囲組織の神経支配とその異常について説明できる。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
2	11/13	川野庸一	ユニット3 結膜疾患	1) 結膜炎（感染性、アレルギー性）の病像、治療について理解する。	結膜炎（感染性、アレルギー性）の病像、治療について説明できる。	Ⅲ-4	認知（想起）	「よくわかる病態生理 13 眼疾患」の該当箇所	1.0
			ユニット4 角膜疾患	2) 代表的角膜疾患の病態について理解する。	代表的角膜疾患の病態について説明ができる。	Ⅲ-17	認知（想起）		
3	11/20	川野庸一	ユニット5 白内障	1) 白内障・緑内障の病態を理解する。	白内障・緑内障の病態を説明できる。	Ⅲ-17	認知（想起）	「よくわかる病態生理 13 眼疾患」の該当箇所	1.0
			ユニット6 緑内障	2) 糖尿病網膜症の病態を理解する。	糖尿病網膜症の病態を説明できる。	Ⅲ-17	認知（想起）		
			ユニット7 眼底疾患	3) 代表的な眼底疾患について理解する。	代表的な眼底疾患について説明できる。	Ⅲ-17	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
4	11/27	川野庸一	ユニット8 ぶどう膜炎	1) ぶどう膜炎の病態について理解する。	ベーチェット病、サルコイドーシスの病態と治療について説明することができる。	Ⅲ-5	認知（問題解決）	「よくわかる病態生理 13 眼疾患」の該当箇所	1.0
			ユニット9 重症筋無力症	2) 重症筋無力症の病態について理解する。	重症筋無力症の病態について説明することができる。	Ⅲ-17	認知（想起）		
			ユニット10 IgG4関連疾患	3) IgG4関連疾患について理解する。	IgG4関連疾患の病態について説明することができる。	Ⅲ-17	認知（解釈）		
5	12/4	川野庸一	ユニット11 ドライアイ	1) ドライアイの病態と治療について理解する。	ドライアイの病態と治療について説明できる。	Ⅲ-5	認知（想起）	「よくわかる病態生理 13 眼疾患」の該当箇所	1.0
			ユニット12 シェーグレン症候群	2) シェーグレン症候群の病態と治療について理解する。	シェーグレン症候群の病態と治療について説明できる。	Ⅲ-5	認知（問題解決）		
			ユニット13 Stevens-Johnson症候群	3) Stevens-Johnson症候群の病態について理解する。	Stevens-Johnson症候群の病態について説明できる。	Ⅲ-5	認知（想起）		

臨床栄養学 【講義】

科目番号 OD031310

後期：15コマ

評価責任者：内藤 徹

担当教員：馬場篤子、内藤 徹、大星博明、池田哲夫、中園栄里（福岡医療短期大学）

（一般目標）

健康を維持する上で必要な栄養素の代謝や機能を理解し、ライフステージにおける食生活と栄養の関わりを把握するとともに、病気と栄養との関連性や栄養管理などを修得する。さらに国民栄養の現状と問題点を知り、健康の維持、増進をはかる方法を理解する。

（教育方法）

講義と示説

（学習方法）

各ユニットの授業項目に該当する教科書や参考書の関連箇所および予習の項目について予習、復習する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 22.5 時間】

（評価）

定期試験（客観試験、記述試験の両方のスタイルを含む）（100%）
試験終了後に、随時学生からの質問に回答する。

（教科書）

指定しない。プリントを配布する。

（参考書）

五明紀春他 編集 スタンダード人間栄養学「基礎栄養学」、「応用栄養学」朝倉書店、2010
（基礎と応用の2編よりなっており、図や表が多く、分かりやすく解説されている）
・貴邑富久子、根来英雄 共著「シンプル生理学」（改訂第5版）、南江堂、2005
（生体の基本的な機能とそのメカニズムを理解する上で有用である）
・佐藤雅志、鈴木俊夫 著、「在宅老年者の歯科治療入門」、医歯薬出版、1991
（概論は簡潔に記載しており、実例により実践的な内容で理解しやすい。別講義にて教科書指定）
・Poul Holm-Pedersen・Harald Løe 著、渡邊 誠 監修、「高齢者歯科学」、末永書店、2000
（栄養とケアを組み合わせで記載、バランスがとれている）
・日本老年医学会 編、「老年医学 系統講義テキスト」西村書店、2013
（老年医学の全般について詳細な記述。栄養、診察、老年疾患、在宅医療まで幅広くカバー）
・渡邊 昌 著、「食事でがんは防げる」、光文社、2004
（がん発生とがん予防に関わる食生活が読みやすく解説されている）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/4	中園	栄養素と代謝および機能（栄養素の摂取、吸収および代謝）	栄養素の摂取、吸収および代謝について理解する	栄養素を分類し、各々の吸収機序について述べる。 糖質、脂質、タンパク質の代謝について説明する 基礎代謝に影響する因子を挙げ、代謝への影響を説明する	Ⅲ-1 Ⅲ-1 Ⅲ-1	認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈）	スタンダード人間栄養学「基礎栄養学」1) 栄養の吸収、代謝に関する部分 2) 基礎代謝に関する部分	1.5
2	9/7	中園	栄養素と代謝および機能（栄養素の機能）	栄養素の機能について理解する。	三大栄養素、ビタミン、無機質の機能を述べる 栄養素の欠乏によって生じる生体機能への影響を述べる	Ⅲ-1 Ⅲ-5	認知（解釈） 認知（解釈）	スタンダード人間栄養学「基礎栄養学」1) 栄養の機能に関する部分 2) 栄養素の欠乏に関する部分	1.5
3	9/14	馬場	小児の栄養と食行動	小児期に必要な栄養と心身の発育を理解し、更に乳幼児期における食行動について考察する。	小児栄養の特徴、栄養所要量を説明する 新生児期・乳児期の栄養管理（母乳栄養、人工栄養）、離乳、乳児の栄養を説明する 幼児期・学童期の栄養を説明する	Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3	認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈）	スタンダード人間栄養学「応用栄養学」人の栄養必要量、人の成長・発達、授乳期～学童期の栄養の項 p 2～20 p 51～82	1.5

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
4	10/5	馬場	小児の栄養と食行動	小児期に必要な栄養と心身の発育を理解し、更に乳幼児期における食行動について考察する。	乳幼児期における摂食・嚥下機能の発達について述べる	Ⅲ-3	認知（解釈）	スタンダード人間栄養学「応用栄養学」人の栄養必要量、人の成長・発達、授乳期～学童期の栄養の項 p 2～20 p 51～82	1.5
					哺乳に関する原始反射を列挙する	Ⅲ-3	認知（解釈）		
					咬合の発育と咀嚼について説明する	Ⅲ-3	認知（解釈）		
5	10/19	池田	栄養と外科的疾患	癌と食品の関わりを理解し、癌患者・外科患者における栄養管理・食生活を考察する	がん発生に関わる食品を列挙する	Ⅲ-5	認知（解釈）	参考書「食事でがんは防げる」の第四章「臨床医学概論（2年後期）」の「外科と栄養」	1.5
					がん予防のための食生活を具体的に説明する	Ⅲ-5	認知（解釈）		
					食生活におけるがん予防を生活習慣病予防と関係づける	Ⅲ-5	認知（解釈）		
6	10/23	池田	栄養と外科的疾患	癌と食品の関わりを理解し、癌患者・外科患者における栄養管理・食生活を考察する	経腸栄養の適応と方法について述べる	Ⅳ-4	認知（解釈）	参考書「食事でがんは防げる」の第四章「臨床医学概論（2年後期）」の「外科と栄養」	1.0
					経静脈栄養の適応と方法について述べる	Ⅳ-4	認知（解釈）		
					症例に応じて適切な栄養法を選択する	Ⅳ-4	認知（解釈）		
7	10/26	内藤	ライフステージと栄養	思春期、成人期に必要なとされる栄養や栄養障害の特徴を理解し考察する。	思春期の栄養の特徴を述べる	Ⅲ-3	認知（解釈）	スタンダード人間栄養学「応用栄養学」 p 83～106「コメディカル病理学」第2版 P. 2, 6-7, 24-25, 43-44, 65-66	1.5
					思春期の栄養障害の原因を列挙する	Ⅲ-5	認知（解釈）		
					思春期の貧血、肥満と高血圧、やせおよび神経性摂食障害の特徴を説明する	Ⅲ-5	認知（解釈）		
					過剰栄養や低栄養と高脂血症や動脈硬化症などの生活習慣病の発症との関連を説明する	Ⅳ-4	認知（解釈）		
8	11/6	内藤	高齢者の栄養	高齢期の食の重要性や栄養障害の特徴、高齢者の栄養評価の方法を理解する。	高齢期の食の重要性を説明する	Ⅲ-13	認知（解釈）	「老年医学 系統講義テキスト」p87-126	1.5
					サルコペニアを説明する	Ⅲ-5	認知（解釈）		
					老年症候群における栄養の関わりを説明する	Ⅲ-5	認知（解釈）		
					高齢者の栄養評価の方法を列挙できる	Ⅳ-3	認知（解釈）		
9	11/13	中園	食事と栄養指導（日本人の食事摂取基準の成り立ち）	日本人の食事摂取基準の成り立ちを理解する	食事摂取基準策定の目的を説明する	Ⅳ-1	認知（解釈）	厚生労働省HP：「日本人の食事摂取基準」（2020年版）を参照	1.5
					食事摂取基準に設定されている指標を示す	Ⅳ-3	認知（解釈）		
					栄養指導の場面で、食事摂取基準をどのように活用するかを述べる	Ⅳ-5	認知（解釈）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
10	11/20	中園	食事と栄養指導（国民の栄養状態の問題点考察）	国民健康・栄養調査の結果より、国民の栄養状態の問題点を考察する。	国民健康・栄養調査の概要を説明する	Ⅲ-5	認知（解釈）	厚生労働省HP：国民健康・栄養調査報告結果 を参照	1.5
					栄養評価を行うための食事調査の方法を述べる	Ⅳ-3	認知（解釈）		
11	11/27	中園	食事と栄養指導（生活習慣病を予防するための食事）	生活習慣病を予防するための食事を理解する。	国民の栄養素等摂取状況と生活習慣病との関連を述べる	Ⅳ-5	認知（解釈）	農林水産省HP：「食事バランスガイド」について を参照	1.5
					生活習慣病を予防するための食事について食事バランスガイドを使って説明する	Ⅳ-5	認知（解釈）		
12	12/4	中園	運動・ストレス・環境と栄養管理（運動時の食事摂取量）	運動時の食事摂取量について理解する	運動時の栄養管理について述べる	Ⅲ-5	認知（解釈）	スタンダード人間栄養学「応用栄養学」の運動・ストレス・環境と栄養管理に関する部分	1.5
13	12/7	大星	栄養と生活習慣病	臨床栄養学の基本と、主要な生活習慣病の栄養学的問題を理解する	栄養欠乏の臨床的問題を説明する	Ⅲ-5	認知（解釈）	3年前期「生体調節医学」の中の「代謝栄養疾患」に関する講義内容 3年後期「循環・呼吸・腎臓病学」の「高血圧」に関する講義内容	1.5
					栄養過多の臨床的問題点を述べる	Ⅲ-5	認知（解釈）		
					高血圧症の治療におけるライフスタイルの是正の重要性を説明する	Ⅳ-4	認知（想起）		
14	12/14	大星	栄養と生活習慣病	臨床栄養学の基本と、主要な生活習慣病の栄養学的問題を理解する	糖尿病における食事療法を説明する	Ⅳ-5	認知（解釈）	3年前期「生体調節医学」の中の「代謝栄養疾患」に関する講義内容	1.5
					脂質異常症の食事療法を述べる	Ⅳ-5	認知（解釈）		
					生活習慣病の一般療法における共通点を列挙する	Ⅳ-5	認知（解釈）		
15	12/14	中園	運動・ストレス・環境と栄養管理（ストレス負荷や異常環境下で必要な栄養）	ストレス負荷や異常環境下で必要な栄養について理解する	ストレス管理のための正しい食生活について述べる	Ⅳ-5	認知（解釈）	スタンダード人間栄養学「応用栄養学」の運動・ストレス・環境と栄養管理に関する部分	1.5
					異常環境下における栄養管理について述べる	Ⅳ-5	認知（解釈）		

成績評価方法、GPA（Grade Point Average）の活用について

GPA（Grade Point Average）

各授業科目の評点を5段階評価し（A・B・C・C-・D）、それを4から0の点数（GP: Grade Point）に置き換えて、その点数と単位数を掛け、その総和（GPT: Grade Point Total）を履修単位数の合計で割った平均点

評点	評語	Grade Point (GP)
100点～80点	A	4
79点～70点	B	3
69点～60点	C	2
再試60点	C-	1
59点～0点	D	0

GPAの算出方法

$$\text{GPA} = \text{GPT} \div \text{履修単位数の合計}$$

(GPT = [GP × 単位数] の総和)

実際の計算例

科目名	単位数 (a)	評点	評語	GP(b)	(a × b)
〇〇学講義	1	86	A	4	4
〇〇学講義	2	再試60	C-	1	2
〇〇学演習	2	60	C	2	4
〇〇学実習	3	72	B	3	9
計	8 ^{*1}				19 ^{*2}

$$\text{GPA} = 19(\text{GPT}^{*2}) \div 8 (\text{単位数の合計}^{*1}) = 2.38 \quad (\text{小数第3位四捨五入})$$

対象教科

原則として、進級あるいは卒業により認定された全ての授業科目を対象とする。

ただし、次の授業科目や修得単位等は計算に含めない。

- 1) 基礎教養科目で必要単位数を超えて取得した科目
- 2) 編入学または転入学した際の単位認定科目
- 3) 本学入学前に修得した単位認定科目
- 4) その他教授会で認めた GPA 算出除外科目

GPAの活用目的

- 1) 学生の個別の学習指導に活用

前年度 GPA が2.00未満の学生は、進級するのにかなりの努力が必要な状況にあります。

- 2) 特待生等の選考の参考資料に活用

授 業 要 綱

編集
発行 福岡歯科大学

〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15番1号
電話 092 (801) 0411番 (代)
Fax 092 (801) 0427番